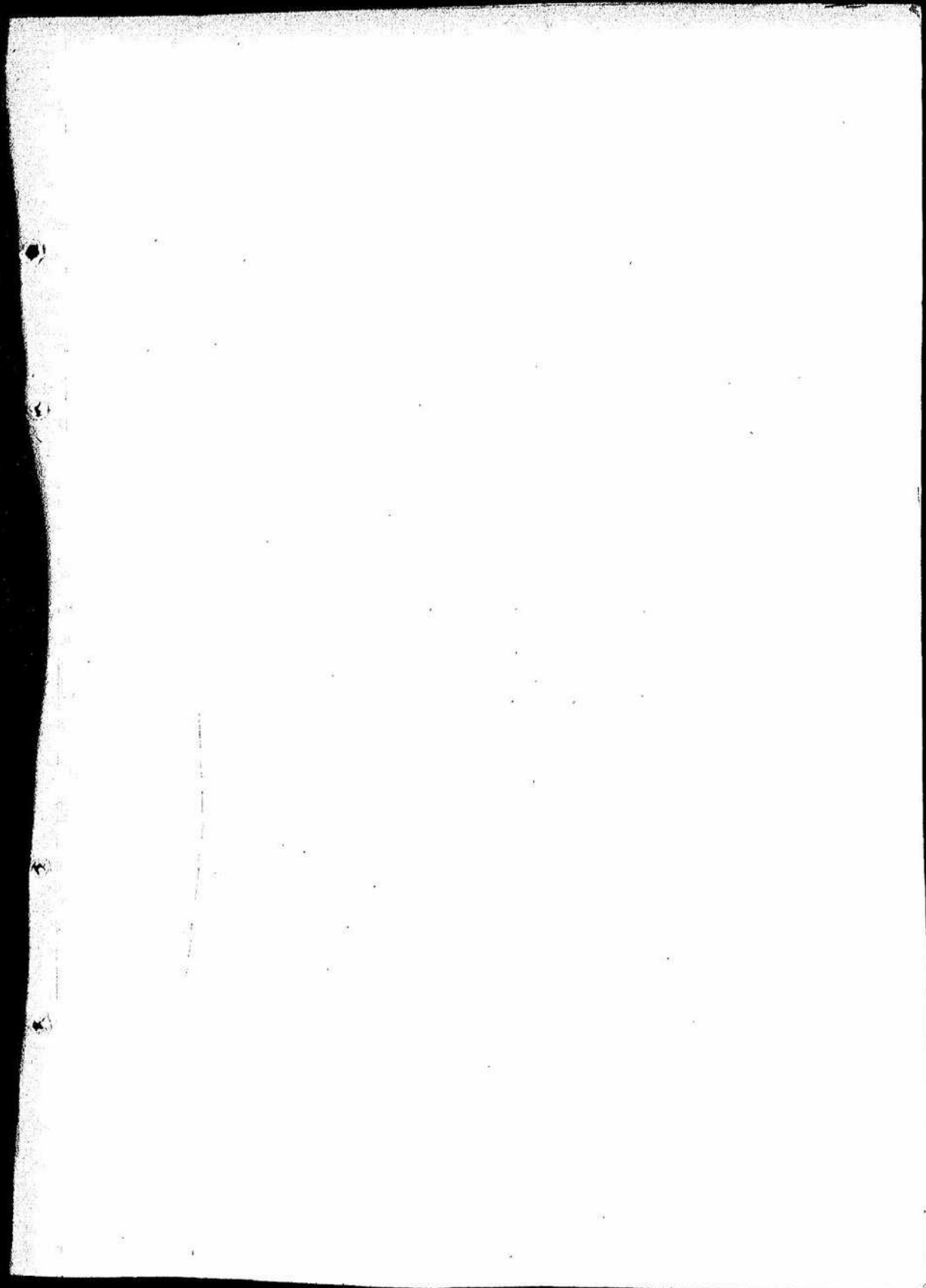




国立公文書館	
分類	○ 青
排架番号	3 A
	15
	17-5



國事警察編

警視廳資料

15057
Sack 21

1



SHIPPING ADVICE# 15057
SACK # 21
ITEM #

国立公文書館	
分類	(返) (占)
配架番号	3 A
	15
	17-5

裏面白紙

警視廳史料

國事警察編

文書課記錄係

極秘

裏面白紙

凡 例

- 一、本書ハ明治二十年井上外交案ヨリ保安條例發布、國會開設、豫戒命令執行、朝鮮出兵マテ澎湃トシテ起レル政治運動ヲ中心トシテノ當廳取締關係ヲ蒐録セルモノナリ
- 二、本書ハ當時本所警察署長タリシ故室田警視ノ手記ニ成ル反古斷片ヨリ蒐集セシモノニシテ蠹蝕シテ保存ニ難ク且ツ密偵ノ進退、機密發ノ關係等所謂秘ニ涉リ文獻トシテ絶對ニ見ルヲ得サルモノナリ

朝鮮出兵

偵候内規取扱

視察人偵候内規改正

豫戒令ハ他ノ囑托ニ不應

丙七秘第八六七號	丙七秘第八二號	丙七秘第八五號	丙七秘第八三號	秘七乙第一〇號	秘七乙第一二號	秘七乙第一四號	丙七秘第九〇號	丙七秘第九一號	同秘第九七號	丙七秘第九五號	丙七秘第九七號	丙七秘第九四號	秘七乙第一〇號	秘七乙第一二號	秘七乙第一四號	丙七秘第八三號	丙七秘第八五號	丙七秘第八二號	丙七秘第八六號
二二八	二二九	二三〇	二三二	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三三	二三〇	二二九	二二八	二二八



國會開設前後ヨリ

韓國出兵ニ至ルマテノ

所謂國事警察

（自明治十九年至明治二十七年七月）

明治十九年五月外務大臣井上馨ハ多年懸案ナリシ外交條約改正ノ第一回會議ヲ開催シ續イテ二十年五月ソノ第二十八回目ニ及ヒシカ偶々該草案ニシテ著シク國權ニ及ホスモノアリ之カ巷間ニ暴露セラレタルニヨリ時論一時ニ沸騰シ政府反抗ノ氣運頓ニ上リ同年七月二十九日遂ニ之カ改正ノ議ヲ中止シタルモ既ニ政府ノ措置ニ對シテ慨然タルモノアル國民ノ公憤ハ收マラス天下漸ク騒然トシ機ニ乘セル政黨各派ハ相率ヒテ内外施政攻撃ノ旗幟ヲ翻シ遂ニ大同團結ヲ組成シテ誓ク天下ニ呼號セリ之ニ依リ豫テ政熱ニ狂奔スルノ士ハ風雲ヲ望ンテ都門ニ蟄集シソノ數二千有餘人ト稱セリ而シテ慷慨決死ヲ誓ヒ悲憤慷慨シテ租稅ノ

1

輕減ヲ叫ヒ三大自由ノ擴張ヲ冀ヒ若クハ外交失敗ノ責任ヲ糺シ或ハ憲法草案ノ條章ニ關シテ云々ノ議ヲ挾ミ上書建白、面會強要、集會結社、政談演說等相踵キ秘密出版ニヨリ民心ヲ煽動シ政界ヲ紛亂セントスルモノアリ名ヲ教育又ハ幻燈會ニ藉リ非公的ニ目的ヲ達成セントスルノ運動逐日激烈トナリ之カ鎮壓竝ニ公安保持ノ爲ニ所謂國事警察ノ活躍亦著シキモノアリ

2

虛無僧ニ扮装スルモノ取締
自由民權ノ聲高ク多年東奔西走ノ極家産漸ク破レ加ヘテ各黨ノ統制素
レテ四分五裂シ意氣昂ラサルノ結果自暴自棄ニ陥リ或ハ福島ニ高田ニ
或ハ静岡ニ加波山ニ飯田ニ等隨所ニ過激ノ暴動ヲ起シテ刑辟ニ觸ル、
者續出スルト共ニ通レテ虛無僧ニ扮装シ各地ヲ徘徊シテ醜激ノ言動ニ
ヨリ民心ヲ煽動スル^虞ナカラサルニ至レリ

連第一號

巡 査 本 部
警 察 署

近來虛無僧ノ扮装ヲ爲シ徘徊スル者有之趣ニ付見認次第制止スヘシ
右相達候事

明治十九年一月十六日

警視總監 三 島 通 庸

新聞紙雜誌類ノ轉賣營業者取締

既ニ新聞條例アリ著作、編纂、印刷、發行等ニ關シ嚴重規定スル所ア

ルモ其記事漸ク過激トナリ安寧秩序ヲ害スルノ虞アルモノ尠カラズ禁
停止又ハ差押へ處分相踵クニ至リ巧ニ之カ執行ヲ逃レントスルモノア
リ

連第三號

明治十九年一月甲第三號布達候ニ付テハ新聞紙雜誌雜報類ノ轉賣營業
者取扱方左ノ通心得ヘシ

- 一 開廢業又ハ族籍住所氏名ノ轉換及ヒ新聞紙ノ種類増減ヲ届出
タルモノアルトキハ第三局第一課へ通知シ尙住所移轉ニ係ルハ
舊住所々轄ノ警察署へ通知スヘシ
- 一 營業人ノ住所氏名ハ簿冊ニ登記シ禁止停止又ハ差押ノ處分上
差問ナキ様取計フヘシ
- 一 若シ無届ノ者アルトキハ之ヲ取調ヘ其情狀ニ依リ相當ノ處分
ヲ爲シ且速ニ届出ノ手續ヲ爲サシム可シ

右相達候事

明治十九年一月二十日



警視總監 三島 庸

甲第三號

新聞紙雜誌雜報類ノ發行所發賣所發賣人ニ非スシテ其轉賣營業ヲ爲サムトスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其新聞紙ノ種類ヲ記シ開業三日前ニ所轄警察署ニ届出可シ其族籍等ヲ轉換シ又ハ新聞ノ種類ヲ増減シ及ヒ廢業シタル時ハ速カニ其旨ヲ届出可シ若シ之ニ違反シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラレ可シ但從前ノ營業者ハ一月十五日限り本文ノ届出ヲ爲ス可シ

明治十九年一月六日

警視總監 三島 庸

5

機密通報

明治七年五月十八日番外達ヲ以テ巡查ハ何事ヲ論セス見聞セル事項ヲ

6

封書ヲ以テ正權大警視ニ申告スヘシト命セリ而シテ其封書ハ正權大警視ノ外他見ヲ許サス次イテ警察ノ機能ハ一端緒ノ發見ニヨリ進捗ス端緒ハ唯日常ノ用意ニアリ故ニ注意報ヲ閱スルコトニヨリ各員ノ職務ニ對スル注意ノ厚薄ヲ知ルヲ得ヘク且ツ若シ六千ノ應員等シク精神ヲ傾注シ各自力感覺ヲ集澁シテ公衆ノ利益ト安寧ノ維持トヲ索メテ止マサレハ警察ノ目的ハ完全ノ極ニ達スヘシトテ明治九年十二月二十六日達第一二二號乃至第一二四號ヲ以テ從前ノ封事上申制ヲ廢シ平常事務ノ申告ヲ獎勵シ異常就中國事犯等隱密神速ヲ要スルモノニ對シテ直ニ上官ニ面述シ或ハ對呈スルヲ妨ケス而シテ局長署長ハ報告ヲ怠ルモノヲ督促スルノ權アルモ之ヲ可否シ又ハ中止セシムルヲ得スト規定セリ

機密通報内則ノ制定

内務省訓令第二一四號

明治十九年五月三日

機密通報内則別紙ノ通改正ス

第一條 凡警察上ノ通報周密注意スヘキハ固ヨリ言テ俟タスト雖モ就中國事又ハ屢造紙幣若ノハ政治ニ關スルモノハ最モ注意シ周密通報スルヲ要ス

第二條 機密通報ハ定期通報臨時通報ノ二種ニ區別ス

第三條 定期通報ハ毎年四回 四月、七月、十月、一月 廳府縣長官ヨリ內務大臣ニ通報スヘシ其事項左ノ如シ

一 政黨集會演說會ニ關スル景況

二 人民ノ動靜

三 法律規則發布若クハ改正ニ依リ實施上ノ效果成績

四 宗教ニ關スル景況

五 以上各項ノ外警察上ニ關スル要件

第四條 臨時通報ハ事ノ緩急ニ依リ電信又ハ郵便ヲ以テ廳府縣長官ヨリ內務大臣ニ申報シ第十項ヲ除クノ外各項ノ區別ニ從ヒ廳府縣長官交互ニ通報スヘシ其事項左ノ如シ

一 國事犯ヲ捕拿シ又ハ其陰謀ヲ探知シタルトキ

二 兇徒聚集若クハ其ノ模様アルトキ

三 演說集會ニ於テ臨監官ニ抵抗暴行シタルトキ

四 政黨政社等ニ異狀アルトキ

五 懇親又ハ請願等ニ托シ異狀ノ結合ヲ爲シ若クハ其模様アルトキ

六 政黨政社ヲ創立シ又ハ隱然結盟シ或ハ解散シタルトキ

右ハ警視禁止ノ言渡ヲ爲シタルトキ

七 演說禁止ノ言渡ヲ爲シタルトキ

八 政治ニ關シ遊說ノ爲旅行スルモノアルトキ

九 政黨社加入又ハ除名等ノ者アルトキ

十 紙幣屢造犯ヲ捕拿シ又ハ探知シタルトキ

右ハ關係廳府縣

十一 外國人ノ內國人ニ對シ又ハ內國人ノ外國人ニ對シ暴行シタルトキ

第五條 前條各項中事重大ナルモノ或ハ一般注意ヲ要シ若クハ參考

トナスヘキモノト認ムルトキハ其時々内務大臣ヨリ廳府縣長官ヘ
内達シ若クハ警保局長ヲシテ之ヲ報告セシムヘシ

第六條 不審ト認ムル者或ハ怪シキ舉動アル者旅行又ハ徘徊スルト
キハ沿道廳府縣通報シ其緊切ト認ムルモノハ偵者ヲ付シ一或ハ沿
道警察署通報一其蹤跡ヲ失ハサルヲ要スヘシ

第七條 機密ニ屬スル文書ハ二重封親展トシ郵便ハ必ス書留タルヘ
シ其電報ハ警察暗號ヲ用フヘシ

第八條 郵便文書ノ封所ハ封鎖又ハ特種ノ方法ヲ以テ嚴禁シ其署名
ヲ記シタル封印ヲ用フヘシ

第九條 前各條ニ記載スル事項ノ外仍ホ必要ト認ムル事アルトキハ
總テ本則ニ準シ處辨スヘシ

9
幻燈會ノ名ヲ替ルモノ、取締

第三局長達 明治十九年七月二十三日

過般來府下各處ニ於テ教育幻燈演說會開設スル聲道々増加ノ傾向有
之右ハ宗教并ニ學術演說會ト同一ニ製表ヲ要シ候ニ付御所轄内ニ於
テ開會候節ハ無洩御通知相成度尤モ是迄御通知相成候向キモ有之候
得共猶ホ爲念此段申進候也

學術并ニ宗教演說會報告ニ關シテハ

第三局長達 明治十九年五月二十九日

本局ニ於テ製表ノ都合有之候條自今學術并ニ宗教演說會開設御通知
ノ節ハ左記ノ項目無遺漏御通知相成度此段及御照會候也

- 一 臨監ヲ爲シタルトキ
- 一 學術會ノ種類(假令ハ法律修身經濟商工等ノ類)
- 一 宗教ノ種類(假令ハ神佛及ヒ耶穌教ノ類)
- 一 司法處分

第三局長達 明治十九年八月二十八日

近來府下諸方ニ於テ幅ニ會員ヲ募リ幻燈會ナル者ヲ開設候處同會
員中ニハ往々舊政黨員モ加盟致居候趣向後該會開設候節ハ會員ノ

勳爵及演説ノ旨趣等御注意御神察相成候様致度此段及御通牒候也

火藥類ノ取締

偶々新韓兩國民ノ我邦人ヲ侮辱セル事件ニ刺激セラレ爆發物ノ力ヲ藉
リ以テ朝鮮事大黨ヲ殪シ獨立黨ヲ擁立シ延イテ現政府ノ組織ヲ變更シ
テ責任内閣制ヲ創立セント企圖セル舊自由黨員大井憲太郎ハ明治十八
年五月其ノ自宅下谷區練堀町三六番地ニ黨員磯山清兵衛、小林樟雄ト
會シ同志數十名ヲ糾合シ同年七月假名ヲ以テ本所區仲ノ郷ニ鍛冶場檢
査證ノ下付ヲ受ケ公然爆發物竝刀劍等ノ戎器ヲ製作シテ之ヲ管下數ヶ
所ニ隱匿スルト共ニ同志數名ハ兇器ヲ以テ民家ニ押入り軍資金ヲ強奪
逃走シタル上逐次爆發物ヲ濫シテ渡鮮セントノ陰謀遂ニ發覺シ一味處
刑ヲ受クルニ至リシカ隨時各地ノ暴動ニ際シ爆發物ヲ使用スルモノア
ルニ鑑ミ嚴重之カ取締ヲ勵行スルニ至レリ

火藥取締規則中改正

勅令第六十七號 明治十九年十月二十日

明治十七年十一月第二十一號布告火藥取締規則中左ノ通改正並除ス

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ
得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲ニスル者ハ所轄
警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用
ニ共スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工
其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類數量竝使用ノ場所ヲ記
シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ
左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

- 小銃用 火藥 三百目 雷管 五百箇
- 船舶設備銃砲用 大砲一門ニ付 火藥五十發分 導火管類七十箇
- 小砲一挺ニ付 火藥百發分 雷管百五十箇
- 烟花製造用 火藥 五貫目
- 坑業土工其他職業用 火藥 二百貫目
- 劇發火藥 三十貫目



坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量並便
用ノ場所等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受クヘシ此
場合ニ於テハ直ニ陸海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クルコトヲ得
第二十條 坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯
藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ揚ケタル距離ヲ二倍シ第十五
條ニ據リ管轄廳東京府ハニ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上
ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離
ヲ指定スルコトアルヘシ

第二十八條中又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シノ十五字ヲ削除ス

刑餘者ノ爲ニ建碑祭典ヲ爲ス者處分

内務省訓令無號

死刑ノ處斷ヲ受ケ或ハ未タ處斷ニ至ラスシテ死亡セシ者ノ爲ニ誌銘
傳眞其他翼實ノ意ヲ包含セルコトヲ勒シテ碑表ヲ建設セントスルト

キハ墓地及埋葬取締規則ニ依リ許可ス可ラサルニ論ナシト雖モ此輩
ノ爲ニ公衆ヲ集メ或ハ公衆ニ顯示スヘキノ方法ヲ以テ祭典ヲ執行シ
若クハ建碑祭典等ノ爲ニ資金募集ノ廣告ヲ爲スカ如キハ亦治安ニ關
係スヘキヲ以テ詳ニ其狀況ヲ按シ治安ヲ妨害スルノ虞アルモノハ直
ニ之ヲ停止スヘシ

右訓令ス

明治十九年七月十二日

内務大臣伯爵 山縣有朋

蓋シ并上外交條約改正案延期ニヨリ在野ノ志士之ヲ議シテ紛々擾々壯
年志士ノ運動漸ク活潑トナリ同志ヲ糾合シテ往年事破レテ刑場ノ露ト
消エシ同志ノ靈魂ヲ慰ムト稱シ大法堂ヲ催シ悲慟痛哭ノ間ニ會衆ヲ感
奮セシムルモノ輩出セルニヨル

警視廳員ノ海防費獻金

詔勅

朕惟フニ立國ノ務ニ於テ防海ノ備一日モ緩クスヘカラス而國庫歲入未タ遽カニ其鉅費ヲ辨シ易カラス 朕之カ爲ニ軫念シ茲ニ宮禁ノ備餘三十萬圓ヲ出シ聊其費ヲ助ク閣臣旨ヲ體セヨ

明治二十年三月十四日

奉勅

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文

依ツテ四月二日警視廳監以下廳員一同左ノ金額ヲ豫出シ海防費ニ充テラレンコトヲ請フ同日 允許セラル

警視廳 總監	金 千 圓
廳中奏任官四十五名	金 千 圓
同判任官七百五十三名	金 二 千 圓
巡警看守傭員三千八百十名	金 千 圓

合計

金五千圓

隱密

明治七年一月二十七日假定警視廳章程第二條第四

國事犯ヲ隱密中ニ探索警防スル事

同九年十月二十六日警視廳連第百二十三號注意報規則設立ノ大意竝報告事目ノ概略ヲ定メ告諭セル中

イカニ精良剛銳ナル警察ノ能力アルモコレヲ施サントスルニ踰緒ナケレハ又如何スヘキナシ而シテイカナル機智アルモノト雖モ常ニ職力ヲ働カシ精神ヲ注カサレハ又得ルモノナカルヘシ故ニ其端緒ヲ得ルハ唯日常ノ用意ニアル耳是則注意報ノ起ル所以ニシテ又以テ各員意ヲ職務ニ用フルノ厚薄ヲ見ルヘキ也凡ソ人ノ知覺ニ敏ト不敏トノ同シカラサルアリト雖モ六千餘員ノ精神ヲ傾注シ各自ノ感覺スルモノヲ聚湊シ以テ公衆ノ利益ヲ謀リ之ヲシテ安寧満足ノ地位ニ置カン



コトヲ索メテ止マサル時ハ假令其佳境ニ達セサルモ必スヤ近カラ
 コトヲ信ス夫レ世上ノ事物ニ於テ警察ノ力注カサルナシト雖モ其結
 果タルヤ保安、増安、豫防、防止、保益、増益ノ六ツノモノニ歸ス
 而シテ其事項ヲ大別セハ國事、權利、衛生、風俗、司法ノ外ニ出ス
 其小目ニ至テハ殆ト涯際ナシト雖モ其概略ヲ掲クル左ノ如シ
 國事 國安ニ關スル事
 此ヲ小別スレハ

- 一 乘輿及ヒ皇族ニ關スル事
- 一 百官有司總テ官途ニ關スル事
- 一 陰謀未發
- 一 都下動靜景況
- 一 政治上ノ動靜
- 一 諸聚會
- 一 國安ニ關スル未發
- 一 國計ニ關スル得失

- 一 國家ノ榮譽得失
 - 一 官ト人民トノ爭訟
 - 一 新聞紙
 - 一 學校
 - 一 官園公會存續保護
- (以下省略)

而シテ所謂六千餘頁以外ノ隱密、賾者又ハ高等探偵ハ當課長又ハ署長
 ノ專屬機密ニ係リ何等之ニ對スル具體的文獻ヲ會テ發見シ得サリシモ
 ノナリ

國事探偵費渡方日限

第三局 明治二十年二月十五日

國事探偵費渡方日限是迄一定不致區々相成居候處自今每月十七日(休
 日ナレバ翌日)ト相定候條向日後受取方從申出相成候様致度此段據メ

及御通知置候也

集會取締

集會取締ニ關スル警察官ノ心得ハ明治十一年十二月四日内務省達ヲ以テ左ノ如ク制定セリ

第一 政談講學ヲ目的トスル演說論議ノ會場ニハ警察官之ニ監臨シ演說若クハ論議ノ要旨ヲ聽取可致候事

其匪法ノ集會ニ非ル者ハ妄ニ抑制シテ人民ノ交際ヲ妨ク不可候事

第二 上報セスシテ集會シ其隱密ノ徒黨タル證據ヲ得若クハ演說論議ノ國安ヲ妨害スト認定スルトキハ警察官直ニ會場ヲ停止シ長官ニ具狀可致候事

第三 上報書ニシテ其趣意法ニ乖キ及ヒ國安ヲ妨害スヘク或ハ上報書ノ主名中以前集會ノ禁止ヲ受ケ若クハ停止中ニアル人員アラハ之ヲ停止シテ長官ニ具狀可致候事

警視長官以上ノ具狀ヲ得ルトキハ其犯狀ニ從ヒ本年太政官第二十九號達ニ依リ禁止ノ命ヲ可下候其刑法ニ觸ル、モノハ法司ニ交付可致候事

第四 演說若クハ文書若クハ其他ノ方法ヲ以テ人民ヲ教唆煽動シテ

國法ヲ怨忌セシメ或ハ官吏ヲ嫉視セシメ或ハ政府ヲ怨望セシムル者及ヒ秘密ノ誓約ヲ爲シ或ハ強訴ヲ企圖シ或ハ人ヲ嚙聚スル者ハ

集會ノ國安ヲ妨害スルモノト認定可致候事

右相達候事

右ニ依リ同月九日甲第六十四號ヲ以テ左ノ集會規則ヲ制定セリ

政談講學ヲ以テ目的トシ演說若クハ論議スル會場ヲ開設セムトスル者ハ會主及ヒ會員三人以上運名ヲ以テ會合ノ趣意會場及ヒ定日時並ニ會主及ヒ會員三人以上ノ住居屬籍氏名ヲ記載上報セシムヘシ

同二十五日第七十九號ハ右集會規則ニ違背スル者ハ其集會ヲ解散シ其事由ヲ具狀セシムル事トセリ

次イテ十三年四月五日太政官布告ヲ以テ集會條例ヲ定ム

非政談集會ハ届出ニ不及

第三局 明治二十年三月三十日

政談ニ非サル演説開會ノ節ハ是迄會主ヨリ演題等爲差出御通知相成居候處右ハ會主ヨリ届出ル分ハ敢テ御却下ニ不及候得共自今其ノ届出ヲ爲サ、ルモ不御ニ置キ左ノ個條ハ平素觀察ノ方法ニ依リ御内開ノ上御通知相成御致度此段及御照會候也

- 一 演説會度數
 - 一 會場及開會年月日
 - 一 聽衆ノ概數
 - 一 傍聽料ノ有無
 - 一 演説會全體ノ景況
- (例ヘハ政談ニ涉ルヤ否又ハ聽衆ノ感覺如何ノ類)

政談演説取扱内規改正

内訓第五號

警察署

政談演説取扱内規左ノ通之ヲ定メ明治十三年四月第三十八號十四年二月十七日番外同年三月第三十號同年四月六日番外其他之ニ關スル從前ノ達等ハ都テ廢止ス

明治二十年四月二十七日

警視總監 三島通庸

政談演説會取扱内規

第一條 政談演説開會ノ届書ヲ出ス者アルトキハ其論旨ヲ審査シ意見ヲ付シ開會前日午前第九時迄ニ第三局長ニ送致シ協議ヲ爲スヘシ
前項協議済ノ上指令ヲ爲ストキハ左ノ書式ニ據ルヘシ
書面ノ趣(認可ス)(認可セス)(何々ノ演題ヲ除クノ外認可ス)

何 警察署長

年 月 日

官 氏 名 印

第二條 前條ノ手續ニ依リ指令ヲ爲シタルトキハ速ニ左ノ事項ヲ届出



ヘシ但全部若クハ一二ノ演題ニ付不認可ノ場合ハ其理由ヲ附記スヘシ

一 會主ノ屬籍住所氏名年齢

二 開會ノ場所及年月日時

三 演題及ヒ演者ノ屬籍住所氏名年齢

第三條 開會ノ延期若クハ取消ヲ届出タルトキハ速ニ届出ヘシ

第四條 會場ニ監臨スヘキ者左ノ如シ

一 開會地所轄ノ警察署長若クハ同署ノ警部 一人

二 警察本署外勤部ノ警部 一人

第五條 所轄警察署ニ於テハ警部補巡查ノ内二名ヲ撰テ書記トシ會

場ニ臨テ演説ノ大要ヲ筆記セシムヘシ

第六條 警察署長ニ於テ監臨ヲ要セスト思料シタルトキハ第三局長

ニ協議スヘシ但第三局長ニ於テ本文ノ場合アルトキハ之ヲ警察署

長ニ通知スルコトアルヘシ

第七條 監臨セサル場合ト雖モ開會ノ景況ニ依リ警察署ニ於テ必要

ト認ムルトキハ直ニ臨場シ其旨第三局ニ急報スヘシ

第八條 中止解散ヲ命シタルトキ其場所若クハ他ノ場所ニ於テ學術

演説其他種々ノ名義ニ托シ前記ノ目的ヲ遂ケントスルノ狀況アル

トキハ仍ホ其場ニ監臨スヘシ但其場所他ノ警察署ノ所轄ニ係ルト

キハ其旨該署ニ急報スヘシ

第九條 警察署ニ於テ監臨ヲ終リタルトキハ左ニ掲クル第五項第六

項ハ二日以内ニ具申シ其他ハ三日以内ニ届出ヘシ

一 演説大要筆記

二 聽衆ノ概數及ヒ動靜

三 聽衆ノ種類 老幼男女又ハ官吏
僧侶農工商等ノ類

四 會場全體ノ景況

五 中止解散ヲ命シタルトキハ其理由 言論ニ起因スルモノハ
其筆記ヲ添ルヲ要ス

六 前項ノ場合ニ於テ演説ヲ禁止スヘキ見込ノ者アルトキハ其意

見

七 聽衆中違犯者アリタルトキハ其屬籍住所氏名年齢及ヒ犯狀

八 中止解散若クハ演者ノ缺席ニ依リ演説セサル者アルトキハ其
後題及演者ノ氏名

演説會監臨

警察署長

政談演説會監臨ノ義ハ該會取扱内規第四條ニ依ルヘシト雖モ其景況
ニ依リ豫メ治安妨害ノ虞アリト思料スル場合ハ必ス署長ニ於テ監臨
スヘシ

右内訓ス

明治二十年四月二十七日

警視總監 三島 通 庸

機密通信内規ノ制定

内訓番外

機密通信内規別紙之通相定ム

右内訓ス

明治二十年五月二十日

警視總監 三島 通 庸

第一條 警察通報ノ緊要ナル固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ就中國事警察
ニ關スルモノハ最モ周到迅速ナルヲ要ス

第二條 凡ソ國事警察ニ關スル事項ハ本則第三條第五條テ除クノ外
總監ノ指揮アルニ非サレハ着手スルヲ得ス故ニ些細ノ事項ト雖モ
其傳達アルカ或ハ端緒ヲ得タルトキハ迅速之レヲ總監ニ内申指揮
ヲ乞フヘシ

第三條 國事警察ニ依リ視察ヲ要スル者所轄内ニ寄寓スルトキ(第
三局長ヨリ通知アリタルトキモ同シ)ハ踪跡ヲ失セサル様注意シ
直ニ其氏名ヲ第三局長ニ内報スヘシ

第四條 視察中ノ者他管内ニ轉スルトキハ直ニ第三局長ニ内報シ尙
ホ移轉地所轄ノ警察署ヘ其旨急報スヘシ

第五條 前項ノ報ヲ得タル署長ハ直ニ其踪跡ヲ失セサル様密ニ手配

シ之レヲ第三局長ニ内報スヘシ

第六條 署長ハ内使スル所ノ密偵者ヲ府外へ派出セシムル事ヲ得ス
若シ其關係ノ事項繼續ノ如何ニヨリ止ムヲ得サル場合アルトキハ
第三局長ト協議總監ノ指揮ヲ乞フヘシ

第七條 本則第二條ハ便宜第三局長ニ内報又ハ協議スルコトヲ得

集會取締ニ關スル山縣内務大臣訓令

明治二十年九月二十日

曩ニ民間ノ論者各黨ヲ植エ社ヲ結ヒ盛ニ政論ヲ首唱セシヨリ爾來人心一變シ徒ニ新ヲ慕ヒ奇ヲ好ム彼自由說ヲ唱フル者ノ如キハ相率ヘテ急噪危激ニ流レ其ノ勢ノ奔瀉スル所往々名ヲ慰勞、慰勞、名譽表彰及運動會等ニ假リテ多衆ヲ集合シ不穩ノ字句ヲ掲記シタル旗幟ヲ樹立シ誹毀ノ意ヲ寓シタル繪圖等ヲ以テ會場ヲ裝飾シ奇異ノ形裝粗暴ノ舉動ヲ爲シ以テ示威抗官ノ態ヲ表シ故サラニ人心ヲ煽動セント

スルニ至ル右ハ尋常ノ集會ヲ以テ視ル可カラサルモノニ付表裏嚴密ノ注意ヲ施シ其ノ計畫スル所果シテ不穩ノ意ニ出テ其ノ行爲治安ヲ害スルモノト認ムルトキハ豫メ之ヲ差止メ又ハ公然監視シ若クハ隱密ニ觀察ヲ加ヘ其ノ情況ニ依テハ臨機ノ處分ヲ以テ之レヲ防遏スル等取締方遺漏ナキ様措置セララルヘシ

右訓令ス

施政ニ關スル伊藤總理大臣訓示

明治二十年九月二十八日

維新以來内治外政百端織ルカ如シ而シテ一ニ皆國本ヲ鞏固ニシ國權ヲ振張シ人民ノ幸福ヲ進メ永遠ノ基業ヲ建立シ後世ニ繼クヘキノ遺緒ヲ貽サムトスルヲ目的トシ以テ一定ノ進路ヲ取ルニ非サルハナシ是レ我カ 天皇陛下ノ夙夜ニ 聖慮ヲ焦勞シ中外ノ臣僚ヲシテ奉體服膺シテ二三ナキヲ期シ以テ今日ニ至ラシメシ所ナリ

願ミルニ八年四月始メテ漸次立憲政體ヲ建ルノ 詔旨ヲ發セラレ元
 老院及大審院ヲ設ク十二年ニ始メテ府縣會ヲ開ク十四年十月ノ 詔
 二十三年ヲ期シ議會ヲ開クノ旨ヲ宣言シ十八年二月官制ヲ定ム之レ
 皆廟謨一定シ漸ク以テ歩ヲ進メ以テ全局ノ成果ヲ期スルモノナリ今
 ヤ 聖意軌健積久愈々堅ク中興ノ業今日ニ在ラス實ニ山ヲ造ルノ一
 篲ニ虧クヘカラサルノ時ニ當レリ而シテ民間或ハ 皇猷ノ在ル所ヲ
 詳ニセス地方士民危疑ノ念ノ爲ニ其ノ方嚮ヲ誤ルカ如キコトアラハ
 大業ノ累ヲ貽スモ亦鮮少ナリトセス各員ニ告ルニ内外政圖ノ標準ヲ
 以テシ竝ニ各員ノ爲ニ施治ノ針路ヲ指示セントス

第一 我カ立憲政體ノ大義ハ將ニ立國ノ源ニ基キ 祖宗ノ遺訓ニ遵
 由シ時ノ宜ヲ酌ミ臣民ノ權利ヲ優重シテ其ノ公義ヲ伸暢セムトス蓋
 シ皆 聖明ノ親シク裁酌ヲ降シ以テ一國臣民ニ惠賜スル所タラサル
 ハナシ今 祖宗以來國體ノ尊嚴ナルト八年四月及十四年十月ノ
 聖詔トテ欽仰セハ蓋シ多議ヲ待タスシテ其ノ要領ヲ得ルニ難カラサ
 ルヘシ惟フニ各國ニ在テ各其ノ沿革ノ事蹟ニ由リ取ル所ノ軌轍相同

シカラス從ツテ各種ノ主義互ニ流派ヲ別チ未タ歸一スル所アラス學
 說ヲ講スル者亦各意見ヲ持シ敷衍皇張シテ互ニ相讓步セス皆一ノ理
 趣意象アリテ以テ世人ノ視聽ヲ聳動スルニ足ラサルハナシ而シテ其
 ノ間理論相投スルノ徒漸ク團結ヲ爲シ互相衝磨スルノ現象ヲ呈スル
 コトヲ免レサルハ之レ亦各國往々見ル所ノ情勢ナリ抑々我國ニ於テ
 上 祖宗ノ神器ヲ永遠不侵ノ地ニ置キ 皇室ノ乾綱ヲ維持シ下臣
 民ニ向ツテ代議ノ權利ヲ附與セントスルハ之レ 神祖以來國體ノ大
 事ニシテ 皇宗繼述ノ宏謨ニ係ル而シテ臣民何人カ敢テ之ヲ私議ス
 ルコトヲ得ンヤ今ノ時ニ當リ憲法發布ノ前或ハ後ニ於テ敢テ憲法ノ
 親裁ヲ異議スルモノアラハ斷シテ言論集會及請願ノ自由ヲ範圍ノ外
 ニ出ル者トシ若シ或ハ之ヲ以テ名トシテ暴動ヲ謀リ又ハ教唆スル者
 アラハ治安ヲ維持スルカ爲ニ臨機必要ナル處分ヲ施スヘシ

第二 行政ノ事ハ社會ノ進歩ト俱ニ相併行セサルコトヲ得ス維新ノ
 後封建ノ制ト共ニ社會ノ景況ヲ一變シ凡ソ人民生活ノ狀態諸般ノ作
 業ハ總テ皆更新ノ途轍ニ就キ殿々トシテ方ニ進路ノ中間ニ在リ其ノ

舊ヲ改メ新ニ就クノ際往々停滯シテ流通セサル者アリ兩々元素相衝突シテ混和ヲ妨クル者アリ而シテ之ヲ監督シ之ヲ保護シ其ノ方嚮ヲ指示シテ徐々ニ其ノ結果ヲ收局セムトス之乃チ行政ノ事今日ニ在リテ非常ノ煩錯ト艱難トヲ見ルノ已ムヲ得サル所以ニシテ而シテ亦方ニ進行ノ中途ニアル者ナリ此ノ時ニ當ツテ行政ノ實ニ當ル者ハ確實ト榮久トヲ以テ目的トシ目前ノ近功ヲ貪ラス人民ト俱ニ敢爲勉強忍耐ノ氣風ヲ振作シ其ノ幸福昌榮ヲ進メ完全獨立不羈不侵ノ國民タルノ能力ヲ後世ニ貽サンコトヲ努ムルノ外豈他アラシテ凡ソ行政ノ事務教育ナリ勸業ナリ土木ナリ經濟ナリ地方自治ノ制ナリ諸般ノ營業ハ總テ皆此ノ一方ニ向ツテ其ノ目的ヲ取り直線前往スルニ外ナラス之レ皆我カ 廟獻一定ノ規模ニシテ先覺諸臣ノ 聖意ヲ遵奉シ其ノ心力ヲ盡シテ經營指劃シテ以テ今日ニ貽シ終局ノ責ニ當ラシムル所ナリ今ニ於テ若シ一時政論ノ紛擾ニ因リ人民ノ心志ヲ動搖スルカ爲ニ或ハ地方ノ事業ヲ弛廢シ二十年計畫ノ行政ヲシテ萎靡敗壞ニ歸セシムルコトヲ免レサルカ如キコトアラハ我カ國民前途ノ運命

ヲ何ノ地ニ置カントスル乎各員ハ實ニ直接ニ牧民ノ任ニ當ルモノナリ最宜ク意ヲ加ヘテ綏撫ノ道ヲ怠ラサルヘシ方ニ今國運進歩ノ時ニ當ツテ内外ノ事百端併セ興ル殊ニ陸海軍務ニ至リテハ立國自衛ノ道ニ於テ無事ノ時ヲ以テ之ヲ一日モ緩慢ニ付スヘカラス願ミテ之ヲ宇内ノ大局ト國家ノ長計ニ問フトキハ我カ國民ハ重荷ヲ負擔シ重苦ヲ忍耐シテ以テ現在及未來ノ爲ニ國光ヲ維持スルコトヲ務メサルコトヲ得ス故ニ人民ヲシテ租稅及兵役ノ二大義務ヲ盡スコトヲ怠ラシメス以テ帝國忠愛ノ臣民タルコトヲ證明セシメ從ツテ支費益々精確ヲ努メ無用ヲ省イテ有用ニ就キ富源ヲ塞カスシテ以テ要需ノ急ニ應スルハ即チ我カ政府ノ取ランコトヲ嚴フノ針砭ナリ各員宜シク此ノ意ヲ體シテ人民ノ爲ニ正當ノ方向ヲ指導スルコトヲ誤ラサルヘク亦宜シク意ヲ加ヘテ休養ノ道ヲ侵害セサルコトヲ勉ムヘキナリ

第三 四年岩倉大使ヲ派遣セラレシ以來我カ條約改正ノ目的ハ一定シテ動カス屢々時機ヲ以テ結果ヲ得ンコトヲ試ミタリ幾ニ訂監各條

ト各委員ヲ命シ商議セシモ未タ局ヲ結フニ至ラスシテ我カ政府ヨリ延期ヲ宣告シタルハ不幸ニシテ彼我所見未タ一致ノ點ニ歸セサル者アルニ由ル蓋シ條約ノ事ハ國ノ内外ニ於テ重要ノ關係ヲ有スルヲ以テ政府ハ之ヲ反覆慎重シ以テ將來國運ノ爲ニ追フヘカラサルノ悔ヲ遺スコトヲ避ケサルヘカラス但シ現行治外法權ノ約款ヲ改メテ新ニ列國ノ間ニ平衡ノ交際ヲ締ヒ彼我ノ便益ヲ増進セントスルノ目的ニ至リテハ仍一定不變ノ軌道ヲ執リ而シテ將來ニ之ヲ遂行セントスルハ偏ニ我カ國行治法律ノ違抄完成ニ倚願セサルヲ得ス之レ即チ前後緩急ノ間疎縱宜シキニ從フノ已ムヲ得サルニ出ル者ナリ若シ乃チ外交ノ事ヲ以テ之ヲ人氏ノ公議ニ附セントスルノ說アルニ至リテハ凡ソ立憲王國ニ於テ斷シテ取ラサル所ナリ蓋シ兵馬及交際ノ大權ハ皆帝王ノ躬親カラ總攬スル所ニシテ場合ヲ除ク外肯テ之ヲ臣民ノ公議ニ謀ルモノニ非ス若シ宣戰講和盟約ノ權ヲ舉テ之ヲ公衆ニ委スルカ如キコトアラハ帝王主權ノ存スル所棄シテ何處ニカ在ル乎之レ即チ我カ國立憲ノ主義ニ於テ斷シテ之ヲ拒否セサルコトヲ得ス之レ亦各員ノ宜シク之ヲ體知シテ人民ノ爲

ニ方嚮ヲ指示スヘキ所ナリ

其ノ他政府ハ總テ 聖詔ニ欽遵シ凡ソ立憲設備ノ要務ニ屬スル者ハ逐次舉行スルコトヲ怠ラス百般ノ事益々整肅着實ノ路ニ就キ以テ行政ノ機關ヲシテ弛緩敗壞ノ弊失ナカラシムコトヲ期セントス各員ニ在リテモ亦必ス 聖明ノ 聖旨ヲ奉體シ從前既定ノ針路ヲ誤ラス始メアリ終リアリ以テ分憂ノ責ニ對ヘ以テ中興ノ大業ヲ垂成ノ際ニ翼贊スルノ光榮ヲ完フスルコトヲ怠ラサルヘカラス

向 山縣內務大臣訓示

明治二十年九月二十九日

維新以來數回ノ詔勅ヲ發セラレ廟謨ノ定マル所ヲ指示セラレタリ然ルニ尙其ノ趣旨ヲ疑ナラシムル爲昨日總理大臣ヨリ訓示ヲ發シタレハ各位良ク其意ヲ體知シ之ヲ實際ニ施行スルニ臨ミ更ニ 聖旨ト齟齬スル所ナカルヘキハ本大臣ノ信スル所ナリ 尙中憲法ノ項ニ至リテハ最モ

各意ノ熟慮ヲ要セサルヲ得ス抑々我國憲法ノ親裁ニ出テサル可カラサルハ既ニ明治十四年ヨリ勅諭ニ由リテ定マレリ然ルニ世ノ事ヲ好ム者動モスレハ舜ヲ外國國約ノ說ニ假リ我カ國體ノ本源ニ得セズ妄リニ異議容喙スル者アルハ獨リ我カ國體ヲ傷ツクルノミナラス無事ノ人民ヲシテ相延イテ不測ノ禍坑ニ陥ラシメンニ至ル是レ前勅ノ所謂故ヲニ事變ヲ煽スルノ徒ニシテ國民ノ義務ヲ紊ルモノト謂フヘキナリ自今新聞紙ニ演說ニ公然憲法ノ親裁ヲ異議シ即チ國約憲法ヲ主張シ以テ親裁ノ威重ヲ損傷スル者アラハ其ノ徒ノ何タルヲ問ハス新聞條例第十四條第十五條第三十七條及集會條例第六條第十八條ニ照シテ之カ處分ヲ爲シ又ハ處分ヲ上請スヘシ其ノ請願建白ニ出ル者ハ之ヲ拒却スヘシ此レ皆禍害ヲ未發ニ防制シ國家ノ治安ヲ保持スル爲ニ已ム可カラサル必要ノ處分ナリトス但シ單ニ學理ヲ推シテ汎ク憲法ヲ論議スル者ノ如キハ前段親裁ヲ異議スル者ノ例ニ在ラスト雖モ若シ或ハ學理ヲ推シテ立論スルモノ其ノ實迂曲ノ辯ヲ舞ハシ暗ニ憲法ノ主義ニ容喙シ世人ヲ教唆スルニ涉ルコトヲ認定スヘキ證據アル者ハ仍ホ防制處分ノ範圍ノ内ニ在ルヘキモノトス此區別ヲ判明シテ之ヲ取捨スルニ至ツテ其局ニ當ル者操縱其ノ機ヲ得寬嚴其ノ宜シキヲ矢ハス錯誤ノ弊ナカラシムヘキハ尤モ各意ノ注意アラントテ要ス若シ萬一憲法上ノ異議ヲ以テ内亂ヲ煽動スル者アラハ迅速上申シテ警察上必要ナル處分ヲ施シ以テ之ヲ鎮壓スヘク或ハ已ムヲ得サル急迫ノ場合ニ於テハ施行ノ後ニ上申スルコトヲ妨ケス而シテ其ノ犯者ヲ逮捕シ刑法ニ依リ之ヲ科罰スルコトヲ求ムルハ更ニ司法ノ處分ニ由ルヘキモノトス

屋外集會取締ノ制定

警察令第二十號

屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催シ又ハ多衆列伍運動ヲ爲ス者ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ會主又ハ幹事等ヲ定メ會同ノ場所通行スヘキ線路并ニ年月日ヲ詳記シ會向三日前ニ其會主又ハ幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出認可ヲ受ク可シ但官立公立學校ノ舉行ニ係ルモノ又ハ婚葬式

等従前ノ慣行ニ依ルモノハ此限ニ在ラス
 前項ノ規程ニ違フ者ハ會主又ハ幹事若シ會主幹事ヲ定メサルトキハ
 會員ヲ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上壹圓九十五錢
 以下ノ科料ニ處ス

明治二十年十一月十日

警視總監子爵 三島 通庸

保安條例ノ發布

警視廳史稿ニ曰ク

是ヨリ先キ高知縣士族片岡健吉宮地茂春等其黨ト謀リ現内閣ヲ傾動
 セント欲シ言論集會出版ノ自由及ヒ地租減輕等ノ諸願ヲ以テ口實ト
 ナシ縣民ヲ煽動シ封事ヲ携ヘテ上京シ之ヲ内閣ニ呈シ且言論集會出
 版ノ自由ヲ得ヘキト地租ノ減セサル可ラサルトヲ以テ天下ニ號呼ス
 各地方并競好名ノ徒蜂起シテ之ニ應シ先ヲ爭フテ健吉等ノ黨ニ倣ヒ
 陸續相提携シテ都下ニ烏集シ或ハ元老院ニ建白シ或ハ大臣ノ門ヲ叩

イテ執奏ヲ促シ若クハ其非ヲ擧ケテ辭職ヲ勸告シ傍ラ集會ニ濫リニ
 危激ノ言論ヲ爲シテ人心ヲ鼓舞シ力メテ上下ノ間隔ヲ謀ル又其率ユ
 ル所無賴壯年ノ輩ヲ指駭シテ大臣ヲ脅迫セシメ或ハ之ヲ道ニ要シテ
 暴行ヲ加ヘ又ハ兇器ヲ携ヘ公園ニ屯集シテ虛威ヲ示シ偶々警察官ノ
 之ヲ制スルアレハ之ニ暴行ヲ加フル等粗暴忌激一ニシテ足ラス其隱
 行詭秘ニシテ測ル可ラサルモノアリ故ニ飛語アリ此輩大事ヲ企ル所
 アリト府下物論雜々人心恟然定マラス云々
 明治二十年十二月二十五日保安條例ヲ制定ス

保安條例

勅令第六十七號

明治二十年十二月二十五日

保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年
 以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教

唆者ハ二等ヲ加フ

内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯絡通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違反スル者罰則前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帯セシメタル者又ハ各自ニ携帯シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ル、コトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者

ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限り退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄留又ハ任居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ附ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限り期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四 旅人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

其第七條ニ發布ノ日ヨリ施行ストアルニヨリ二十六日府下各警察署半數ノ巡査カ芝公園内彌生社ノ忘年會ニ參集宴闋ナル午後三時俄ニ總員引揚ヲ命シ且ツ莚番巡査亦全部召集シテ部署ヲ定メ午後出勤セシム同夜ヨリ二十八日ニ至ル迄退去ヲ命セシ者總計五百七十人寄寓者ハ二

十四時間内ニ任居者ハ同月三十一日限り退去ヲ命ス而シテ此命令ハ巡査二人ツ、ソノ住居ニ出張シ申渡シニ應スル者ハ其巡査附添ヒテ新橋上野兩停車場若クハ品川新宿板橋千住等へ送り出シ其後影ヲ見届ケタル後直ニ歸着報告セシメ異議ヲ唱フル者ハ直ニ警察署ニ拘引ス

本條例ニ觸レタル重ナルモノ左ノ如シ(富山房發兌 明治政史ニヨル)

三年

二年半

星 林 中 島 尾 片 竹 中 吉 坂 横 杯
 有 信 仲 本 崎 岡 内 江 田 正 崎 山
 造 行 道 雄 吉 網 介 春 斌 吉 明
 享



一年

一年半

二年

茨城人 長崎人 熊本人 兵庫人 高知人 同 同 新潟人 山梨人 高知人 廣島人 長崎人 藤島人 千葉人 茨城人 千葉人 岩手人

同 同 高知人 山形人 福島人 新潟人 京都人 岩手人 高知人 福島人 新潟人 福島人 宮城人 千葉人 京都人

森方 貞星 赤部 宮部 前高 西瀧 八木原 今村 神山 鳴本 南波 久米 早川 三輪 高野 宇野 山田 山田

川島 和田 山田 楠目 重野 河宿 加藤 植藤 伊藤 西山 目黒 八木原 吉田 草刈 齋藤 福井 富田 山際

陸至 至龍 龍政 政厚 厚馬 馬殿 殿治 治長 長亮 亮一郎 一郎發 發行 弘行 行彌 彌路 路三 三助 助吉 吉治

烈之助 稻積 泰造 馬太郎 謙次郎 仲衛 貞監 貞幹 圭介 志澄 真重 繁社 升造 親明 自治夫 孝治 精策 七司



新聞紙條例改正

勅令第七十五號

明治二十年十二月二十八日

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスルモノハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ

發行地ノ管轄廳東京府ハヲ經由シテ内務省ニ届出ツヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 題號

二 記載ノ種類

三 發行ノ時期

四 發行所及印刷所

五 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セ

ントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルト

キハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以

内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテ

ハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過

キテ發行セザルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十才以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人

トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳東京府ハニ

納ムヘシ

- 一 東京ニ於テハ千圓
 - 一 京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
 - 一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
 - 一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額
- 保證金ハ時價ニ準ンタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得
- 學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス
- 第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス
- 第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ
- 第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名、發行所

- ヲ記載スヘシ
- 發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スルモノハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム
- 第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳東京府ハ及管轄地方裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ
- 第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求テ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得
- 正誤辨駁ハ原文ト向號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
- 正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、トキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス
- 第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ

新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原

告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ是ヲ履行ストキハ刑法微收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄東京府ハ警視廳ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地

方長官ニ於テ其發行ヲ禁止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條

第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但許稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰金ノ額同シ

第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年

以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

出版條例ノ改正

勅令第七十六號 明治二十年十二月二十八日

出版條例

第一條 凡ソ機械舍密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スルモノヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技術ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ算定シ得ヘキ日數ヲ除キ十日以前製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ヘシ

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條 出版届ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出ヘ

シ但非賣品ハ著作者ノミニテ届出ルコトヲ得著作者又ハ其相續者
 ナ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出ヘシ
 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ届ハ
 其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スヘシ
 第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ
 限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得
 第七條 文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月
 日及印刷所ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名
 住所ヲ併セテ記載スヘシ

第八條 社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證
 書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條 文書圖書ノ册號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ
 手續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續
 ヲ省略スルコトヲ得

第十條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セス

ト雖モ若シ改正増減シ又ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ
 第三條ニ依ルヘシ

第十一條 演説若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演説者
 若クハ講義者ヲ以テ著作者トス

但演説者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテ
 ハ其演説者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演説ハ其講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ
 經ルニ非サレハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版
 權條例ニ依リ其實ニ任セシム

第十二條 數人ノ著作若クハ數人ノ講義演説ヲ編輯シテ一部ノ書ト
 爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文
 ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條 學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書

書ハ其出版届ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳細ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻板及印本ヲ差押ユルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條 軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖書ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條 第三條ノ届出ヲ爲サスシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖書ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條 印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルモノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下

ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條 猥褻ノ文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯
ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下
ノ罰金ニ處ス

第二十六條 文書圖書ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十
五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條 本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ出版シタ
ルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮
又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布スルトキハ發行者
又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ
但其未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

第二十八條 第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及
印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版

及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒
收ス

第二十九條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘ
キ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘ
シ

第三十條 他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編
纂シタル文書圖書ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合
ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノ
ナルトキハ筆記者若クハ編輯者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ
其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ
出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證
明スルコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免レ
ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪

俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十三條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認
 ノラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣
 頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖モ其
 目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

同日勅令第七十七號ハ版權條例ヲ改正セリ

發賣禁止並差押處分内規制定

内訓第六號

新聞紙雜誌發賣禁止並差押處分内規別紙ノ通之ヲ定ム
 但明治十六年七月七日無號内達ハ廢止ス
 右内訓ス

明治二十一年四月三十日

警視總監子爵 三島 庸

(別紙)

新聞紙雜誌發賣禁止並差押處分内規

第一條 新聞紙雜誌發賣頒布禁止ノ訓令アリタルトキハ其發行所並
 發賣所、發賣人、轉賣人ニ就キ現在ノ紙冊ヲ取調封印ノ上之ヲ預
 ケ置キ別紙書式ノ預リ證ヲ徴シ其謄本ヲ第三局へ送致ス可シ但解
 停ノトキハ其封印ヲ解キ預リ證ト共ニ還付スヘシ

第二條 新聞紙雜誌差押ノ訓令アリタルトキハ其發行所、印刷所並
 發賣所、發賣人、轉賣人ニ就キ現在ノ紙冊ヲ差押其員數並場所日
 時氏名等ヲ詳記シ紙冊ト共ニ第三局へ送致スヘシ

第三條 第一條第二條ニ係ル新聞紙雜誌ヲ配達スル者若クハ發賣頒
 布スル者アルトキハ警察署ニ引渡シ前兩條ノ區別ニ從ヒ處分ス可シ
 但第一條ノ場合ニ於テハ其配達主ニ預ケ置クヘシ

第四條 内國ニ於テ發賣頒布ヲ禁止セラレタル外國發行ニ係ル新聞
 紙雜誌ノ差押方ハ第二條ニ從フ可シ

預り證

一 何新聞

何冊枚

右ハ封印ノ上御預ケニ相成正ニ保存仕候也

年月日

何新聞發行人(發賣人)又ハ何々)

何區郡何町何番地

何某

印

何警察署

御中

劇場ヲ政談演說會場ニ貸渡スモ不苦

秘第三三號 明治二十二年一月九日

從來演劇場ヲ政談演說會場トシテ貸渡サ、ル振合ニ有之候處自今ハ
貸渡シ候トモ不苦旨第一局ヨリ其ノ營業人へ申諭候趣通知有之候條

爲御心得此段及御通知候也

演說會取締方一般

明治二十二年三月一日 演說者取締之儀ニ付

折田警視總監ヨリ内務大臣へ請訓

今般憲法發布ニ就テハ警察上ノ取締最モ必要ニシテ其ノ處分ノ如キ各
府縣同一ニ出テサレハ治安上不都合ヲ見ル不尠然ルニ目下憲法解釋ノ
義ニ付テハ別ニ一定ノ解釋シタルモノ無キテ以テ各自ノ意見ヲ表スル
如キハ止ムヲ得スト雖モ進ンテ之ヲ是非スルトキハ警察官ハ臨機適當
ノ處置ヲ爲サ、ルヲ得ス素ヨリ一己私人ノ談話又ハ學理的講究上ヨリ
其ノ條項ニ付意見ヲ吐露スル如キハ警察官ノ干涉スヘカラサル所タリ
ト雖モ若シ演說會等ノ場所ニ於テ公衆ニ對シ例ヘハ我カ國ノ憲法ハ欽
定ニシテ人民ノ興望ニ副ハサルノ趣意カ若クハ民約憲法ヲ希望スルト
ノ主旨ヲ演說スルカ如キハ本邦ノ憲法ニ對シ多少ノ異議ヲ唱ヘ之カ變

更テ企圖スルモノト認メ中止解散ヲ命スルノミナラス其ノ時機ニ依リ法律ヲ適用スルノ意見ニ有之候得共地方一般取締方御諭示ノ義モ可有之ニ付旁爲念一應相伺候條至急御内訓ヲ仰申候也

内務省指令 明治二十二年四月十二日

演說者取締ノ義ニ付本年三月一日機甲第三三號請訓ノ趣ハ明治二十年九月二十九日日本大臣訓示ノ通心得ラルヘシ

政黨競争激甚ニ伴フ措置

秘内訓第四號 明治二十二年四月十日

折田警視總監

内務大臣ヨリ別紙ノ通訓令アリ此旨心得ヘシ

(別紙)

訓第二七七號 明治二十二年四月六日

政黨競争益々熱度ヲ増進スルニ從ヒ甚シキ軋轢ヲ醸シ中ニハ狂暴ノ

徒議員ノ選舉ニ際シテ選舉者ヲ恐嚇シ又ハ議員ニ對シテ暴行ヲ加ヘ或ハ他黨ノ演說ヲ妨害セントシテ演說會場ニ騷擾ヲ試ムル等ノ弊ヲ現出スルニ至レリ右等ノ弊ハ嚴ニ之ヲ防壓スルニ非サレハ勢終ニ底止スル所ナク爲ニ正當ノ權利ヲ伸張スルヲ得ス公衆ノ靜謐亦保持スルコト能ハサルニ至ラン故ニ苟モ險惡ノ手段ヲ以テ他ノ正當ナル權利ヲ妨害シ若クハ妨害セントスルモノアラハ其ノ未タ犯罪ヲ構成スルニ至ラスト雖モ機ニ臨ミ變ニ應シ宜シク之ヲ防制シテ以テ正當ノ權利者ヲ保護スヘキ其ノ政談ノ治安妨害ニ涉ルコトニ注意スルノミナラス會場ノ靜謐ヲ保チ其ノ他諸般ノ取締ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ其取締上ニ就テハ會主及聽衆ノ便宜ヲ助クルコトヲ努ムルヲ要ス左ニ指示スル所ノ條件ハ豫テ其ノ心得モ有之善ニ付特ニ訓令ヲ要セサル儀ニハ候ヘトモ此際猶ホ念ノ爲メ該旨趣厚ク警察官ニ訓諭セラレ以テ安寧靜謐ヲ保持スルコトニ努ムラルヘシ

一 演說會ノ入口ニ於テ一々聽衆ノ族籍氏名等ヲ取調ルノ煩ヲ省ク
コト

但シ條例ニ觸ル、モノト認ムルモノハ此ノ限ニ非ス

二 政談集會ノ監臨ハ可成高等ニシテ最熟練ノ警察官二名以内ヲ派遣スルコト

三 政談集會ノ景況ニヨリテハ會場ノ靜謐ヲ保ツ爲監臨官ノ外若干ノ警察官吏ヲ派遣シ監臨席ノ他ニ適宜配値シ取締ヲ爲サシムルコト

四 演説ヲ賞贊シ又ハ反對ノ意ヲ表スルハ敢テ制止スルヲ要セスト雖モ苟モ罵詈譎ニ涉リ演説ヲ妨害スルモノハ嚴ニ之ヲ制止シ尙肯セサルモノハ公力ヲ以テ退場セシムルコト

五 出場ノ警察官ニ對シ輕侮スルノ行爲アルモ其ノ甚シキニ涉ラサルニ於テハ成ルヘク耐忍シ苟モ演者及聽衆ニ對シ粗暴ノ行爲ヲ試ミ其ノ他演説會場ニ於テ有間敷舉動ヲ爲スモノアラハ嚴ニ之ヲ制止シ尙肯セサルモノハ公力ヲ以テ退場セシムルコト

六 議員ニ對シ辭職ヲ勸告シ又ハ發言ノ自由ヲ妨クルノ目的ヲ以テ脅迫恐嚇ヲ試ミントスルモノアルトキハ未タ犯罪ヲ構成スルニ至

ラサルモ機ニ臨ミ變ニ應シテ豫防シ以テ相當ノ保護ヲ與フルコト

七 前項ノ豫防保護ヲ爲スニハ特ニ警察官吏ヲシテ其ノ脅迫ヲ察ラントスルモノ、宿所ニ設セシノ或ハ往復ノ途上ヲ防衛セシムル等適宜取締ヲ爲サシムルコト

要視察人報告

檢乙第二一七號 明治二十二年四月十八日

視察ヲ要スヘキ人員ニシテ出京歸縣又ハ轉宿等異動ノ節報告方之候去ル二十年十二月廿七日付ヲ以テ難形相添へ及御照會置候處中ニハ依然他ノ報告ト混同御差出相成候向モ有之調査上不都合不尠候間自今必ス該表御調製御差出相成候様致度別紙難形相副更ニ及御照會候也

明治 年 月 日 調

某警察署長報
舊何々黨員又ハ不黨員

何縣

姓 名

本籍	出生年月日	在京居所	生年月日	年 月 日 生
此所ニハ出京月日及要旨旨ヲ記載ス	此所ニハ所轄内ヨリ何月何日何署管内ニ轉ス直ニ通知又ハ町名番地何ノ誰方ヘ寄留下宿等詳細ニ記載	交際者姓名	此所ニハ交際者縣名郡町村及當地居所等詳細記載	
轉居月日	此所ハ所轄内ヨリ何月何日何署管内ニ轉ス直ニ通知又ハ町名番地何ノ誰方ヘ寄留下宿等詳細ニ記載	姓名		
行先				
居所				

參考トナルヘキ事項ハ欄外ニ記入アリタシ

政談並ニ學術演說取締

内訓 明治二十二年五月九日

折田 總監

政談及學術演說取締方ニ付テハ夫々規律アリト雖モ論者巧ニ迂曲ノ辯ヲ以テ論シ去ル者不少爲ニ監臨官ニ於テ操縱ノ宜ヲ失スル無キヲ必ス可カラス今ヤ國會ノ開設モ近キニ在リ政黨ノ運動復々將ニ振繁ナラントス此際警察官ハ銳意視察ヲ加ヘ緩急其ノ處置ヲ諒ラサル様注意ス可シ爲念内務大臣ヘノ内申書並ニ訓示等寫ヲ添ヘ此旨内訓ス

五月八日折田總監ヨリ
内務大臣ヘノ内申書

憲法發布後ハ政治思想ヲ有スル輩殆ント沈着テ表シ敢テ前日ノ如キ狂舉突飛ノ狀況ハ無之候得共國會開設ノ期モ明年ニ迫リ議員候補タランコトヲ欲シテ東奔西疋計畫皆ナラサルノ今日ニ於テ大同團結及改進黨ノ如キハ自黨議員ノ多カラントヲ欲シテ各地方ニ遊説員ヲ派遣シ互ニ勢焰ヲ張り其ノ熱度益々増進スルノ景況ニ有之而シテ現ニ大同派ハ各地方ヨリ其ノ重ナル者陸續上京シ無慮百餘名ノ多キニ達セリ曾テ披露セシ如ク來ル十日ヲ以テ大同派大會ヲ催ス儀ニ可有

之緊旨要領ハ敢テ確知シ難シト雖モ豫テ之ヲ探聞ニ考ヘ又既往ニ徴シテ之ヲ攻究スルニ陰險ナラサルヲ得ス其ノ得失ヲ論議スルニ當リテハ或ハ世人ヲ教唆シ治安ヲ害スルノ言語無キヲ保ス可カラス此場合ニ於テ警察官ハ素ヨリ保安ノ處置ヲ爲スハ當然ナリト雖モ論者或ハ迂曲ノ辯ヲ以テ巧ニ之ヲ演述スル如キハ監臨警察官ノ尤モ銳意監察ヲ要スル所タリ今假ニ彼等カ將ニ論セントスルノ要點ヲ揣摩シテ左ニ

……現内閣ノ組織ハ吾人人民ニ對シテハ無責任ノモノナリ今日ノ姿ニテ推シ移ラハ吾人ノ希望スル租税ノ減省、言論出版集會ノ自由、政費ノ節減、外交政略ノ完全、陸海軍ノ修整等ハ殆ント得可カラサルニ似タリ……(此ノ間英國ノ組織制度慣習等諸外國ノ例ヲ附演ス)吾人人民ノ幸福ハ何ノ日ヲ期ス可ケンヤ到底藩閥政治ヲ改メテ完全ナル責任内閣ヲ組織セサル可カラス然リ而シテ既ニ欽定憲法ノ在ルアリテ猥リニ吾人ノ喙ヲ容ルヘカラス……人民ニ彈劾ノ權無ク何ヲ以テ乎吾人ノ満足スヘキ幸福安寧ヲ得ヘ

ケンヤ然レトモ亦憲法發布ノ勅語ニ(將來若シ此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ云々……)ノ教諭モアレハ仁慈アル 天皇陛下ハ必ラスヤ早晚吾々國民ニ満足ヲ附與シ賜フ事ハ吾々忠實ナル臣民ノ信シテ疑ハサル所ナリ扱テ其ノ時宜ノ至ルハ……人智ノ發達ト共ニ輿論ノ熟スルノ時ナルヘシ吾々ハ國民ノ義務トシテ輿論ヲ喚起シ文明國ニ對峙スルノ實力ヲ造ラサル可カラス……故ニ少異ヲ捨テ大同ニ取ラサルヘカラス……本年三月一日付ヲ以テ演說者取締ノ儀ニ付請訓候處演說者取締之儀ハ明治二十年九月二十九日訓示之通可相心得旨指令有之該訓旨中學理ヲ推シテ廣ク憲法ヲ論議スルモノ、如キハ前段親裁ヲ異議スルモノ、例ニアラスト雖モ若シ或ハ學理ヲ推シテ立論スルモノ其ノ實迂曲ノ辯ヲ舞ハシ暗ニ憲法ノ主義ニ容喙シ世人ヲ教唆スルニ涉ル事ヲ認定スヘキ證據アルモノハ猶防制處分ノ範圍中ニアルモノトスアリ學術會ニ於ケルモ猶然リ況ンヤ政事ニ關スル事項ニシテ前段演述ノ如キハ無論中止解散又ハ相當ノ處分可及見込ニ有之候條此段爲念豫

テ及内申置候也

狂暴突飛聲取締

機乙第三八〇號 明治廿二年六月二十一日

狂暴突飛聲注意視察方ニ就テハ總監内訓之趣モ有之宿泊人視察之上
隨時御申報相成居候得共或ハ數日滯京宿ノ者ニシテ一回ノ御内報ニ
モ不接萬一事發スルノ後始メテ其ノ人名ヲ耳ニスル様ノ儀有之候テ
ハ實以テ不容易次第且ハ高等警察ノ體面ニ關シ不都合不勝候條猶一
層御注意相成候様致度右ハ素ヨリ御承知之儀勿論ニ候得共爲念此段
譯テ及御内議置候也

機乙第四〇九號 明治二十二年七月三日

狂暴突飛聲注意視察方ニ付テハ兼テ内訓之次第モ有之候處浪人

組或ハ天下浪人ト自稱スル宮地茂平等狂暴無頼之輩出京爾來在京少
壯輩ノ間ニ稍其ノ氣風ヲ傳播シ無頼藉ノ行爲ヲ以テ誇ラントスル
ノ萌芽有之此弊風漸ク増長スルニ至ラハ社會ノ安寧秩序ヲ害シ又警
察ノ體面ニモ關シ不容易儀ニ付寛假スルコト無ク嚴重取締方御注意
有之度總監ノ命ニ依リ此段及御通知候也

視察人報告

機乙第五五七號 明治二十二年九月十二日

政黨政社員若クハ政事思想ヲ有スル者ニシテ各地方ヨリ出京及歸縣
等ヲ爲シタルトキハ其ノ都度名簿報告表ニシテ御報告相成候處間ニ
ハ出京ノ報ナク歸縣ノ報告而已有之候向モ有之視察上時機ヲ失スル
ノ憂不勝候條今後可成精密御内偵之上出京歸縣轉宿等其ノ都度無遺
漏報告表ヲ以テ御報告相成候様致度此段更ニ及御照會候也

追テ東京在籍ニシテ前文同様ノ者ハ是迄御報告相洩レ候向モ不勘候間移轉等之節ハ速ニ御報告相成候様致度且御報告之際ハ表而已ニテ宜敷別紙指出云々ノ添書ヲ要セス候條此儀モ添テ申進置候也

機乙第五九四號 明治二十二年九月三十日

各視察人移轉之節甲乙ノ警察管内ニ跨リ候分ハ是迄兩署ヨリ御通報相成來候處自今轉入地ノ警察署ニ於テ豫テ及御照會置候名簿表ヲ以テ御通報相成候様致度此段及御照會候也

追テ轉出地ノ署ヨリ轉入地ノ署ヘハ其ノ都度無遺漏御通報相成度且他府縣ニ關スルハ出發署ヨリハ當局ヘ御通報相成ハ勿論ノ儀ニ有之爲念此儀モ申添候也

機乙第七二一號 明治二十二年十月三十日

各地方政黨又ハ有志家ノ類上京スル者益々夥多ニシテ追々其ノ府縣廳ヨリ内報有之候得共多クハ本人着京後一兩日若クハ四五日ヲ經サレハ該投宿所等ノ報道相達セサルノ現況ニ有之視察上困難ノ憾ミナキ能ハス畢竟鐵路汽船ノ便日進ノ今日ニ當リ其ノ府縣廳ニ於テモ中流以下出沒常無キ多數ノ人物ニ至ツテハ報道ノ遲延スルノミナラス又缺遺アルヲ免レス故ニ右等中流以下ノ舉動ハ最モ注意ヲ要スヘキハ論ヲ俟タサルモ前顯ノ狀況ナレハ此際政治思想又ハ危微ノ虞アルモノハ其ノ府縣ノ報道ニ憑依セス着々之力視察ヲ努メサル可カラス就テハ旅人宿下宿屋ハ勿論其ノ職業ノ何タルヲ問ハス苟クモ止宿者有之ニ於テハ精察御注意殿重御視察一面ニハ直ニ第三局長ヘ御即報有之度總監ノ命ニ依リ此段申進候也

議會並ニ議員保護律ノ制定

法律第二十八號 明治二十二年十一月七日

議會並ニ議員保護律

第一條 法律ヲ以テ組織セシ議會ニ對シ公然誹毀侮辱セシ者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 議員ノ公務上言論行爲ニ對シ公然誹毀侮辱シ若クハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員ノ公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫シ言論行爲ヲ妨害セシ者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ヲシテ職ヲ辭セシムルノ目的若クハ公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスルノ目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ或ハ恐喝セシ者ハ十日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

加ス

但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷セシ者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

訓令第七五一號

議會並ニ議員保護律第四條 脅迫又ハ恐喝ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノナリト雖モ被害者ニ於テ黨派軋轢ノ情勢ニ關シ後事ヲ顧慮シ又ハ其他ノ事情ニ依リ告訴ヲ爲スヲ憚リ默止スル場合往々之レアルヘシ然ルニ其告訴ナキカ爲之ヲ不問ニ付スルニ於テハ遂ニ代議制ノ旨趣ヲ保ツコト能ハサルノミナラス延テ社會ノ秩序ヲ紊亂スルニ至ルヤ明ナリ故ニ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ被害者ノ告訴ヲ容易ナラシムル爲直接又ハ間接ニ厚ク介助シ法律保護ノ精神ヲ貫徹セシムルコトニ深ク注意スヘシ

右訓令ス

明治二十二年十一月十四日

内務大臣伯爵 山縣有朋

甲乙分類報告

機乙第八三九號

明治二十二年十二月十日

政黨政社員ハ勿論苟クモ政治思想ヲ有スル者及粗暴危激ノ輩ニシテ
 特ニ視察ヲ要スル者各地方ヨリ出京又ハ歸縣ノ節ハ其ノ都度名簿報
 告表ヲ以テ御急報相成視察上大ニ便宜ヲ得候然ルニ近來右報告方最
 モ至急ヲ要シ候ニ就テハ純然タル政黨政社員ヲ除クノ外其ノ爲人ハ
 不及申本人舉動等御視察ノ上ニ無之候テハ果シテ政事思想ヲ抱持ス
 ルヤ否豫ノ御視認難相成儀ト被存候就テハ自今從前ノ名簿表ヲ甲乙
 二類ニ分チ全ク政社政黨員若クハ政事思想ヲ有スル者ト認ムル分ハ
 甲表ニ其ノ如何ヲ制定シ能ハサル現今御視察中ニ係ル者ニシテ再報

ヲ可要者ハ乙表ニ御記載御報告相成度此段更ニ及御照會候也

追テ甲乙記號ハ別紙難形ノ通朱書ヲ以テ御記載相成度候且乙表ノ
 者ニシテ果シテ政事思想ヲ有スル者ナルトキハ甲表ヲ以テ御再報
 有之度此儀申添候也

明治二十何年 月 日調

警察署報

居行轉 所先居	動舉	月出京 日	本籍

憲法實施ニ際シ内務大臣訓示

明治二十二年十二月二十五日

内務大臣伯爵 山縣 有朋

憲法ノ實施ハ方ニ近キニ在リ國家ノ盛事日ヲ期シテ待ツノ時ニ當リ
 他ノ一方ニ於テハ人心激昂シテ政論ニ競争シ黨比シテ相闘キ狂瀾頽
 波ノ勢ヲ生スルハ亦數ノ免レサル所ナリ加フルニ外交事件ノ困難ヲ
 以テシ轉々物論泡起ノ媒ヲ爲スニ際シタリ
 此ノ時ニ當リ中外官僚ノ務ハ唯一意純誠
 聖旨ヲ奉體シ百艱ヲ凌キ頽勢ヲ支ヘ同心協力以テ立憲ノ大事ヲ贊ケ
 終局ノ美果ヲ收ムルノ一途アルノミ本官不省ナリト雖モ各位ト共ニ
 力ノ有ル所ヲ盡シテ此ノ至難ノ義務ヲ全クセムコトヲ願フモノナリ
 地方ノ施政ハ各位既ニ分憂ノ任ニ當リ其ノ計畫措置各一定ノ針路ア
 リ今茲ニ最モ注意ヲ要スル所ノ者ハ此ノ艱危ノ時ニ當リ各位ハ宜シ
 ク屹然トシテ人民ノ爲ニ適當ノ標準ヲ示シ其ノ偏傾ヲ抑ヘ向フ所ヲ
 謬ラサラシムルコトヲ勉メサルヘカラス蓋シ行政ハ 至尊ノ大權ノ
 委任ニ依ルモノニシテ中外其ノ局ニ在ル者ハ宜シク各種政争ノ外ニ

立チ引援附比ノ習ヲ去リ專ラ公正ノ方向ヲ取り以テ職任ノ重キニ對
 フヘキナリ
 教育殖産其ノ他内地ノ事業ハ仍ホ改正提起ヲ要スル者アルニ拘ハラ
 ス二十年來ノ經營ニ依リ漸クニ其歩ヲ進メ驟々シテ前途ノ望ムヘキ
 アリ今或ハ一時政論ノ激動ノ爲ニ挫折低滯セハ忽ニシテ退却ノ狀ヲ
 現ハスニ至ラムトス是レ亦宜シク意ヲ加ヘテ勸導シ以テ前緒ヲ繼續
 シ人民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ期スヘキナリ
 一地方ノ公益ハ全國ノ公益ト必スシモ相干涉セサルモノアリ故ニ各
 地人民ノ幸福ヲ進メント欲セハ宜シク政論ノ外ニ立チ各其區域ノ中
 ニ畫策スル所アラサルヘカラス一村ノ人民ハ各其一村ノ公益ヲ進メ
 一郡ノ人民ハ各其一郡ノ公益ヲ進メ一縣ノ人民ハ各其一縣ノ公益ヲ
 進ムルコトヲ遺忘セス汲々トシテ務ムル所ヲ知ラハ全國ノ公益ハ從
 ツテ其ノ進度ヲ失ハサルハ必然ノ結果ナラサルコトヲ得ス今若シ之
 ニ反シテ一縣一郡又ハ一村ニシテ却テ中央ノ政論ニ熱心シ政黨ノ試
 験所トナリ一場ノ争端ヲ開クコトアラハ其ノ勢ハ延イテ小民ニ及ホ

シ怨讎相結ヒ狂暴之ニ乗シ春風和氣子ヲ育シ孫ヲ長スルノ地ハ轉シテ喧囂紛争ノ衝トナリ家ヲ富マシ國ヲ利スノ業ハ得テ興スヘカラサラントス之ヲ各國ノ歴史ニ徵スルニ古今政躰變遷ノ間尤モ恐ルヘク尤モ戒ムヘキノ事情ナリトス是レ畢竟中央政事ト地方施治トヲ混淆スルノ謬ノ致ス所ニ因ラスンハアラス今遽ニ是レ等深奥ノ論理ヲ分折シテ地方ノ政論ヲ一轉スルハ極メテ至難ノ事ニ屬スト雖モ各位若シ懇ニ意ヲ加ヘテ提携訓導シ其ノ良知ニ訴ヘ釋然タル所アラシメハ猶其ノ橫流ヲ未決ニ救ヒ前途平正ニ歸スルコトヲ望ムヘキナリ沿道ノ要ハ平易ニシテ民ニ近ツキ民情阻隔スル所アリ法律規則ノ外ニ於テ豁然トシテ親和スル所アラムコトヲ欲ス處務手數ノ繁細及延滞ナルニ由リ小民ヲシテ徒ニ其ノ時ヲ失ハシムルハ最モ厭苦ヲ招クノ道ナリ是レ宜シク及フヘク簡易敏速ヲ主トシ務メテ煩苛ノ弊ヲ除クヘシ地方ノ經濟ハ其ノ要勤儉ニ在リ奢美相競フニ殖産僅ニ進ムノ國ニ在リテ最モ富源ニ毒ヲ流スモノナリ親民ノ官ハ宜シク清廉ヲ守リ貸利豪華ノ習ヲ痛斥セサルヘカラス地方ノ風氣一タヒ敗ルルトキハ人

心離散シテ復タ收拾スヘカラサルニ至ラム
本官各位ト相見ルノ期近キニアリト雖モ地方ノ事宜シク深く憂慮ニ切ナリ茲ニ謹ミテ
聖旨ヲ受ケ聊施治ノ務ヲ示ス各位ノ厚ク此ノ意ヲ體セラレムコトヲ望ム

集會條例中改正

法律第三十一號 明治二十二年十二月十四日

明治十三年四月布告第十二號集會條例中左ノ通改正ス

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ス

警察ノ要務演達

明治二十三年一月二十一日

山縣 内務大臣

曩ニ昨年十二月二十五日付ヲ以テ各府縣長官ニ訓示シタル地方施治ノ要務ニ就テハ各位既ニ其旨ヲ領シ其意ヲ體セラレタルヘシ而シテ今又特ニ各位ヲ召集シタルハ親シク警察上執ルヘキノ針路ヲ指示シ詳ニ目下必要ノ急務ヲ訓諭セントスルニ外ナラス

警察官ノ要務ハ不偏不黨ノ心ヲ以テ公平正直ニ職務ヲ執行シ其職中ニ黨派ノ別アルヘカラス其處分ニ彼此ノ差アルヘカラス其民ニ對シクヤ平易和親ヲ主トシ其事ヲ處スルヤ簡易敏捷ヲ旨トシ其高等警察ニ於ケルヤ平生ノ注意最モ周致微密ヲ要シ變テ未タ顯ハレサルニ知リ禍ヲ未タ發セサルニ遏ムル之ヲ行政警察ノ本色トス

今ヤ世運ノ開進ニ伴ヒ人智ノ發達ニ隨ツテ警察事故ノ愈々繁多ナルハ蓋シ勢ノ免レサル所ナリ警察ノ事故愈繁多ナレハ警察ノ効力益顯著ニシテ警察官ノ注意益慎密且敏捷ナラサルヘカラス而シテ警察官ノ職任ハ年一年ヨリ其重且要ヲ加フルハ亦理執ノ免カレサル所ナリ

憲法ノ大典既ニ發布セラレ立憲ノ制度實施ノ期迫リ法律ヲ以テ政治ノ活動ヲ制裁スルノ今日ニ於テ警察ノ必要ニシテ缺クヘカラサルハ固ヨリ論ヲ待タス警察ニシテ苟モ機敏活潑ノ妙ヲ失フトキハ國家ノ政治ハ半身不隨氣脉不通ニ歸シ遂ニ社會ノ情況ヲ不良ノ現象ニ一變セシムルニ至ルハ聘ニシテ警察ノ要務ヲ各府縣ノ警察官ニ傳習セシメ爲ニ警察上著明ノ進歩ヲ實際ニ現ハシ且各位ノ拮据罷勉部下ヲ督勵シ指揮其宜ヲ失ハス爲ニ警察ノ事務整然トシテ緒ニ就クハ本官ノ確ク信スル所ナリ

然ルニ顧ミテ天下ノ大勢ヲ察スルニ近年人心政治思想ニ浸染シ漸ク激昂シテ政論ニ競争シ黨ヲ結ヒ派ヲ分テ互ニ相闘クハ殆ト全國一般ノ實況ナリ殊ニ昨年憲法發布以來政論ニ狂奔スルノ熱度愈加ハリ政事ニ關スル結社集會新聞著譯演說會懇親會ノ如キ益其數ヲ増シ政壇上ノ運動ヲ實際ニ試ミ黨派上ノ競争ヲ都鄙ニ逞クスルモノ日一日ヨリ多キヲ加フルハ亦各地方ニ於テ掩フヘナラサル事實ニシテ各位ノ既ニ熟知スル所ナリ而シテ政黨上競争ノ弊害漸ク延イテ社會百端ノ

事ニ涉リ其最モ甚シキハ政黨ノ關係ヨリ親子骨肉ノ間ニ風波ヲ生シ朋友故舊ノ間ニ不和ヲ醸シ凡ソ交際上ニ營業上ニ教育上ニ其影響ヲ及ホサル所ナリ往々人民ノ幸福ヲ害シ國家ノ治安ヲ妨クルノ虞アルモノナリ加之本年ハ先ニ府縣會議員半數改選ノ舉アリ後ニ衆議院議員選舉ノ事アリ政黨競争ノ乘スヘキ機會尠カラズ人心激昂ノ烈シク喧囂紛争ノ甚シキ蓋シ疑フヘカラス此時ニ當リ機ニ臨ミ宣ヲ制シ雙ニ應シ事ヲ處シ禍機ヲ未發ニ豫防シテ人民ノ幸福ヲ保護シ國家ノ治安ヲ維持スルノ要ハ唯警察ノ運用ニアルノミ而シテ各地方ニ於テ警察ノ機軸ヲ把リ緩急其宣ヲ失ハス能ク其運用ノ妙ヲ得セシムルハ即チ各位ノ職任ニ屬ス

以上訓諭ノ大要ノミ詳細ノ條件ノ如キハ警保局長ヲシテ懇ニ之ヲ開示セシムヘシ各位厚ク此意ヲ體シ長官ヲ輔翼シ能ク其職任ヲ盡サシメシムコトヲ望ム

政黨加入

機乙第一四五號

明治二十三年二月十九日

未丁年之者及婦女子之政談ヲナスハ不都合ノ旨豫テ内訓ノ趣モ有之候處政黨政社ニ加入ノ義モ認可セサルコトニ御取計相成度此段總監ノ命ニ依リ及御通知候也

機乙第一四六號

同日

明治十五年六月中政黨政社ニ加入届出有之節ハ一應本局長へ御協賛相成度旨及御通知置候處以來其ノ義ニ不及候右總監ノ命ニ依リ及御通知候也

機乙第一四七號

同日

從來政黨政社ニ加入届出候節ハ認可ヲ與へ脱黨等之トキハ別ニ認可ヲ與へサル向モ有之區々相成居候ニ付爾來出入届共認可相成候様致度此段及御通牒候也

探偵者ト機密費

機乙第三四五號 明治二十三年四月十六日

高等警察上御使用相成候探偵者ノ氏名ハ曾テ御報告相成居候向モ有之候得共更ニ左ノ件々來五月三十一日迄ニ御報相成度候

- 一 偵者ノ變名但實名ニテモ差支ナシ
- 一 偵者月手當ノ金額
- 一 偵者住所ノ區名及郡名

右御協議ニ及候ニ就テハ自今報告書御差出ノ節ハ其報告書ニ偵者ノ氏名御記載相成候様致度此旨及御照會候也

追テ臨時ノ費用ヲ要スル義モ可有之候間第三局ヨリ御請取相成候月額ヲ必スシモ月給而已ニ御宛相成候ニハ不及義ト存候此儀ハ乍實事御含迄ニ申入候

第三局長ヨリ内報書

機乙第三八七號 明治二十三年四月二十五日

時々本官ヨリ及御内報候機密事件ノ義ハ單ニ貴官限り御參考ニ供スルノ意ニ有之ヲ以テ此書類ハ貴署員ト雖モ漏洩セサル様自ラ御取扱相成候様致度候右ハ申迄モナク無論之義ニ候得共最モ機密ヲ要スルヲ以テ此段豫メ申進置候也

探偵者氏名記載方

發秘第一一五號 明治二十三年五月三十日

客月二十五日本局機乙第三四號ヲ以テ探偵者ノ報告書ニハ其ノ氏名記載セシメ御差出可相成旨及御照會候處其ノ爾來氏名記載セスシテ御差出相成候向キモ不少ニ付自今ハ必ス曩ニ御照會ノ通御取計相成度此段申進候也

高等探偵者使用方

發秘第一一八號

明治二十三年五月三十日

多數ノ中偶々免レサルヲ得サルモ高等警察上偵者トシテ雇使セラ
ル人物ノ中ニハ殆ト廉耻ニ乏シクシテ唯報酬ノ多キヲ貪ルノ念慮ヨ
リシテ竊ニ甲乙丙者ノ牒者タルモノ無キニアラス今ヤ我警視廳ハ他
ニ進ンテ之ヲ制シ且ツ豫防ノ法ヲ設ケサル可カラス蓋シ此法タル各
使用者タル者茲ニ最モ注意シ最モ精察ヲ加ヘサルヲ得サルニアリト
雖モ尙之ヲ以テ未タ全然豫防法ト認ムルヲ得サルニ付本官ニ於テハ
特リ各探偵者ノ實名ヲ豫知シ甲乙兩者ノ探偵者タラントスル者アル
時ハ直ニ其ノ使用ノ向ニ對シ内報スルコトニセハ充分此弊害ヲ防禦
シ得ルモノト相信シ候就テハ自今ハ勿論現今御使用ノ探偵者ハ悉ク
其ノ住所及實名來ル六月五日迄ニ御報告相成度候
右者本官限リ秘シ局員ヘモ漏洩セサル様致スヘキ義ニ付其ノ御報告
ハ必親展書ヲ以テ御送付相成度此段及御照會候也

衆議院議員選舉取締

秘第一號

衆議院議員選舉ノ期將ニ數日ノ間ニ逼迫セリ我管下ニ在テハ從來選
舉ノ競争其ノ弊トシテ見ルヘキ者アラス彼ノ他府縣下ニ於テ頻繁現
出セル卑劣手段又ハ粗暴ノ所行ニ依リ當選ヲ争フカ如キ弊害絶テ無
之ハ蓋較ノ下大ニ他方ニ異ナル處アルニ由ルナラン然レトモ衆議院
議員ノ選舉ハ今年之レ創始タリ況ンヤ府縣會議員選舉ト其ノ輕重素
ヨリ同視スヘカラサルヲ以テ近時管下各地ニ於ケル競争ハ既往ニ其
ノ類例ナキ趣ヲ表示シ竊ニ宴席ヲ設ケ選舉者ノ甘心ヲ買ハン事ニ汲
汲トシ或ハ公然集會ヲ開キ攻撃誹謗ノ辯ヲ振ヒ互ニ相競争スル實況
ハ頻々之ヲ見聞スルニ至レリ此ノ如キ尋常ノ競争モ選舉ノ期僅々數
日ニ迫リ勝敗ヲ争フノ念益々抑制シ難得互ニ攻撃論難其ノ勢愈々熱
度ヲ進メ一轉惡境ニ臨ムニ至レハ化シテ賄賂詐欺等ノ卑劣手段トテ
リ變シテ恐嚇強迫ノ粗暴トナリ竟ニ卑劣ノ手段粗暴ノ行爲ニ出ルノ
徒ハ反ツテ勝ヲ制シ老成着實ノ輩ハ當選ノ念ヲ絶ツニ至ルヤモ難悞

ヲ以テ豫テ注意モ可有之筈ナルモ此際一層警防ニ盡力シ若シ衆議院議員選舉法及補則ノ罰則ニ違背スルノ徒有之ニ於テハ假借スル所ナク宜シク治罪ノ處分ヲ求ムルニ怠ル事勿レ

右内訓ス

明治二十三年六月二十三日

警視總監子爵 田中光顯

集會及政社法ノ公布

法律第五十三號 明治二十三年七月二十五日

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政事ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

届出ニハ集會ノ場所年月日時並ニ發起人及講談論議者ノ氏名住所年齢ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セサルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス

第三條 日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男子ニアラサレハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第四條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立學校ノ教員學生生徒未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ

投票ノ日ヨリ前三十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限り本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第五條 政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第六條 政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條 凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同スヘキ場所年月日時及異ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ葬葬社學生生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス

警察官署ハ前項ノ届出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ

於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第十條 凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スルモノハ此ノ限ニアラス

第十一條 凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條 會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシ

ムルコトヲ得

- 第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
- 一 集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ
 - 二 第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ全會ヲ解散セスシテ單ニ其ノ一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

- 三 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

- 四 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

- 五 第四條第十條ノ違反者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前條ニ同シ

第十六條 第三條ヲ犯シタル者及第四條ニ背キ會同シタル者及其ノ之ヲ制止セサル發起人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ

政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ本條第一項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條 第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ之ヲ制止セサル發起人亦同シ

第二十一條 第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕

禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

第二十四條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ講談論議者及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初會ノ開會四十八時以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十五條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立

公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セサル男子ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

第二十六條 政社ニ於テハ外國人ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條 政社ハ標章及旗幟ヲ用キルコトヲ得ス

第二十八條 政社ハ委員若ハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若ハ他ノ政社ト連結通信スルコトヲ得ス

第二十九條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言及表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條 凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ實アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ背キ政社ノ届出ヲ爲サ、ルトキ又ハ警察官ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其ノ役員ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第二十三條ノ届書ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又ハ尋問ヲ受ケテ詐欺ノ答ヲ爲ストキハ前項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第三十二條 第二十五條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ヲ犯シタル役員ハ前項ニ同シ

第三十三條 第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用キタル者及其ノ政社ノ役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員及委員ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス總テ發起人又ハ役員ノ責ニ任ス

第三十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例ヲ用キス

第三十七條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六月トス

第三十八條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニアラス

集會及政社届出取扱

發秘第三一七號 明治二十三年七月二十八日

集會及政社法發令ニ就テハ其ノ取扱内規追テ訓令可相成筈ニ有之候得共差向別紙手續書ニ基キ御取扱可有之總監ノ旨ヲ奉シ此段申進候也

別紙

一 政談集會ノ届出アレハ集會法第二法第二條ヨリ第六條ノ各項ニ牴觸スル處ナキヤ其ノ届書及發起人ニ就キ取調直ニ其ノ領收證ヲ交付セラルヘシ

若シ違法ノ廉アラハ一應説諭ヲ加ヘラルヘシ

一 領收證ヲ交付セハ其ノ講論ノ題目及其ノ事項ノ大要ヲ發起人ニ

一 尋問シ之ヲ錄取セラルヘシ
 一 政談届出ノ日時及前二項ノ書類ハ渾テ之ヲ謄寫シ速ニ三局長ニ送致セラルヘシ

一 政談集會届出ノトキ發起人ニ尋問スルモ明瞭セサル講談ノ題目等アラハ監臨ノ際未タ講談又ハ論議ヲ始メサル前集會法第九條二項ニ依リ更ニ尋問ヲ遂ケ之ヲ錄收セラルヘシ

一 屋外ニ會同シ又ハ運動セントスル届出ハ集會法第七條二項ニ該當スルト思料セラル、モノハ先ツ三局長ニ其ノ可否ヲ協議シ其ノ他ハ渾テ認可シタル後速ニ報告セラルヘシ

一 集會法第四條第十條ニ背キ會同シタル者アルトキ制止退會セシムルハ先ツ發起人ヲシテ行ハシメラル可シ但シ其ノ違法者ノ氏名住所身分ノ取調ハ必要ナルヲ以テ其ノ機ヲ失セサル様注意セラルヘシ

一 政社ノ届出アレハ其目的及組成ノ日ヲ取調直ニ領收證ヲ交付セラルヘシ

政社法第二十五條ニ違反スルモノアレハ相當ノ處分ニ付セラルヘシ

一 前項ノ書類ハ之ヲ謄寫シ速ニ三局長ニ報告セラルヘシ
 一 領收證ハ左ノ書式ニ準シ記載セラルヘシ

(書式)

領 收 證

明治何年何月何日午後(又ハ前)何區何郡何町村何……(又ハ方)ニ於テ何ノ誰外何名カ政治ニ關スル事項ヲ講談(又ハ論議又ハ講談論議)スル爲集會ヲ開クノ届出ヲ領收ス依テ此證ヲ交付ス

明治 年 月 日

何 警 察 署 長

何等警視 何ノ誰 印

發起人

何ノ誰 殿

領 收 證

明治 年 月 日 何々俱樂部(又ハ何々)ナル名稱ノ政社ヲ組成シ



何區郡何町村第何番地ニ其ノ事務所ヲ設クル届出ヲ領收ス依テ此證ヲ交付ス

何警察署長

明治年月日

何等警視 何之誰印

何々俱樂部(又ハ何々)

社長(又ハ幹事又ハ何々)何之誰殿

非政社ニ名ヲ藉リ運動スルモノ

訓第四三二號

明治廿三年七月三日

内務大臣伯爵 西郷從道

近來名ヲ非政社ニ假リテ政治上ノ結合ヲ爲シ又ハ政社相聯絡シテ政治ニ關スル事項ヲ論議スル等往々集會條例第二條及第八條ニ觸ル、モノ有之趣就テハ各地方ニ於テ其ノ實況ヲ精査シ右等ノ所爲アリト認ムルトキハ其ノ社ノ重立者ニ對シ便宜注意ヲ加ヘ又ハ其ノ情狀ニ

依リ直ニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

右訓令ス

秘牒第一六號 明治廿三年七月三日 警保局長 清浦圭吾

近來各地方ニ於テ名ヲ俱樂部又ハ學會等ニ假リ其ノ實政治上ノ結合ヲ爲スモノアリ又黨派ノ勢焰ヲ張ル爲政社ニシテ他ノ政社ト聯合通信ヲ計ルモノアリ右等ノ所爲ハ共ニ集會條例第二條又ハ第八條ニ觸ル、モノト認メラル、ニ就テハ篤ト實況御視察ノ上俱樂部又ハ學會等ノ重ナルモノニシテ其ノ組織運動政社ト認ムルニ足ルヘキモノハ説諭シテ政社ノ認可ヲ受ケシメ又政社互ニ委員ヲ派シテ聯絡ヲ計リ政治ニ關スル事項ヲ講究スルカ如キ第八條ニ觸ル、ノ所爲アリト認ムルモノ又ハ第八條ノ制裁ヲ免レンカ爲政社ノ重立聲表面ニハ脱社ヲ裝フテ他ノ政社ニ會同スルモ其ノ實態ニ脱社シタル政社ト相通シ所謂政社連結通信スルノ實アリト認ムルモノニシテ説諭ヲ加フルモ

効ナシト思料セラル、ニ於テハ十分ナル證憑ヲ得豫テ檢察官ニモ協
議ヲ遂ケ相當處分ニ附セラレ度
右ハ今般第四三二號訓令ノ次第モ有之ニ付此段爲念小官ヨリ申進候
也

帝國議會員ノ政務調査

發秘第四四〇號 明治二十三年八月二十五日

別紙ノ通警保局長ヨリ通知相成候ニ付爲御心得此段及御通知候也

(別紙)

帝國議會議員ノミノ團體ヲ設ケテ政務調査等ヲ爲ストキノ取扱方別
紙ノ通内定相成候間爲御心得寫一通及御送付候也敬具

明治廿三年八月廿三日

警保局長 清浦圭吾

田中警視總監殿

帝國議會議員カ議院ニ於テ發言セントスル旨趣ヲ以テ政務ノ調査ヲ

爲サンカ爲俱樂部等ヲ設ケ集會協議ヲ爲スカ如キハ假令團體ヲ組成
スルノ形アルニモセヨ其會員ハ公衆ヲ集ノスシテ單ニ議員ニ限り且
治安上取締ノ必要ナシト認ムルモノハ政社ノ取扱ヲ爲サルモ妨ケ
ナキヤ

議員相互ニ前項ニ配スル必要ノ爲集會スルモノハ假令其議員ハ何政
社又ハ某政黨ニ加入シ居ルニ拘ハラヌ政社法二十八條連結ヲ以テ論
スヘキノ限ニ非サルカ

第一項見込ノ通(朱書)第二項見解ノ通(朱書)

帝國議會員中不穩行動者取締

秘 田中總監訓諭 明治二十三年九月十二日

千古未會有ノ盛典ナル吾カ帝國議會モ僅ニ一二月ヲ出テスシテ歡聲
洋々ノ中ニ開會セラレントヲ希望スルノ時ニ方リ項日不幸ニモ政
黨ノ軋轢ヨリシテ往々反對論者ニ對シ不穩ノ舉動有之竟ニ彼我兇器

ヲ持チテ相鬪争セントスルニ至レリ抑モ法律ノ範圍内ニ在リテ自他互ニ辯論スルハ當然ノ事ニシテ敢テ警察官ノ干涉スヘキモノニ非スト雖モ苟モ輦轂ノ下ニ於テ如此腕力ヲ用ヒテ狂暴ヲ逞フシ公衆ノ靜謐ヲ妨害スルニ至リテハ毫モ假借スルコトヲ得ス今ニ及ンテ右等ノ弊害ハ嚴ニ之ヲ防遏スルニ非サレハ勢ヒ終ニ底止スル所ナカラシ故ニ此際一層周密ノ觀察ヲ加ヘ之ヲ未發ニ防制スルハ勿論暴行激動ノ輩アルトキハ直ニ之ヲ逮捕シ其機ヲ失ハス嚴重ノ取締相立ツ様注意セラルヘシ

此旨訓諭ス

帝國議會開會ニ付注意

秘 田中總監 明治二十三年九月二十日

別紙ノ通内務大臣ヨリ訓旨セラル此旨心得ラルヘシ

(別紙)

今回帝國議會開會ニ就テハ民間設テ爲シ或ハ憲法發布式ト同一ナル盛典ヲ舉ケラルヘシト云ヒ或ハ議員ヲ豐明殿ニ招集シテ饗宴ヲ賜ハルヘシト傳ヘ都下ニ於テモ祝意ヲ表スル爲種々ノ設備ヲ爲サントスルノ聞ヘアリト雖モ議會ノ開會ハ主トシテ靜肅ヲ勉メラルモノト思考セリ即チ集會及政社法第八條議會開會中議院ヲ去ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得サルカ如キモ專ラ靜肅ヲ主トスルノ精神ニ外ナラサルナリ但人民ニ於テ國旗ヲ掲ケ球燈ヲ點シ或ハ綠門ヲ造ル等自然ノ祝意ニ出テタルモノハ敢テ妨ケナシト雖モ米價騰貴惡疫流行ノ餘ヲ受ケ一般不景氣ノ際ニ於テ山車踊屋臺等ヲ出シ鐘鼓糸竹ヲ鳴ラシ華美ヲ競ヒ喧擾ヲ爲スカ如キハ府知事ヨリ郡區長等ニ内示シ夫々注意セシムル所アルヲ要ス又諸學校生徒ニシテ奇異ノ形裝ヲ爲シ整列運動ヲ爲スカ如キハ校長教頭等ニ於テ豫メ之カ防止ヲ爲サシムヘシ

近來都下ニハ政熱ニ狂奔スルノ徒輻湊シ苟モ間隙ノ乘スヘキアレハ忽チ事ヲ煽起セントスルノ折柄ナレハ之ヲ奇貨トシテ市民ニ混交シ



喧擾ヲ煽リ靜謐ヲ害スルノ虞アルノミナラス抑モ亦憲法發布式ノ時ニ於ケル肩摩紛擾ノ際人命ヲ墜シ鮮血ヲ流スカ如キ實況ヲ今日ニ再演スルモ測リ難シ均シク是レ國家ノ盛典ヲ擧ケラル、ノ日ニ於テ一ノ汚點ヲ貽シ不祥ヲ來スカ如キハ勉メテ之ヲ避ケサルヘカラス要スルニ今回議會開會ニ於テハ最モ整肅ヲ主トシ靜謐ヲ勉メ安寧ヲ保ツコトヲ必要トス

三局及各署へ通報ヲ要ス

發秘第五七一號 明治廿三年九月二十七日

是迄警察署ヨリ報告ノ事ニシテ他ノ署ノ參考トモ相成ルヘキモノ例ヘハ政治上ノ意見ヲ異ニスル處ヨリ殺傷ニ及ヒ又ハ爆發物取締違犯者ノ現況等ノ類ハ特ニ當局ヨリ御内報致シ來リ候處右ハ各署ヨリ互ニ報告可相成筋ナレハ或ハ事兩方ヨリ報告ノ事モ可有之義ト存候就テハ自今各署ノ參考又ハ注意ヲ要スルモノハ當局へ御報ト共ニ直ニ

各署へモ御通知相成度尤モ秘密内報ハ依然今日通御報告有之度將又當局ヨリ緊要ノ件ヲ御内報スルハ尙從前ノ通ニ有之候此段申進候也

高等掛警部巡查ノ氏名報告

發第六二六號 明治二十三年十月九日

貴署ニ於テ特ニ高等警察上ノ擔任又ハ關係ヲ命シ置カル、警部、警部補、巡查ノ氏名現在ニ依リ御取調來ル十月十三日迄ニ御差出相成度但シ將來異動有之節ハ其ノ都度御通知相成度此段及御照會候也

高等警察探偵使用内規

訓令號外 明治二十三年十月十三日

一 高等警察探偵使用内規別冊ノ通相定ム
 一 探偵者ヲ使用スル任ハ第三局長及警察署長ニ限ルモノトス但三

局員ハ特ニ局長ノ命ニ從ヒ局長使用ノ探偵者ニ親接セシムル事ヲ得

一 探偵ハ之レヲ内外ニ別チ第三局長ハ専ラ内部ノ事ヲ掌リ外部ノ事ハ之ニ次クモノトス

警察署長ハ専ラ外部ニ全力ヲ用ヒ其外部ノ探究ヨリシテ内部ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トスヘシ

内外ノ別ハ假令ハ各政黨ノ首領役員等ノ密議ノ事件其ノ他凡ソ高等警察ニ關シ上流社會ノ内情ノ類ヲ内部トシ刺客危激及輕躁ノ徒其ノ他政事上秘密ニ事ヲ計ルモノ、類ヲ外部トス然レトモ二者劃然別ヲ爲ス能ハス敢テ分界ヲ嚴ニセハ反テ實ヲ失フヘキヲ以テ警察ニモ亦内部ノ探偵ヲ併用セシムルニアリ要スル處厚薄ノ別ヲ立ルニアリ

一 警察署長ニ於テ探偵者ヲ使用セントスルトキハ其ノ住所氏名ニ其ノ來歴書ヲ添ヘ第三局長ニ協議スヘシ

第三局長ハ其探偵者ハ他ニ關係スル處ニ非サルヤ取調ヘ採否ノ意

見ヲ回答スヘシ

探偵者ハ府下ニ居住スルモノニ限ルヘシ

一 探偵者ノ報告ハ可成當人自筆ノ書ヲ以テ差出スヲ要スヘシ

一 二ヶ月間ニ一回ノ報告ナク又一ケ年ノ報告二十四ニ滿タサルモノハ第三局長ニ於テ詮議ヲ盡シ委托ヲ解カシムヘシ

一 探偵者ノ報告書ハ最モ秘密ニ取扱ヒ特ニ主任ヲ定メ其ノ件數事柄ノ輕重及其ノ眞偽ヲ甄別シ時々其ノ件名簿ニ登載セシムヘシ

一 高等警察ノ事故ハ地勢ニ據ツテ繁榮冷熱ノ差違アルヲ以テ各警察署長ノ使用スル探偵者ノ數及雜費等ニ至ルマテ一定スル能ハサルハ素ヨリ當然ナリ然レトモ既往ハ金額ヲ以テ多寡ヲ分チタルモ將來ハ人員ヲ以テ區別スルニアリ

一 探偵者ヲ使用セス又ハ缺員一ヶ月ヲ越ルトキハ其ノ使用セサル金額ハ送金ヲ停止スヘシ

一 探偵者ニハ變名ヲ以テ往復シ實名ハ最初使用ノトキ第三局長ニ協議スル場合ノ外ハ漏洩スヘカラス

機密費交付

發秘第六四一號

明治二十三年十月十三日

近來高等警察ノ事務著シク増加シ今ヤ政治社會ノ有様ハ實ニ繁雜ヲ極メ加フルニ過激輕躁ノ徒紊リニ政事ヲ談シ其ノ局粗暴ノ行爲ニ涉ルモノ甚タ尠シトセス此ノ風ヲシテ一轉惡界ニ導クアラハ國家ノ大事ニ關シ又如何ナル珍事ヲ見ルモ計ル可カラス會テ今日ノ有様アルヲ豫想シタルニ基キタルカ既ニ十九年ニ於テ高等警察ノ擴張普及ヲ謀リ各警察署長悉ク高等機密費ノ使用權ヲ與ヘラレ政治探偵ノ秘密ヲ分任セラル、ニ至レリ然ルニ今日ノ姿ニシテハ充分ナル實力ヲ備フルニ到ラサルノミナラス此ノ間ニハ多少ノ幣害ヲ生セントスルノ嫌ナキヲ得サルカ如シ今般訓令ヲ以テ探偵使用內規ヲ定メラレ又機密費ノ定額ヲ増加セラル、ノ所以ノモノ實ニ此ノ際面目ヲ改メ精神ヲ盡クシ實力ヲ備ヘ其ノ周到ヲ期セラル、ニ外ナラス從來三局ニ於テハ局員ニモ探偵者ヲ使用セシメ來リシモ各警察署長ニ於テ實力アル働キヲ見ルニ至ラハ殆ント其必要ナキヲ以テ既ニ今日一切之ヲ廢

シ其經費ヲ以テ各署ニ増加セラレタルモノニ有之候ニ付自今一層行届候様致度此段總監ノ命ヲ奉シ申進候也
高等警察探偵者配置表

署 町 宕 愛				署 橋 京				署名
合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	冠稱
四	—	—	—	四	—	—	—	人員
五〇	六二	一五	七八	五〇	六二	一五	七八	金額
—	—	—	—	—	—	—	—	圓
署 郷 本				署 町 川 小				署名
合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	冠稱
—	—	—	—	四	—	—	—	人員
五〇	五七	一〇	七八	五〇	五七	一〇	七八	金額
—	—	—	—	—	—	—	—	圓

署橋妻吾				署谷四				署布麻				署町松久			
合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部
舊額				舊額				舊額				舊額			
三				三				三				三			
一三八	一三五	一六八	一二二	一三二	一五	一六八	一二二	一三〇	一五	一六八	一二二	一三〇	一五	一六八	一二二

署宿新				署町田				署川石小				署坂赤			
合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部
舊額				舊額				舊額				舊額			
二								三				三			
二〇三	二五	二八	二〇〇	二三	一五	一六八	一二二	二三	一五	一六八	一二二	二三	一五	一六八	一二二

署町屋猿				署町麴				署谷下			
合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部
舊額				舊額				舊額			
三				三				三			
二〇七	三五	三七〇	二〇五	二〇四	一〇	一六八	二〇〇	二〇七	一〇	一六八	二〇〇

署橋泉和				署町本坂				署町生相			
合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部	合計	雜費	外部	内部
舊額				舊額				舊額			
四				三				三			
二〇三	一五	一五	一六八	三〇	一五	一六八	一二二	二〇七	一五	一六八	一二二

議員ノ議會ヘノ送迎ヲ禁ス

秘 田中總監 明治二十三年十一月二十二日

帝國議會開設中ハ特ニ靜謐安寧ヲ保護セサルヘカラス然ルニ議會召集ノ日或ハ其ノ開設ノ日ニ當リ議員ノ名譽ヲ發揚スルノ意ヲ以テ多衆相合シ議會ニ之ヲ送迎シ又ハ種々ノ運動ヲ爲サントスルモノ有之哉ニ相聞ヘ候右ハ治安ヲ害スルノ嫌アルモノニ付懇篤説諭ヲ加ヘ差止メラルヘシ

右訓令ス

警察急報假例規

秘第三號

警察急報假例規別紙之通相定ム

右訓令ス

明治廿三年十二月四日

警視總監 田中光顯

121

警察急報假例規

第一條 急報ヲ別ツテ左ノ二種トス

一 警察署急報

二 現場急報

第二條 凡ソ急報ノ須要タル先ツ其ノ事件ノ發生シタルコトヲ瞬速ニ申告スルニアリ故ニ其ノ事實ノ詳細ハ之ヲ第二ノ報告ニ讓ルヘシ

急報ハ電信又ハ急使之ヲ便宜ニ使用シ其速達ヲ期スヘシ

第三條 現場ノ急報ハ其事件ニ遭遇又ハ見聞スル者直ニ其ノ場ヨリ

一面總監及第三局長警察本署長一面所轄警察署ニ急報スヘシ

第四條 事件ニ遭遇スルモノニシテ現場ヲ離ルコト能ハサル場合ニ

於テハ人民ヲシテ其要領ヲ急報セシムル等臨機ノ處分ヲ爲スヘシ

第五條 第三局長ハ其急報ノ事項ニシテ他局ニ關係アルモノハ之ヲ

該局長ニ申報スヘシ

第六條 凡ソ急報ノ事項ヲ舉クレハ左ノ如シ

122

- 一 行幸行啓ノ際異常アリタルトキ
- 二 勅奏任官華族帶勳者及有位ノ者罰金以上ノ罪ヲ犯シタルトキ
- 三 外國公使及公使館員ニ關スル異常ノ事件アルトキ
- 四 外國人重輕罪ヲ犯シ又ハ外國人ニ對シ重輕罪ヲ犯シタルモノアルトキ
- 五 警部巡査ニ於テ保護防禦ノ爲拔劍シタルトキ
- 六 爆發物取締規則違犯者アルトキ
- 七 事柄ノ如何ニ拘ハラズ事二十人以上喧嘩口論シ爲ニ負傷シタルモノアルトキ
- 八 集會又ハ多數運動會ニ於テ異常アリタルトキ
- 九 罪囚ノ反獄逃走シタルトキ
- 十 政事上ニ關スル原因ヨリシテ斃殺セラレタルモノアルトキ
- 十一 天災事變ニ罹リ人畜ノ死傷家屋田圃ノ橫流破壞等異常アリタルトキ

第七條 前條ノ外奇事異狀アリ警察上最モ注意ヲ要スル事柄ト思料

スルモノハ之ヲ急報スヘシ

秘第八七六號 明治二十三年十二月六日

今般秘第三號ヲ以テ急報例御訓令相成候ニ就テハ警察署急報ニシテ電信又ハ急使ノ書狀ヲ以テ報告セラル、モノハ左ノ通御心得アルヘシ

- 一 急報ノ書狀ニハ別紙第一號ノ如ク(急報)ノ二字ヲ狀袋ノ表面ニ朱記セラルヘシ
- 一 電信ニハ別紙第二號ノ如ク「ウコ」ノ二字ヲ用紙ノ最頭ニ記載シ次野ヨリ本文ヲ認メラルヘシ

(別紙缺ク)

印刷所ノ調査ヲ開始ス

秘第三八號 明治二十四年一月二十三日

貴署御管内ニ於テ凡ソ機械舍密ハ勿論其ノ他ノ方法ニ由リ文書圖書ヲ印刷スル場所ハ豫テ御取調相成居候ハ、其ノ町名家號番地持主等至急御報告相成度

若シ又未タ御取調無之ニ於テハ直ニ御着手ノ上御報告相成度且ツ爾來ハ其ノ増減トモ其ノ時々御報告相成度此段及御照會候也

追テ豫テ御取調無之ニ於テハ不取敢其ノ旨御答相成度此段申添候也

常備機密費ノ廢止

秘第一號

二十四年度政費ノ基本大ニ節減セラレタルノ影響本廳ニ屬スル高等警察機密費ニモ莫大ナル減少ヲ承ケ到底前年度ノ姿ヲ持テ保持スルコト能ハサルニヨリ不得止其署常備ノ機密費ヲ廢止ス故ニ若シ臨時

經費ヲ要スル場合ニ在テハ其都度狀ヲ具シ請求セララルヘシ

右内訓ス

明治二十四年四月廿八日

警視總監 園田安賢

露國皇太子殿下ノ遭難

五月十一日午後九時內閣總理大臣伯爵松方正義ヲ御前ニ召サレ左ノ通 勅語アラセラレタリ

今次 朕カ敬愛スル露國 皇太子殿下來遊セララル、ニ付 朕及 朕カ政府及臣民ハ國賓ノ大禮ヲ以テ歡迎セントスルニ際シ圖ラサリキ途大津ニ於テ難ニ遭ハセラル、ノ警報ニ接シタルハ殊ニ 朕カ痛惜ニ勝ヘサル所ナリ函カニ暴行者ヲ處罰シ善隣ノ好誼ヲ毀傷スルコトナク以テ 朕カ意ヲ休メシメヨ

勅令第四十六號 明治二十四年五月十六日

内務大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ新聞雜誌又ハ文書圖書ニ外交上ニ係ル事件ヲ記載スル者ヲシテ豫メ其草案ヲ提出セシメ之ヲ檢閲シテ其記載ヲ禁スルコトヲ得之ヲ犯ストキハ發行人編輯人又ハ發行者著作者ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
内務大臣ノ檢閲ヲ經タル事項ヲ轉載スルハ前項ノ限ニアラス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

文書取締

明治二十四年五月十七日

文書圖書取締ノ件別紙ノ通内務大臣ヨリ訓令有之候條取締方不都合無之様嚴重ニ注意スヘシ
右訓令ス

(別紙)

訓第四四三號

警視總監 園田安賢

文書圖書ハ出版條例ニ依リ處分シ草案檢閲ハ當分不致ニ付出版届出ヲ爲サス又ハ發行日限前ニ發賣頒布スルモノ無之様取締相立殊ニ辻讀賣、錦繪ノ類右様ノ所爲無之様特ニ嚴重注意セラルヘシ
右訓令ス

明治二十四年五月十七日

内務大臣

檢閱内規ノ制定

秘第五號 明治二十四年五月十八日

緊急勅令發布ニ付政談集會之義別紙檢閱内規ニ準シ取締可致旨内務大臣ヨリ訓令相成候條注意セラルヘシ
右訓令ス

警視總監 園田安賢

檢 閱 内 規

- 一 左ノ各項ニ觸ル、モノハ掲載ヲ禁スヘシ
- 一 日露兩國ノ皇室及政府ノ處置ヲ非難シ又ハ陰ニ不滿ノ意ヲ表スルモノ例之ハ露國ノ要求ノ件ヲ想像シテ其不當ヲ鳴ラシ又ハ慰問ノ大使ヲ派遣スルヲ非難スルノ類
- 一 露國皇太子殿下竝ニ其一行及露國公使等ノ言行ヲ非難スルモノ
- 一 暴行者ニ相憐ノ情ヲ表ハスモノ及其刑名ヲ論シ其裁判ニ關スル記事
- 一 締盟國ノ皇室及政府ノ感情ヲ害シ又ハ民心ヲ激昂セシムルモノ例之ハ露國ハ此機ニ乘シ平素ノ野心ヲ逞フセントスルノ意アリ又ハ清國人民ハ此回ノ事件ヲ竊カニ喜ヒ居ト云フノ類
- 一 條約改正ニ付人心ヲ動搖シ又ハ疑惑ヲ生セシムヘキ事項
- 一 政府ノ機密ニ屬スル事件
- 一 外交上ノ談判並兵事ニ關スル事項

- 一 交際上ノ不利ヲ來タシ又ハ人心ヲ動亂セシムルモノ例之ハ露政府ハ云々請求ヲナシタリ又ハ出兵ノ爲軍艦ヲ派遣シ若クハ引揚ケタリト云フノ類
- 二 外國圖書新聞ヲ反譯シテ轉載スルモノト雖モ前數項ニ依ルヘシ
- 三 凡テ掲載ヲ許スルニ當リテハ事ノ重大ナルモノハ其ノ通信報告等ノ出所ヲ證明セシムルコトヲ要ス

爆發物取締内規制定

秘第六號

爆發物取締内規別紙ノ通相定ム

右訓令ス

明治二十四年五月二十七日

警視總監 園田安賢

(別紙) 爆發物取締内規

第一條 爆烈彈ヲ製造シ不穩ノ企ヲ爲ス詭激ノ徒取締方内務大臣ノ



訓令ニ基キ官房第一部ニ委員二名ヲ置ク
警察署ニハ其管内ノ取締ヲ周密ナラシムル爲特ニ擔任ノ警部一名
ヲ設クヘシ

第二條 委員ハ全般ニ渉ル左ノ簿册ヲ設ケ取締ノ材料ニ供スヘシ

一 視察名簿索引中別ニ壯士及壯士ヲ使用致唆シ又ハ壯士ト共ニ
運動ス者ノ名簿索引ヲ設クヘシ

二 壯士ノ住居スル宿屋、下宿屋及俱樂部ノ明鑑簿ヲ設ケ各住居
ノ年月日轉居他行歸國及家中ニ於ケル舉動來人ノ氏名ヲ時々記
入スヘシ

第三條 警察署ニハ前條第二項ノ明鑑簿ヲ設ケ其管内ニ屬スルモノ
ヲ記入スヘシ

第四條 警察署長ハ左ノ事項アル毎ニ即時官房第一部及關係アル警
察署長ニ報告スヘシ

一 壯士ノ舉動ニ注意ヲ要スル事情アルトキ
二 壯士ノ轉居又ハ他行歸國スルトキ

三 壯士ト認ムヘキモノ新ニ生シタルトキ

四 壯士二日以上居所ノ不分明ナルトキ

第五條 委員ハ府下ニ在ル藥舖、藥種商ノ名簿ヲ設ケ注意ヲ要スル
事項アルトキハ時々之ヲ記入スヘシ

警察署ニハ其管内ニ屬スル前項ノ名簿ヲ設クヘシ

第六條 警察署擔任警部ハ毎月二回以上各藥舖藥種商ニ就キ左ニ記
載スル察質ヲ買フ者ノ氏名相及其舉動等ヲ視察スヘシ

一 鷄冠石

二 雄黃

三 雌黃

四 金硫黃

五 鹽酸加錫

第七條 前條視察ノ景況ハ速ニ署長ニ申告シ署長ハ意見ヲ附シ官房
第一部長ニ報告スヘシ

附則 警察署長ハ本則ニ依リ擔任警部ヲ命シタルトキハ直ニ其官氏

名ヲ届出ツヘシ

(参照)

法律第十號 明治二十二年三月十五日

藥品營業並藥品取扱規則 (抄)

第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書アルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ臚寫シ置クヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

内務省令第四號 明治二十二年三月二十七日

藥品巡視規則 (抄)

第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

警察令第三十二號 明治二十二年十一月六日

何人タリトモ格魯兒酸加溜謨コロールサンカルム (鹽素酸加溜謨) 又ハ鹽酸加里又ハ鹽酸加里 ヲ賣買授與スルトキハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ヘ届出認可ヲ受クヘシ但シ警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授與ヲ爲シタルモノハ三日以上十日以内ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

秘第二四五號 第一部長 明治廿四年五月二十七日

今般秘第六號ヲ以テ爆發物取締内規被相定候處右ハ内務大臣ノ訓令ニ基クモノニ有之候ニ付爲念別紙訓令及警保局長ノ照會書及御送致候也

訓第四七五號

近來粗暴詭激ノ徒動モスレハ爆裂彈ヲ製造シ不穩ノ企ヲ爲スモノ有之既ニ夫々取締可有之ハ勿論ニ候ヘトモ自今尙一層注意ヲ加ヘ警部一名又ハ二名ヲ特選シ右ニ關スル委員ヲ内命シ且各地警察署ヘモ内訓シ專ラ右委員ト氣脈ヲ貫通セシメ又近接府縣ノ間ニ在テモ互ニ聲息ヲ通シ彼ノ徒ヲシテ全ク其企圖ヲ爲スノ覺隙ナカラシメ萬一爆裂彈ノ製造ヲ計畫シ其準備ニ着手セントスル者アルトキハ直ニ之ヲ探知シ未然ニ防制シ得ル様嚴重取締ノ方法相立テラルヘシ
但本文委員ヲ命シタルトキハ直ニ其官氏名ヲ届出テラルヘシ

明治二十四年五月二十三日 内務大臣 西郷從道

秘牒第二三號

今般爆裂彈製造不穩ノ企圖ニ關シ取締方訓令相成候處右取締方ニ就テハ種々ノ方法モ可有之候得共差當リ彼ノ壯士ナル者ノ取締ヲ一層嚴密ニシ其日常ノ舉動ヲ巨細偵知スルハ勿論彼等ノ宿泊スル宿屋、下宿屋等ニ充分取締ノ手配ヲ爲シ且藥舖藥種商ノ取締ヲ周密ナラシムル等ノ如キハ就中必要ノ事ニ可有之ト思考致候尙ホ右取締ノ方法手續等御設相成候ハ、御内報有之度此段申進候也

明治二十四年五月二十三日 警保局長 小松原 英太郎

津田三藏事件終決

秘第七號

津田三藏被告事件裁判判決決了シタルニ付新聞檢閱内規第三ノ内及其刑名云々ヲ削除ス因テ自今兇行者ノ刑名及裁判ニ關スル記事論說ハ露國ノ感情ヲ害シ又ハ民心ヲ蠢惑激昂セシムル虞アルモノ、外ハ

都へテ其掲載ヲ禁スルニ及ハス政談演說取締ニ於テモ亦同様ニ心得
ヘキ旨内務大臣ヨリ訓令セラレタリ

右訓令ス
明治二十四年五月二十八日

警視總監 園田安賢

發禁圖書

秘第十號

近來出版物中治安ヲ妨害シ若クハ風俗ヲ壞亂スルノ故ヲ以テ其發行
ヲ停止セラル、モノ地方ニ於テ多ク有之其甚シキニ至リテハ露國
皇太子殿下御遺難ノ没體ヲ無届出版シ之ヲ團扇ニ製シ發賣スル者ア
ルヲ見ル右ハ獨リ地方ニ限ラス或ハ東京市下ニ於テモ類似ノモノ有
之哉モ保シ難ク候條自今取締上一層注意セラルヘシ

右訓令ス

明治二十四年六月十日

警視總監 園田安賢

銃砲火藥類商取調

官房第一秘第三〇八號 明治廿四年六月十日

貴署管内左記營業者町氏名取調へ御報告相成度此段及照會候也

銃砲及火藥商

煙花製造人

摺附木製造人

製藥場

追テ同營業者開廢ノ都度御通報有之度此段申添候也

機密費配布方

警本發第三六四號 明治廿四年六月一日
 各署機密費ノ儀ハ夫々豫算額ヲ定メ配賦相成居候儀ニ付右額ニ超過セサル様御支辨可相成ハ勿論ニ候處往々事故増加等ノ爲臨時下渡方請求相成候向モ有之候處右等ノ都度臨時下渡候時ハ豫算全體ニ超過シ到底支辨難相立候條萬一重要ノ事件等出來不足相生シ不得已場合ニ於テハ翌月分ヲ繰上ケ御渡可及候間事故ノ有無ニ不拘一ケ年ノ定額ニ超過セサル様御注意有之度此段豫テ及御通達置候也

警察官吏ト政談集會

秘第九號 明治二十四年六月三日
 集會及政社法ノ規定アルニモ拘ハラヌ警察官吏ニシテ往々政談集會ニ臨ミシモノ有之哉ニ相關ヘ不都合不尠候條嚴密取調ヘ上其實況申出ラルヘシ

壯士ノ政治丸強賣

官房第一部秘第二九九號 明治廿四年六月十日
 頃日大阪府北區此花町二丁目百二十八番地津田官次郎ナル者日本政治丸ト唱ヘル賣藥ヲ製シ壯士體ノ者ヲ以テ共々所々強賣スル聞有之本日總監ヨリ訓令相成候儀ニ有之候而シテ其強賣人中ニハ前倉節吉ナル者モ有之候條充分御觀察ノ上時々景況御報告相成度此段申進候也

秘第一一號

近來府下ニ於テ壯士體ノ者賣藥行商ノ賣子トナリ所々ノ人家ニ立入り強賣スル者有之趣相關候條取締方嚴重ニ注意セララルヘシ
 明治二十四年六月十日

警視總監 園田安賢

發行停止ノ取扱

秘第四〇九號 明治二十四年七月十五日

新聞紙條例第十九條ニ依リ新聞紙發行停止ノ處分ニ附セラレ第二十条ニテ發賣頒布ヲ禁セラレタル場合ニ於テ新聞紙雜誌ノ縱覽所等ニ在ルモノ、處分方ハ明治二十一年十一月當廳請訓ニ對スル指令ノ通ニ有之又鐵道停車場待合等ニ借付タルモノニ在リテモ均シク公衆ノ縱覽ニ供スルモノナレハ頒布ノ實アルニ付事務長等ニ其旨ヲ談示ノ上取除カシムヘキ旨今般其筋ヨリ通牒ノ次第有之候條自今右様御取計相成度此段申進候也

刑死人葬式等取扱

秘第一二號

内務省令第十一號發布ニ付其取扱方別紙之通相定ム
右訓令ス

明治二十四年八月十一日

警視總監 園田安賢

第一條 第三項石材又ハ木材ノ外金屬等ヲ用ヒ及其形チ人像等ニ擬シ其ノ他華美ノ裝飾及彫刻等ヲ許サ、ルハ勿論普通一般ノ墓標ヨリ巨大ニシテ衆目ニ觸レ易キモノ亦異様ノ意義ニ包含スルモノトス

第二條 刑死ノ罪質ニ二種アリ甲ハ皇室ニ對スル罪及政治上ノ犯罪ニ通常謀殺ノ處刑ヲ受ケタルモノト雖モ其目的政治上ニ關スルモノハ包含ス一又ハ兇徒聚集罪ノ類トシ乙ハ常時犯罪トス又均シク刑死者ニシテ十數年ヲ經過シタルカ爲ニ自ラ社會ノ感情ヲ薄クシタルモノアリ犯行僅ニ數年ノ前ニアリテ而カモ其行爲ノ甚シク人心ヲ感動セシムルモノアリ警察署ハ宜シク以上ノ種別ニ依リ祭祀ノ出願アルトキハ其罪質及感情ノ厚薄影響ノ如何等ヲ攻査シ甲種ニシテ其犯行ノ數年ヲ出テサルモノハ渾テ公然ノ祭祀ヲ許サス其他ノモノニ在テハ甚シク世道人心ニ影響ヲ及ホスノ虞ナキモノニ限り之ヲ許可スルノ方針ヲ採ルヲ要ス

新聞紙其他ノ方法ニ依リ廣告ヲ爲サスト雖モ親屬以外ノモノヲ招

請シ其他追薦會等ヲ催フスモ亦公然ノ祭祀トナス

第三條第二項本項ハ新聞紙條例第十七條集會政社法第十一條ニ規定スルノ外一切ノ行爲ヲ以テ公然賞揚哀擗悼スルヲ禁シタルモノナレハ死者ノ遺物ヲ陳列展覽シ又ハ墓前ニ必要ナル花挿香壺等ヲ親族ヨリ供スルモノ、外旗幟燈臺其他ノ物品ヲ備ヘ又ハ詩歌文章等ヲ墓前ニ供ヘ賞揚哀悼ノ意ヲ表スルノ行爲ハ總テ禁止スヘキモノトス

第五條本條ハ政治上ニ關スル罪犯ニシテ其罪死刑ニ該ラス又ハ自殺々害等ニ依リ刑ノ宣告ヲ受クルニ至ラスト雖モ其行爲ノ世道人心ニ關係アルモノ(例ヘハ津田三藏、西野文太郎、來島恆喜等ノ如キモノ)ニ向テ必要ノ處分ヲ施行セントスルノ趣意ニ外ナラス故ニ本條ハ臨機第一條第二條第三條中其必要ト認ムル條項ニ係ル所爲ヲ禁シ隨時適應ノ處分ヲ爲スヲ要ス其命令ハ其親族又ハ關係人ニ對シ命令書ヲ發シ又ハ口達シテ請書ヲ取り置キ墓地及埋葬取締規則第七條ニ依リ刑死者及本令第五條ニ掲クルモノ、爲ニ碑表ノ建設ヲ願出ツ

ルモノアルトキハ墓地ノ内外ヲ問ハス潭テ之ヲ許可セサルヲ要ス本令ハ墓標ノ建設第一條ニ觸ル、モノト雖モ潭テ既往ニ及ホサ、ルハ勿論トス

選舉前ノ取締

秘第十三號

衆議院議員中時々補缺選舉有之且ツ其改選期ハ猶二年ノ後ニ在リト雖モ其改選ニ際シテ候補者タラント欲スル者ハ已ニ之カ準備ニ着手シ機ニ投シ事ニ應シテ汲々選舉人ノ歡心ヲ買ヒ名望ヲ收メ其地歩ヲ作ラントスルモノ、如シ加之第二期ノ帝國議會開會ノ時期モ既ニ眼前ニ迫リ候處其提議々決ノ如何ニ因テハ或ハ解散ヲ命セラル、不得止ノ不幸ヲ見ルニ至ランコト萬々無之トモ保シ難シ就テハ各選舉區ニ付候補者タルヘキ着實ノ人物ヲ査定シ豫メ之カ準備ヲ爲スハ實ニ今日ノ最大要務ナルヘシト信ス茲ニ內務大臣ヨリ訓令ノ趣モ有之ニ

付別紙ノ事項ヲ内密調査シ來ル九月二十日迄ヲ期シ内報スヘシ
右訓令ス
明治二十四年八月三十一日

警視總監 園田安賢

(別紙)

- 一 現衆議院議員中着實ノ黨派ニ屬スル者ニシテ解散改選舉ノ場合ニ於テ必ず再選シ得ラルヘキ人名
- 一 同上ノ者ニシテ近來勢力ヲ失シ再選ノ見込ナキ場合ニハ何等ノ人物當選シ得ヘキ見込アルカ其人物ノ黨派別(若シ黨派ニ屬セサレハ其平素抱持スル所ノ主義)經歷竝ニ現議員ニ對スル勢力ノ比較
- 一 現衆議院議員中自由黨又ハ改進黨ニ屬スル者ノ選舉區ニ於テ着實溫和ノ人物ニシテ之ニ競争シ得ヘキ者ノ見込(官吏ト民間トトヲ問ハス)及其人物ノ黨派(若シ黨派ニ屬セサレハ同上)經歷竝現議員ニ對スル勢力ノ比較

- 一 同上ノ競争者ナキトキハ拘シク自由黨又ハ改進黨ニ屬スル者ノ内ニテモ其性質持論ノ比較的ニ溫和順良ナル者及其經歷竝現議員ニ對スル勢力ノ比較
- 一 以上候補者タルヘキ者ノ資産、職業、年齢其ノ他親密ナル交友ノ人名黨派別等
- 一 各選舉區各黨派若クハ無所屬派ノ勢力比較竝ニ區内各市町村長助役其他勢力重立チタル者ノ人名職業及黨派別(若シ黨派ニ屬セサレハ其平素抱持スル所ノ主義其他資産、經歷、交友ノ黨派別等ノ概要ヲ可成附記スルヲ要ス)

無賴ノ壯士横行

秘第一五號

近來世ニ所謂無賴ノ壯士ナルモノアリ多クハ一定ノ生業ナク人ノ使
碌ヲ受ケテ妄リニ勢ヲ張り強ヲ粧ヒ利ノ在ル所ニ隨テ各地ニ横行シ

上 廟黨ノ政治ヨリ下民間ノ私業ニ至ル迄暴力脅威ニ藉リ其權利ノ行用ヲ強制作用セントシ又議員ノ選舉等ニ關シテハ己レニ利スルモノニ黨シテ他ノ權利者ヲ妨害セントシ貨殖利誘要脅牽制其弊實ニ至ラサルナク若シ今日ノ情勢ヲ以テ推移スルトキハ遂ニハ政綱ヲ紊リ公安ヲ害シ國家立憲ノ基礎ヲ毀壞スルニ至ランモ計ルヘカラス故ニ右等無賴ノ徒苟モ前陳ノ如キ所業アリテ法網ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ檢按糾治シテ毫モ假借スルコトナク以テ安寧秩序ヲ其大ニ亂レサルニ及テ之ヲ維持セサルヘカラス就テハ各位ニ於テ深ク此意ヲ體シ一層御注意ヲ周密ニシ凡ソ右等ノ所業アルトキハ最モ機敏ニ其證據等ヲ蒐集シ檢按糾治ノ効ヲ奏セシメ以テ保安ノ目的ヲ達スヘシ特ニ内務大臣ヨリ訓令モアリ右訓令ス

明治二十四年十月十四日

警視總監 園田安賢

秘第五七九號 明治二十四年十月十四日
 秘第一五號訓令ノ趣ハ内務大臣ヨリ司法大臣へ協議濟同大臣ヨリ檢事へモ同様ノ趣旨ヲ以テ内訓相成候趣ニ付此段爲念及内牒候也

新聞通信業者調査

秘第六一八號 明治二十四年十月二十四日

近來所々ニ於テ新聞通信業ヲ營ムモノ殖エ既ニ其都度御内報相成候向モ有之候得共此際左記各項ニ準シ内密御取調可成至急御報相成度此段及御照會候也

追テ自今開業ノ都度又ハ既設ノ分ニシテ組織上變更ヲ爲シタル場合ハ速ニ御内報相成度爲念申添候

- 一 營業ノ目的
- 一 社長社員並ニ通信員
- 一 資本主

- 一 陰然維持ニ盡力スルモノ
- 一 氣脈ノ關係若クハ黨派ノ機關等

高等探偵者使用手順

秘第六二三號官房一部 明治廿四年十月廿六日

自今高等警察探偵者使用ニ就テハ左之通御心得相成度候

- 一 新ニ有用ノ人物御推舉相成候節ハ其ノ來歴書ニ當人ノ從事スル目的運動ノ區域ヲ詳記シ御協議アリタシ
- 一 探偵者ノ報告書ハ必ス當人ノ自筆ノモノヲ以テ御差出相成警察署ニハ其ノ謄本ヲ保存セラルルコト

丙第一七五號 明治廿六年三月十日

向後御使用相成候際者ノ報告ハ當部調査ノ都合有之際者ノ報告ヲ其

ノ盤御回送相成ノト御淨寫ノ上御送附相成候場合トテ開ハス渾テ其ノ假名ヲ付記相成候様致度此段申進候也

議會開會ト要視察人

秘第七一六號 明治二十四年十一月二十七日

議會業已ニ開會セラレ警察ノ取締ヲ要スルハ最モ周到ナラサルヲ得サルニ際會致候ニ就テハ高等警察上視察ヲ要スル人々ノ出入轉宿其ノ他ノ舉動ヲ報告セラルルニハ尤モ敏捷ノ方法ヲ以テ時機ヲ失セラレサル様精々御注意相成度此段總監ノ旨ヲ受ケ特ニ申進候也

外國人宿泊

警察令第十八號 明治二十四年十一月二十七日

宿屋營業者ト否トニ拘ハラズ外國人ヲ宿泊セシメタルトキハ左ノ事

項ヲ詳記シ速ニ宿泊スル場所ノ警察署ヲ經テ警視廳ニ届出ヘシ但遊歩規程外ノ地ニ於テハ旅行免狀ヲ携帯セサル者ヨリ宿泊ノ申込ヲ受ケタルトキハ即時警察官更ヘ届出ヘシ

一 國籍住所氏名年齢職業

二 宿泊ヲ要スル事由

三 宿泊一週間以上ニ及フ者ニ付テハ一週間毎ニ其滞在ヲ要スル

事由

四 出發シタルトキハ其日時

本令ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

官房秘第五七號 明治二十四年十一月二十八日

今般警察令第十八號ヲ以テ外國人ヲ宿泊セシメタルトキハ速ニ可届出旨發布セラレ候處速ニトハ二十四時間以内ト云フノ意義ニ有之候

遊歩規程外ニ於テ旅行免狀ヲ携帯セサル外國人ヨリ宿泊ノ申込ヲ受ケ届出ヲ爲シタルモノアルトキハ明治十八年十二月二十一日内達外國人取扱心得第十八條ニ準據シ御取扱相成候様致度依命此段及御通知候也

官房第五七六號 同日

今般警察令第十八號發布相成候處中ニハ本邦駐在外國公使館員若クハ領事館員ニシテ本邦人ノ名義ヲ藉リ雜居地外ニ一家ヲ構ヘ本邦人ヲ住居セシメ宿泊同居スル者可有之候得共右ハ同令ニ依リ不取扱其儘差置候内意ニ付命ヲ受ケ此段及御通知置候也

吏員竝反對議員ヲ陷牢

訓 明治二十四年十二月十四日

近來市町村吏員及議員ニ係ル重罪輕罪ノ告發事件ニ關シテ市町村制

第九條ヲ利用セントスル一種ノ弊害ヲ發生シタル趣相聞ヘ候右ハ政黨員其ノ他黨派ノ間ニ於テ各其黨派ニ利アル市町村吏員及議員ヲ選舉セントスルノ目的ヲ以テ他黨派ノ選舉ニ係ルモノニ對シ其職務上ノ所爲ニ對ツテ無謂非難ヲ試ミ甚シキハ金錢出納上不正ノ所爲アル等種々ノ事實ヲ故ラニ毀造シテ之ヲ檢事ニ告發シ檢事ヨリ豫審ニ附スルヲ期トシテ其職務ヲ解カシメムトスルノ惡手段ニシテ已ニ一二地方ニ於テハ此弊害相行ハレ候趣ナレハ延ヒテ當地方ニ傳播センモ難計右ハ實ニ弊害ノ甚シキモノニ付爾後市町村吏員ニ係ル公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ告發アリタルトキハ其告發者ノ黨派種類其裏面ノ目的等ニ至ルマテ周密ニ其内情ヲ偵察シ檢事ノ取調上ニ便宜ヲ與ヘ是等陰險ノ手段ヲ爲スモノヲシテ不良ノ目的ヲ達スルニ至ラシメサル様注意セラルヘシ但シ本件ニ就テハ司法大臣ヨリ檢事ヘ訓令ノ旨モ有之趣ニ付爾後本文ノ事件ニ遭遇セシトキハ速ニ檢事ニ協議セラルヘシ

解散ト治安

訓令號外

今般衆議院ノ解散ヲ命セラレタルニ就テハ各選舉區人民ニ於テ或ハ喧噪紛擾ヲ來シ平素ノ業務ニ安ンセサルノ狀況ニ至ルヤモ難計ニ付精々鎮靜ノ途ヲ盡スヘシ又議員選舉等ニ關シ自然法律命令ニ違反スル等ノ所爲アルニ於テハ毫モ假借スル所ナク嚴重ノ處分ヲ爲シ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトニ努メララルヘシ

右訓令ス

明治二十四年十二月二十五日

警視總監 國田安賢

秘第一八號

衆議院解散ノ命アリ昨夜及訓令タル次第モ有之候處集會又ハ政社ニ對スル處分方左ノ通相心得ラルヘシ

右訓令ス

明治二十四年十二月二十六日

警視總監 園田安賢

- 一 舊議員タル者ハ衆議院ノ解散ト同時ニ其資格ヲ失ヒタルモノナレハ事苟モ政事ニ關スル事項ヲ論議スル爲舊議員異黨派ヲ以テ相集會シ或ハ通信ヲ爲スモノアラハ法律ニ照シ相當ノ處分ヲ求ムヘシ
- 一 新聞雜誌等ノ記事ニ依リ其發行ヲ停止セラレタル論說ト等シキ演說ヲ爲スモノハ悉ク停止又ハ解散ノ處分ヲ行フヘシ
- 一 詭辯激論以テ安寧秩序ヲ紛擾セシメントスルノ講談論議ハ停止解散其宜ニ從フヘキハ勿論ナリト雖モ國家ノ治平秩序ヲ害スルノ意ニ出テスシテ解散ノ得失ヲ論シ或ハ政府ノ政略ヲ批難シ又ハ其是非ヲ評スルモノ、如キ言論ハ之ヲ制限スルノ限ニアラス

細民ヲ煽動スルモノ取締

秘第一七號

近來勞役者又ハ細民ノ名義ヲ以テ帝國議會ニ新事業ノ問題ヲ可決セシムルノ運動トシテ多衆相會シ以テ議院又ハ議員集會所ニ押寄せ強願脅迫ノ手段ヲ行ハンコトヲ企ツルモノ有之趣而シテ其勞役者及細民ナル者多クハ新事業ニ對シ生活上直接ノ關係アラスシテ無産無業ノ輩ニ過キス加之事茲ニ及フ所謂ノ者ハ他ニ爲ニスルモノアリ利ヲ以テ彼等ヲ誘惑シ其教唆ニ依テ不穩ノ運動ヲ計ルニ外ナラス故ニ嚴重取締ヲ施シ若シ特ニ判明スルモノ有之時ハ假借ナク相當ノ處分ニ附セララルヘシ

右訓令ス

明治二十四年十二月十八日

警視總監 園田安賢

過激演說者取締

丙秘第一二號 一部長 明治二十五年一月十二日

過激派演說者取締方ノ義ニ付警保局長ヨリ別紙ノ通通知有之就テハ東京府下ニ於テモ右ニ依リ御取締相成度及御通牒候

過激派ノ者演說取締方ノ義ニ付別紙ノ通本日各府縣知事へ電報通牒致候就テハ貴廳ニ於テモ右振合ニ依リ御取締相成度此段及御通牒候也

一月八日

警保局長

(別紙)

過激派ノ者ハ政府ノ信用ヲ傷ケン爲無闇ニ無根ノコトヲ構造シ假令ハ政府ハ丸ノ内ノ地所ヲ拂下ケ其ノ金ノ行先キハ判ラヌトカ大藏省ハ使用スヘカラサル金ヲ使フトカ等ノ如キコトヲ演說シタル場合ハ停止又ハ解散スルハ其實況ニ依ルヘシト雖モ右等ノ演說ハ其官名ヲ指サ、ルモ政府即チ内閣大臣等ヲ侮辱シタルモノトナシ檢事ト協議ヲ遂ケ司法處分ニ附シ然ルヘシ

豫戒令施行則制定

秘第一號

今般勅令第十一號豫戒令公布相成候ニ付就テハ其施行則別紙ノ通相定ム

右訓令ス

明治二十五年一月二十九日

警視總監 園田安賢

豫戒命令施行則

第一條 命令ヲ執行スヘキ事項ニ該當スル者アルヲ認知スルトキハ其詳細ノ狀況ヲ具申スヘシ

第二條 本令第一條第一ハ先ツ其平常粗暴ノ言論行爲ヲ以テ殆ント業務ト爲ス者又第一條第二又ハ第三ハ其平素粗暴ノ聞ヘアル重立チタル者ニ對シテ施行シ調査上最モ慎重鄭重ヲ加フルヲ要ス又第一條第四ニ該當スルモノハ十分ノ證據アルヲ要ス單ニ嫌疑アルノミニテハ豫戒命令ヲ爲スヘキモノニアラス

第三條 本令第二條ニ依リ命令ヲ爲シタルトキハ其命令者所在地ノ警察署ハ常ニ隱密ニ監視ヲ施シ違犯スル事アル時ハ直ニ相當ノ處分ヲ行フヘシ

第四條 受命令者住居ヲ轉スルノ届出ヲ爲シタルトキハ其警察署ハ新住居ノ地ノ警察署ヘ一面急報シ後取締上ノ引繼ヲ爲スヘシ

第五條 本令第六條ニ該當スル改悛ノ者アルトキハ所轄警察署長ハ其情狀ヲ具シ命令ノ解除ヲ稟申スヘシ

第六條 本令第七條ニ依リ命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ届出ヲ爲スノ義務アリト雖モ旅店等ニ於テ實際一々其旅客ノ果シテ受命者ナルヤ否ヲ知ルコト容易ナラス故ニ官房第一部長ヨリ命令ヲ爲シタル通知ヲ受ケタルトキハ其受命令者ノ氏名年齢等所轄ノ各旅店ニ之ヲ通達シ左ノ事項ヲ内示シテ時々觀察ヲ行フヘシ

- 一 受命令者出入ノ時間及一泊以上外泊スルトキハ其ノ行先
- 二 受命令者ヲ來訪シタル者及常ニ交際スル者ノ氏名

三 他人ニ送り又ハ他人ヨリ來ル書狀ノ氏名及其宿所

四 受命令者日常ノ業務及行爲ニ異狀アルトキ

第七條 受命令者觀察ノ狀況及異狀アルトキハ時々報告スヘシ

丙第三九號第一部長 明治廿五年二月一日

豫戒令ノ儀ニ付左記ノ條項内務大臣ヘ伺出候處別紙ノ通指令相成候間此段及御通牒候也

豫戒令ニ付伺

第一條 平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者ト雖モ一定ノ生業ヲ有スルニ於テハ第一條第一ニ依リ處分スルコトヲ得サルヤ

第二條 法律ハ既往ニ遡ルヲ得サルモ一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者ハ其性質ノ繼續ト見做シ豫戒令公布ノ後ニ於テ粗暴ノ言論行爲ナキモ之レニ命令ヲ爲スコトヲ得ルヤ

第三條 一定ノ期限トハ受命令者ノ如何ニ由テ適宜其期限ヲ指示ス

ヘキモノ有之哉又ハ受命令者ノ申立ツル所ニ任セテ之レヲ定メ然ルヘキヤ

第四條 豫戒命令ハ之ヲ解除スルニ非サレハ其人ノ終身ニ及フモノノ如シ果シテ然ラハ命令ヲ受ケタルヨリ二年以後ニ於テ違背スルモノアル時ハ如何處分スヘキヤ

第五條 豫戒命令ハ其一地方ニ限り有効ノモアニシテ則チ受命令者ハ他ノ地方ニ至リ之レヲ犯スコトアルモ罪トナラサルハ勿論ト心得可然哉

(別紙)

明治二十五年二月一日

品川内務大臣

一月二十九日豫戒令ニ付伺之件左之通

第一條 第二條 伺之通

161

第三條 土地ノ狀況ト受命令者ノ境遇等ヲ斟酌シ一ヶ月乃至二三ヶ月以内ニ於テ適宜期限ヲ定ムルモノトス

第四條 豫戒命令ハ三年ヲ以テ一期トス故ニ其期限ヲ經過スルトキ

162

ハ命令ノ効力ハ消滅スルモノトス

第五條 豫戒命令ハ全國各廳府縣ニ通用スヘキモノトス若シ受命令者他管内ニ移住シタルトキハ其關係書類ヲ添ヘテ速ニ之ヲ其地方廳ニ移送スヘシ

總選舉ト不穩行動

秘第二號

自今衆議院議員總選舉ノ爲各地到ル處人心此ノ一途ニ傾向シアルカ如シト雖モ不逞ノ徒ハ此際機ニ乘シ如何ナル不穩ノ企ヲ爲シ或ハ危険ナル行爲ヲ計ルモノ萬無キヲ保シ難シ各署長ニ在リテハ素ヨリ其邊ニ注意アルハ深ク信スル處ナリト雖モ尙ホ充分視察ヲ遂グ苟モ國家ニ害ヲ謀ルモノアル時ハ未發ニ之ヲ防制シ得ル様精々注意セラルヘシ

右訓令ス

明治二十五年二月五日

警視總監 園田安賢

機密費使途竝ニ領收

丙秘第一七六號 明治二十五年四月廿七日

牒者使用竝ニ機密費支出ニ付總監ヨリ當部ニ對シ嚴重内訓ノ次第モ有之候條以來御使用ノ牒者ニ下渡スヘキ手當金ノ如キハ必ス本人自筆ノ證書ヲ呈シ御請求相成度此段及照會候也
但シ本人自筆ノ證書ニハ變名ヲ用ヒ候モ不苦候事

丙秘第四二九號 明治二十五年八月九日

毎月御受取相成候機密費ノ受領書ニハ間々二重ニ屬シ候モ有之候ニ付自今左之通御心得相成度
署長名受領證書ハ單ニ雜費ニ限ルモノトシ其ノ他ハ牒者ノ受領證

書ニ署長捺印セラレ御受取相成度若シ機密費御受取定日迄ニ牒者ニ手當金御渡難相成金額ハ署長名借用證書ヲ以テ假ニ御受取相成
逐テ本證書ト引換方御申出可相成
右申進候也

貴衆兩院へ急報

秘第四號 明治二十五年五月三十一日

貴衆兩院書記官長ヨリ依頼之趣有之候條帝國議會開設中政治上ニ關スル重大ノ出來事又ハ兩院議員及要路ノ顯官等ニ關シ事變相生シ候際ハ所轄警察署ハ其ノ要領ヲ捕ミ直ニ兩院書記官長ニ急報セラルヘシ
右訓令ス

逕乙第九一號本部 明治二十六年六月二日

金山貴族院守衛部長ヨリ帝國議會派出警察官へ宛テ別紙之通打合有之候趣ニ付若シ今後別紙ノ如キ事件有之候ハ、可成議會派出警部へ御通報相成候様致度此段申入候也

(別紙)

自今若シ國務大臣及兩院議員身上ニ付不通ノ事變出來候節ハ其旨直ニ所轄警察署ヨリ警官又ハ小官宛ニテ飛報相成候様此際豫メ御打合申置度右ハ其筋へ夫々御協議覺相成度候也

金山貴族院守衛部長

帝國議會派出警察官 御中

牛刀ノ處分タル勿レ

165

内訓第二號 明治二十五年六月二十五日
近年不學輕躁ノ子弟等躬ツカラ天下ノ壯士ト稱シ坊間ニ徘徊シ動モ

166

スレハ人家ニ立入り無用ノ政事談ヲ試ミ家人之ヲ辭スルモ敢テ憚ラ
ス其困縮ヲ視テ愉快ヲ掬スル者不尠其行爲固ヨリ是認スヘキニアラ
スト雖モ其口ニ藉ク所愛國憂事ニアルヲ以テ普通無賴ノ輩トハ稍其
處分ヲ殊別セシコトナキニアラサリシニ世ノ謂ハユル無產無賴ノ輩
之ヲ好機トシ強テ人家ニ立入り甚シキハ多少ノ合力ヲ得ントスルモ
ノ往々有之趣元來交ノ親疎ヲ問ハス談ノ如何タルヲ論セス人ノ謝絶
ニ遭フテ強テ其住居ニ立入り又ハ一旦立入ルノ後家人ノ立去ランコ
トヲ請求シテ之ニ應セサルカ如キハ正シク家宅侵入ノ罪ヲ組成スル
モノニシテ隨テ相當求刑ノ途ナキニアラスト雖モ事毎ニ之ヲ爲スハ
脅ニ被害者ノ本意ニアラサルノミナラス些カ牛刀ノ處分タル嫌アル
ヲ以テ勢ヒ多少ノ考察ヲ費ヤスニ至リ其局終ニ何等問フ所ナキニ於
テハ益彼等ノ横行ヲ逞フシ良民ノ迷惑一方ナラサルニ付自今右等ノ
者ニハ一層注意ヲ加ヘ見付次第相當ノ取調ヲ遂ケ其藉口ノ如何ニ拘
ハラス明治十四年甲第六十號布達第八項ニ適スル事實アリト認メタ
ルトキハ直ニ之ニ照依シ漏ナク處分スヘシ

參考

明治十四年十二月甲第六十號違警罪目

八 強テ合力ヲ甲掛ケ若クハ物品ヲ押賣シタル者

右ノ罰則ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五鎊以上一圓九十五錢以下ノ科料ナリ同日告示第五號ヲ發ス

近來自カラ壯士ト稱シ各地ニ徘徊シ動モスレハ人家ニ立入り政事又ハ金錢貸借等ノ事ニマテ強談或ハ脅迫ノ言ヲ吐キ之ヲ謝絶スルモ容易ニ立去ラサルカ爲迷惑スル者不尠趣右ハ畢竟被害者ニ於テ手數ト後難ヲ厭ヒ申告ノ手續ヲ盡サ、ル者多キカ爲彼等ヲシテ益々増長セシムルノ嫌アリ右等ノ所爲ニ對シテハ固ヨリ法律ノ制裁モ有之モノニ付自今若シ此行爲ニ遭遇シ若クハ見聞スル等ノ事アルニ於テハ速ニ最寄警察官吏ヘ申告スヘシ

明治二十五年六月二十五日

警視總監 園田安賢

爆發物取締内規改正

明治二十五年七月二十九日

爆發物取締内規別紙ノ通改正ス

(別紙)

爆發物取締内規

第一條 官房第一部ニ委員二名ヲ置ク警察署ニハ其管内ノ取締ヲ周

密ナラシムル爲特ニ擔任ノ警部一名ヲ設クヘシ

第二條 委員ハ全般ニ渉ル左ノ簿冊ヲ設ケ取締ノ材料ニ供スヘシ

一 視察名簿索引中別ニ壯士及壯士ヲ使用教唆シ又ハ壯士ト共ニ運動スルモノ、名簿索引

二 壯士ノ住居スル俱樂部又ハ種々ノ名義ヲ用ヒ集會スル場所宿屋下宿屋ノ名鑑簿ヲ設ケ住居ノ年月日、轉居、他行、歸國及ヒ家宅内ニ於ケル舉動、交際者ノ氏名ヲ時々記入スルモノトス

三 府下ニ在ル藥舖、藥種商、繪具染料商、煙火製造人、寸燐製造所、繪畫印刷所ノ名簿ヲ設ケ注意ヲ要スル事項アル都度之ヲ

記入スルモノトス

第三條 警察署擔任警部ハ其所管内ニ屬スル前條第二項第三項ノ名簿ヲ設クヘシ記入方渾テ前條ニ同シ

第四條 警察署擔任警部ハ毎月二回各藥舖、藥種商、繪具染料商ニ就キ爆發物ノ原料トナルヘキ藥品ヲ關フ者ノ氏名人相及其舉動等ヲ視察シ特ニ左ニ記載スル藥質ニ注意スヘシ

- 一 鷄冠石
- 二 雄黃
- 三 雌黃
- 四 金硫黃
- 五 鹽酸加里

第五條 警察署擔任警部ハ毎月二回煙火製造人、寸燐製造所、繪畫印刷所ニ就キ使用ノ藥品ヲ點檢スヘシ

第六條 第四條、第五條視察ノ景況ハ速ニ署長ニ申告シ署長ハ意見ヲ附シ官房第一部長ニ報告スヘシ

第七條 警察署長ハ左ノ事項アル毎ニ即時官房第一部長及關係アル

警察署長ニ報告スヘシ

- 一 壯士ノ舉動ニ注意ヲ要スル事情アルトキ
- 二 壯士ノ轉居又ハ他行歸國スルトキ
- 三 壯士ト認ムヘキモノ新ニ生シタルトキ
- 四 壯士二日以上居所ノ不分明ナルトキ

附則

一 警察署長ハ擔任部ヲ變更シタルトキハ直ニ其氏名ヲ届出ヘシ

繪具染料等ノ爆發性劇毒藥取扱

警察令第十七號 明治二十五年八月一日

繪具染料商ニシテ左ニ記載セル毒藥劇藥ハ封緘シタル容器ヲ開テ零賣スルコトヲ得ス

鹽酸加里(コロール酸カリウム)

重クローム酸カリウム
 鶏冠石、雄黄、雌黄、石黄、硫黄
 ビクリン酸及鹽類
 硝酸 粗製硝酸
 磷酸 粗製磷酸
 硫酸銀

此ノ警察令ニ違背スル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

警察令第十八號 同日

繪具染料商、煙火製造人、寸燐製造人、繪畫印刷人ハ毒藥劇藥ノ收支ニ關スル帳簿ヲ設ケ收支ノ都度之ニ記入スヘシ警察官吏ハ其帳簿及藥品ニ就キ臨時検査スルコトアルヘシ
 前項收支ノ記入ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ム者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以

下ノ科料ニ處ス

丙秘第四七六號官房 明治二十五年九月三日

警察令第十七號ノ件ニ付別紙第一號第二號何ニ對シ第三號第四號ノ通指令相成候ニ就テハ該指令ニ基キ繪具染料商又ハ繪具染料商組合ヨリ警察署ノ檢認ヲ受ケ度旨可申出答ニ付其都度便宜檢認ヲ與ヘラレ候様御取計相成度此段及御通知候也

別紙第一號

警察令第十七號之件ニ付何

本月一日警察令第十七號ヲ以テ鹽酸加里外十二品販賣方ノ護御規定相成候處元來繪具染料品ハ工業原料ニシテ大ニ醫藥ト品質ヲ異ニシ殊ニ容量ノ如キモ假令ハ醫藥硫酸ハ最モ多量一磅以下十八里一樽百十二磅以上凡七八百磅入ニシテ其他一囊一斤ヨリ二三百磅以上ノ大量ナルモノ有之而シテ其容器裝置モ又醫藥ノ如キ整備

セルモノニ無之候就テハ實際私共(繪具染料商)ニ於テ取扱上分
割セサレハ賣買ナシ能ハサル左ノ物品ニ限り封緘ヲ開キ之ヲ他ノ
容器ニ分割シ嚴重封緘ヲ施シ販賣致シ不苦候哉至急何分ノ御指令
被成下度此段奉伺候也

- 一 重コローム酸加里
- 一 ビクリン酸及其鹽類
- 一 粗製硫酸
- 一 粗製硝酸
- 一 石 黃
- 一 雄 黃

以上

東京繪具染料商組合人惣代頭取 小西安兵衛

別紙第二號

前同文 (繪具染料商)ト前文ニアルヲ(繪具染料問屋)ト記ス

東京繪具染料問屋惣代頭取 半田治兵衛

別紙第三號 東京繪具染料商組合惣代頭取 小西安兵衛

指令第二二六號

本年八月九日付ヲ以テ警察令第十七號ニ對スル伺ノ件ハ其申出ノ
通取扱不苦但シ分割シテ更ニ封緘シタルモノハ所轄警察署ノ檢認
ヲ受クヘシ

明治二十五年九月二日

警 視 總 監

別紙第四號

半田治兵衛へノ指令モ同文

旅人宿下宿屋調査

丙第五四五號 明治廿五年九月二十日官房第一部

貴署管内ニ於ケル旅人宿下宿屋等ノ數何ケ所有之候哉今後豫戒令等
施行之際人相書配賦ノ都合モ有之候條御取調へ之上概數御申出相成
度此段及照會候也

探偵者所屬調査

丙第五二三號 明治廿五年九月廿一日

貴官御使用相成居候高等警察探偵者ノ所屬参考上取調ヲ要スル儀有之候ニ付左ノ例ニ由リ御差出相成度

何之誰（雙名）

月手當金何圓

- 一 何政黨員ニシテ專ラ其ノ黨情ヲ探ラシム
 - 二 何々俱樂部又ハ何會員ニ交際シ其ノ内情ヲ探ラシム
 - 三 何レノ政黨又ハ何レノ會員タラサルモ廣ク一般ノ事ニ當ラシム
- 右第一第二ヲ兼ヌルモノハ其ノ關係ノ最モ重キモノヨリ順次御記載可相成且ツ例外必要ト御認ノ事項ハ無論御明記御差出有之度此段及御照會候也

清國人犯罪者引渡

秘第六號

本年六月十三日巡查本部ヨリ回覽ニ及ヒタル清國人口エツク（羅沃）ナルモノ曩ニ英領香港ニ於テ犯罪ノ所爲アリ目下我邦ニ逃亡シ何レニカ潛匿シ居ル模様アリ然ルニ日清兩國間ニ於テハ犯罪人引渡ニ關スル條約アレトモ英國ニ對シテハ右條約ナキヲ以テ英國領事ヨリ右犯罪人逮捕ノ照會アルモ素ヨリ之ニ應スヘキモノニ非ス若シ又犯罪清國人ニ係ルヲ以テ清國領事ヨリ照會アリトスルモ其犯罪地ノ英國ニ關スルモノナル以上ハ是又之ニ應スヘキモノニアラス若シ又英國或ハ清國領事ノ手ニ於テ竊ニ之ヲ逮捕セントスルヤモ難計ニ付十分注意ヲ加ヘ萬一右様ノ所爲アルニ於テハ強テ之ヲ拒絕シ急報スヘシ右訓令ス

明治二十五年十月二十日

警視總監 圓田安賢

大臣警護

内訓

第四議會愈昨日ヲ以テ召集セラレタルニ就テハ各政黨員及各種ノ壯士輩ハ勿論多少政治思想ヲ抱持スル輩ハ遽ニ耳目ヲ聳ツルハ必然ノ勢ニ有之此際青年急激ノ徒或ハ各大臣ノ身上ニ對シ不穩ノ舉ヲ企テントスルモノナキヲ保シ難ク殊ニ總理大臣、内務大臣ニ對シテハ過日來屢々種々ノ匿名投書ヲ爲スモノ有之實ニ彼等ノ舉措ハ出沒極リナク往々視線外ニ逸出スルコトアルヲ免レス萬一ニモ此等不穩ノ計畫等ヲシテ熟セシムルカ如キコト有之候テハ容易ナラサル儀ニ候條一層觀察ヲ周密ニシテ嚴重取締方注意セララルヘシ

右内訓ス

明治二十五年十一月二十六日

警視總監 園田安賢

議員保護

176

丙秘第九六四號

明治二十五年十二月十六日

兩院議員ハ勿論府、市、區會議員ニ對シ議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスルノ目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝スル者アル時ハ明治二十二年法律第二十八號第四條ニ據リ直ニ之ヲ處分セララルヘク總監ノ命ニ依リ此段特ニ申進候也

丙秘第九六七號

同 月十七日

昨十六日丙秘第九六四號ヲ以テ議員保護ノ件ニ付御注意方申進候處右ハ素ヨリ被害者ノ告訴ヲ待テ處分スヘキモノニ有之候ニ付其實事ヲ見聞セシ際ハ可成告訴セシムル様御注意相成度此段申進候也

秘第十一號

議員保護ノ儀ニ就テハ兼テ官房第一部長ヨリ通知セシメタル次第モ有之候處近來民黨選出代議士ハ衆議院ニ於テ多數ヲ以テ通過ンタル

議案ノ往々貴族院ニ於テ遏止セラレ、コトアルヲ以テ彼等ノ意思ヲシテ帝國議會ヲ徹底通過セシメムトスルニハ是非共自家養ノ壯士ヲ使喚シ貴族院議員就中多額納稅者ヲ威迫脅從セシメ衆議院ノ議決ハ箝箝シテ貴族院ヲモ通過セシムルノ外佗策ナシトテ其手段ニ準備中ナル趣右ハ暴力ヲ以テ立法權ヲ侵蝕シ事態容易ナラサル次第ニ付カ、ル舉動アルヲ見聞候ハ、假借ナク相當ノ處分ヲ爲スヘキハ勿論其ノ使喚ニ供スル壯士ニシテ未タ豫戒命令ヲ受ケサルモノニ至リテハ至急報告併セテ其執行ヲ稟請セラルヘシ

但取締向ノ工夫ハ各署ノ便宜ニアリト雖モ可成私服巡查ヲ所在ニ撒布シ各署互ニ氣脈聲息ヲ通シ取締上寬嚴粗密ナク彼等ヲシテ會テ慮威ヲ違フスルノ餘地ナカラシムル様注意セラルヘシ

右訓令ス

明治二十五年十二月廿六日

警視總監 園田安賢

丙第九九三號

明治廿五年十二月二十一日

第一部

- 一 豫戒命令御執行相成候ハ、直ニ一面ハ第一部長へ一面ハ各警察署へ電報ニテ其人名御急報ノ事
- 一 豫戒令執行ノ際ハ命令書全文ヲ記載シタル受書ヲ御徵收ノ上第一部長へ御送付ノ事
- 一 同令御執行ノ際ハ篤ト本人ノ人相別特徵衣類等御書キ取り第一部長へ御送付ノ事

豫戒命令者詳報

番號不明

明治二十六年一月十九日 第一部

御管内居住豫戒命令者ニ對シテハ常ニ御照顧相成ルハ勿論之義ト被相考候就テハ自今毎月二十五日ヲ限り御視察之模様御詳報相成度此段及御照會候也

議會休會ト大臣警護

秘乙第五號 明治二十六年二月九日

衆議院ハ去ル七日上奏案議決後更ニ無期休會ヲ議決シ自ラ其ノ協贊
權ヲ拋棄シタルニ就テハ結局或ハ解散ノ不幸ヲ見ルノ止ムヲ得サル
ニ至ルヤモ難計左ナキタニ物議洶々市虎ノ讒言流行ノ折柄此一報ニ
接スルニ於テハ暴虎憑河ノ徒ニ切リニ無謀輕躁ノ非舉ニ出ルコトナ
キヲ保スヘカラス各署數日來ノ恪勤其ノ被讒誠ニ察スヘシト雖モ天
下ノ形勢ハ如此ノ危險ヲ眈眈シ寸時モ警察ノ晏然タルヲ許サ、ル時
機ナルヲ以テ此ノ際更ニ警部以下ヲ獎勵訓督シテ警戒ヲ嚴ニスヘク
殊ニ國務大臣身邊ニ關スル事ノ如キハ衆議院ノ解散セラル、ト否ト
ニ拘ハフス深ク 宸襟ヲ懸セラレ 御内沙汰ノ次第モ有之ニ付十分
ノ警邏偵察ヲ加ヘ以テ 教慮ヲ安ンシ奉リ候様注意セララルヘシ

秘乙第六號 明治二十六年二月十日

内務大臣ヨリ別紙ノ通訓令セラレタルニ付自今慎重ニ注意テ加ヘ尙
嚴重ニ取締ヲ爲シ以テ國家警察上遺算ナキ様取計ハルヘシ

(別紙)

本日は在廷臣僚及帝國議會ノ各員ニ下サレタル

詔勅ニ對シ奉リ妄リニ是非ノ議論ヲ爲スカ如キハ勿論聊カニテモ
紛更ヲ試ムルカ如キ言論行爲ハ一步モ假借スルコトナク嚴重ノ處
分ヲ要ス若シ新聞演說等ニ於テ右等ノ議論ヲ試ムルモノアラハ新
聞ハ直ニ停止ノ處分ニ及フヘキニ付即時其ノ要領ヲ電報シ指揮ヲ
待ツヘシ又演說ハ法律ニヨリ中止若クハ解散ノ處分ニ及ハルヘシ

内務大臣

豫戒令受命者報告方

丙第一一三號 明治二十六年三月二日

豫戒命令ヲ受ケタル者處分セラレタル節ハ檢事正ヨリ小官へ通知可
相成管ニ有之候處中ニハ其辯明シ能ハサル者モ有之差支へ候趣ニ付
自今御送致ニ相成候節ハ送致目錄書中へ(豫戒令執行者)ノ六字ヲ朱
記シ一見シテ其受命令者タルコトヲ知得セシムル様御取計相成度此
段申進候也

丙第一五四號 明治二十六年三月十二日

豫戒受命令者中一ヶ月間ニ數個所住所ノ移動アリタル時或ハ旅行拘
禁中等ノモノハ毎月視察報告中ニ往々相漏レ候モノ有之取扱上差支
ヲ生シ候間自今左ノ例ニ準シ御内報相成候様致度爲念申進候也
一 二ヶ所以上ノ移動アルトキハ其月最終ノ住所々管ノ警察署ニ於
テ前住所管ノ警察署管居住中ノ舉動ヲ照會シ之ヲ報告ス
一 旅行拘禁中ノ者ハ假令已ニ視察表等ヲ以テ報告済ノモノト雖モ

毎月報告ノ都度其旨ヲ御記入セララルヘキコト

官房ニ視察係署ニ高等專務ヲ借ク

丙第一九四號 明治廿六年四月四日

當部ト各警察署トノ氣脉ヲ通シ且ツ事務敏活ナラシメシメ爲時々左記
人名ノモノヲ差向ケ御打合セ爲致候儀モ有之候條豫ノ御含ミ相成度
此段得貴意候也

- | | | |
|----|-----|-----|
| 警部 | 大鳥居 | 英太郎 |
| 雇 | 池田 | 安孝 |
| 同 | 三原 | 種正 |
| 同 | 坂口 | 賢吉 |

丙第一九三號 明治廿六年四月四日

貴署ニ於テ高等警察視察掛ヲ命セラレタル警部巡查二名此ノ際更ニ

御内報相成度此段及御照會候也

追テ爾今廢吏ノ都度御内報相成度爲念此段申添候也

秘乙第七號 明治廿六年四月五日

高等警察心得

第一條 各警察署ニ高等警察專任ノ警部一人若クハ二人ヲ置ク

第二條 高等警察專任ノ警部ハ警察署長ノ指揮ヲ受ケ高等警察一般ノ事務ヲ處理セム

第三條 警察署長ハ巡查二人以上ヲ擇ミ高等警察專任警部ノ使用ニ當ツ

第四條 高等警察專任ノ警部又ハ附屬ノ巡查ハ第一部長ノ招致ニ應シ其ノ諮問及訓令ヲ受クルコトアルヘシ

第五條 高等警察專任ノ警部及附屬巡查ノ交代シタルトキハ其ノ旨官房第一部長ニ報告セラルヘシ

丙秘第二〇六號 明治廿六年四月七日

本月五日秘乙第七號訓令高等警察主任警部心得第一條中警部一人ノ下「若クハ二人」ノ五字ヲ脱シ又第三條中巡查二人ノ下「以上」ノ二字ヲ脱ス

右總監ノ命ニ依リ及御通知候也

藥品檢認廢止

丙第二六三號 明治二十六年四月二十二日

客年九月丙秘第五〇三號ヲ以テ繪具染料商ニシテ分割シタル藥品檢認ノ義及御通牒候次第モ有之候處今般警察令第十七號同第十八號廢セラレ候ニ就テハ自今右手續ニ不及ハ勿論ニ有之候條爲念此段申進候也

警察令第十號

明治二十五年八月警察令第十七號同第十八號ハ廢止ス

明治二十六年四月二十二日

警視總監 園田安賢

街頭演說取締

警察令第十一號

街路公園或ハ社寺境内ニ於テ風俗ヲ紊リ又ハ政談ニ紛ハシキ口演ヲ爲スヘカラス

若シ之ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

明治二十六年四月二十八日

警視總監 園田安賢

官房警部臨監

秘乙第八號

政談集會臨監ニ付取締上彼此ノ寛猛ナカラシムル爲補助トシテ本廳ヨリ警部ヲ派遣スルコトアルヘシ

右訓令ス

明治二十六年四月二十二日

警視總監 園田安賢

撰國會取締

乙第九號總監 明治二十六年五月二日

撰國會其他取締方ノ儀ニ付別紙ノ通内務大臣ヨリ訓令相成候條此旨心得ラルヘシ

(別紙)

訓令第三二六號



帝國議會會議中ノ狀況ヲ演述スルノ目的ヲ以テ模擬國會其他ノ名義ヲ用ヒ公衆ヲ會同スルモノハ集會及政社法ニ依リ取締ラルヘシ但單ニ偶像ヲ排列シ之ニ人名ヲ附シテ議院内ノ景狀ヲ假裝スル等政事ニ關スル事項ヲ講談論議スルノ事實ナキモノハ此限ニ在ラス

明治二十六年四月二十九日

內務大臣伯爵 井上 馨

露國皇太子殿下御歸國

番外

內務大臣ノ訓令及宮内大臣ノ次官ヘノ通信書寫別紙ノ通ニ付嚴重取締アルヘシ
右訓令ス

明治二十六年五月十七日

警視總監 園田安賢

西郷內務大臣訓令 同 月十七日

露國皇太子殿下十九日出帆御歸航ト決シタルニ就テハ盛ニ政府ヲ攻撃シ大臣ニ危險ヲ加ヘントスルノ手段ヲ逞フシ又露國ニ對シ大ニ怨恨ヲ抱ク等一層ノ紛擾ヲ生スヘキコト必然ニ付嚴重注意保安ヲ維持セラルヘシ

土方宮内大臣ヨリ花房宮内次官ヘ

同日午前二時着

聖上ヘ露國皇太子殿下ヨリ左ノ通電報アリ夫々冒上ニ及ヒ總理大臣ヘモ御通知アリタシ

余カ父タル 皇帝ハ余カ西比利亞ヲ經テノ旅行ヲナスノ前浦鹽斯德ニ於テ暫時休養スルコト必要ナリト判断シ日本ヲ辭シ去ルノ命令ヲ余ニ與ヘタリ依テ余ハ來ル五月十九日即チ火曜日露國ニ向テ直ニ出發スルコトニ決定セリ 陛下ニ暇ヲ乞フ時ニ際シ當國ニ於テ 陛下及其臣民ヨリ受ケタル懇篤ナル待遇ニ就キ更ニ眞實感謝ノ意思ヲ述ヘサルヘカラス余ハ 陛下及 皇后陛下

カ過日來表示セラレタル厚情ハ決シテ忘却セサルヘシ且余ハ自
 ラ 皇后陛下ヘ尊重ナル敬禮ヲ呈スル能ハサルコトヲ深ク遺憾
 トス
 陛下ヨ 希クハ余カ日本ヨリ持チ歸ル處ノ記念ハ臺モ隔意ヲ交
 ヘス唯日本ノ帝都ニ於テ
 兩陛下ニ拜顔スル能ハサリシヲ遺憾トナスコトヲ推察シ賜ハラ
 ンコトヲ

街路諷賣

丙第三九〇號 明治二十六年五月二十五日
 今般違警罪目第十七號追加相成候ニ就テハ此際御注意ノ上違反者ア
 ルトキハ嚴重ニ處分セラレ近來流行ノ弊害ヲ除ク様御取締相成候様
 致度爲念此段申進候也

警察令第十六號

明治十四年十一月第六十號布達違警罪目第十七項
 雜誌雜報類ノ下「又ハ時事ヲ諷刺スル冊子」ノ十一字ヲ挿入ス
 明治二十六年五月二十五日

(参照)

違警罪目抄録
 十七 新聞紙、雜誌、雜報類ヲ路上ニ讀ミ賣シタル者
 警視總監 園田安賢

乞食演說取締

秘乙第十一號

近來浮浪ノ政談日ニ増加シ到ル處ニ詭激粗暴ノ言論ヲ爲シ下等人民
 ノ力爲ノニ感化セラル、者亦從テ少ナカラス遂ニ社會ノ秩序ヲ破
 壞スルニ至ルヘキヲ以テ自今此ノ政談ニハ必ス臨監安寧秩序ニ妨害

アリト認ムル場合ハ勿論苟モ官吏侮辱等ノ口氣アルニ於テハ假借ナク便宜處分セラルヘシ
右内訓ス

明治二十六年五月二十六日

警視總監 園田安賢

丙秘第三九四號 同日

今般秘乙第十一號ヲ以テ乞為政談臨監ノ儀内訓相成候ニ付テハ右臨監ハ警部ヲシテ之ヲ爲サシムル儀ト御承知相成度命ニ依リ此段及通候候也

乞為政談演說會狀況

明治二十六年五月一日調

年度	演說度數	人員	臨監	中止	解散
明治廿四年	一三九	三八一	七六	三七	
明治廿五年 自一月至三月	一六九	三七〇	一六七	八一	
廿五年 自三月至五月	五七	一一二	五七	五七	
廿六年 自一月至三月	六六	一九八	四七	二七	二

政黨員名簿調製

秘乙第十二號

政黨員其他視察者ノ名簿用紙別紙ノ通規定候ニ付右ニ準據シ視察名簿調製セラルヘシ

但シ他管人ニシテ歸郷シタル時ハ其名簿ヲ最終ノ管轄警察署ニ保存シ他日上京シタル時ノ用ニ供シ又ハ他ノ警察署ヨリ請求アルトキ送付スヘキモノトス
右訓令ス

明治二十六年五月二十七日

警視總監 園田安賢

名簿雛形

動 舉	履 歷	前 科	交 際 人 名				家 屬	性 質	主 義 所 屬	原 籍 身 分 及 ヒ 職 業	氏 名	生 年 月 日
							財 產	伎 倆				

丙秘第四〇一號 同日

今般視察名簿用紙規定セラレ候ニ付右記載例別紙之通被定候間此段及御通知候也

追テ視察名簿用紙ハ當部ヨリ可及御送付候也
記載例

- 一 原籍身分及職業ハ二行ニ記ス
- 二 生年月日ヲ知ラサルモノハ明治何年何月何年何月ト記ス
- 三 主義所屬ノ部ニハ本人カ抱持スル所ノ主義及一黨派ニ屬スルモノハ其所屬ヲ記ス
- 四 性質伎倆ハ可成本人ノ性質技藝ヲ詳記シ且特ニ長所アルモノハ之ヲ併記ス
- 五 家屬ノ部ニハ父母存又ハ亡、妻アリ又ハナシ男何人女何人ト記ス
- 六 財産ノ部ニハ地租若干所得稅若干ト記シ尙其知ルヲ得ヘキモノハ家屋其他財産ノ見積代價ヲ記ス



- 七 交際ノ部ニハ平素交際スルモノ、氏名一欄ニ一名ヲ記ス其多數ニシテ記入スルヲ得サルトキハ重ナルモノヲ記ス
- 八 前科ノ部ニハ裁判宣告ノ年月日裁判所ノ名及刑名刑期ヲ記ス
- 九 履歴ノ部ニハ本年五月前ニ係ル經歷ヲ記ス
- 十 出京歸縣寄留地ノ部ニハ其年月日及寄宿シタル場所ヲ記シ轉居シタルトキハ寄留地ノ欄ニ其轉居先ヲ記シ冒頭ノ出京ノ欄ヲ適用シ轉居ノ年月日ヲ其欄ニ記シ且下ニ轉ノ一字ヲ朱書シ以テ新ニ出京シタルモノニアラサルコトヲ示ス
- 十一 舉動ノ部ニハ六月一日以降ニ係ル舉動ヲ一欄内ニ記ス若シ一欄ニ記スルヲ得サルトキハ左欄ニ繼續シ冒頭ノ年月日ニハ朱線ヲ施ス

集會ニ中止セラレタルモノ

丙秘第六八五號 明治二十六年七月七日

集會及政社法第十二條ニ依リ講談論議ヲ停止セラレタルモノハ同一ノ集會ニ於テハ再ヒ講談論議ヲ爲サシメサル議ト御承知相成度候也

丙秘第八四三號 同 年八月五日

政談集會ニ監臨ノ儀ハ警察署ノ都合ニ依リ警部輪番ヲ以テ監臨ノコトモ有之様相聞候處右ハ高等警察專任警部心得第二條ニ依リ專任警部ニ限り監臨セシメ若シ專任警部事故アル時ハ署長ヨリ特ニ指名シ監臨セシメラル、答ニ有之候條爲念此段申進候也

丙第八八三號 同 月十四日

政談集會取締ノ儀ニ付左記ノ件ハ是迄區々ニ涉リ一定セサル由相聞候ニ付自今左之通御心得相成度此段及御通牒候也

一 演說者トシテ届出サル發起人カ開會ノ趣旨ヲ演說スルコト

右届出ハ發起人ニシテ演說者ヲ兼ネサル場合ニ付開會ノ趣旨ヲ演說スルコトヲ得ス

一 發起人ニ代リ開會ノ趣旨ヲ演說シ停止ヲ命セラレタル時ハ其
當日同一ノ場所ニ於テ演說シ得ルヤ
右ノ場合ニ於テハ演說スルヲ得ス

擬國會取扱

丙秘第七八七號 明治二十六年七月二十六日

擬國會ノ儀ニ就テハ本年五月秘乙第九號訓令相成タル次第モ有之候
處其取扱上意見ヲ異ニセラル、哉ニ承知致候ニ就テハ其名稱形狀及
ヒ其講談スル問題ノ如何ニ拘ハラス事ノ政治上ニ關スル以上ハ渾テ
集會及政社法第一條ニ包含シタルモノナルヲ以テ通常ノ政談集會ト
臺モ其取扱ヲ異ニセス隨テ政談届出ノ際擬國會云々ノコトヲ傍記セシ
ムヘキモノニ無之筈ニ候此段爲念申進候也

追テ届出ノ際取締上ノ便宜ヲ以テ擬國會タルヤ否ヲ推問相成ル候
ハ無論差支無之筈ト御承知相成度此段申添候也

柳屋ノ演說會

丙秘第九一一號 明治二十六年八月二十日

本月十九日日本橋區吳服町柳屋ニ於テ壯士輩ノ政談演說會中土肥新
ノ演說ハ監臨警察官ニ於テ治安妨害ト認メ停止ヲ命シタルニ彼レ狂
暴ヲ以テ命令ニ抗拒シ更ニ制止ヲ肯セサルヲ以テ集會政社法第十一
條ニ依リ會場外ニ退出ヲ命シタルモ尙ホ反抗シテ命ニ服セス依テ同
法第二十條ニ觸ル、現行犯トシテ引致セムトスルニ際シ尙ホ且暴行
ヲ以テ巡查ニ抵抗シタリ其所爲ハ集會政社法第二十條竝ニ刑法第百
三十九條ニ該當セル犯罪者ト認メ引致告發セリ猶ホ本會ハ聽衆騷擾
ニ涉リ制止ヲ肯セサルニ付全會ノ解散ヲ命シタリ

發起人代理ヲ認ム

明治二十六年八月二十九日 日本橋署長伺

政談集會發起人ハ集會總テニ付責任ヲ負ヒ居ルモノナレハ會始終ハ場内ニ在リテ其責ニ當ルハ勿論ナリ然ルニ若シ自己ノ都合ニテ會場ヲ去リ他ノ辯士ニ發起ノ代理ヲ爲サシムル如キハ之ヲ無効トナシ集會不成立ト爲シ可然也 將タ代理ヲ有效トスレハ法律ノ制裁ハ兩者何レニ歸セシムヘキヤ

丙秘第九六六號 同日 回答

代理ハ有效ナリ法律ノ制裁ハ發起人ニ歸ス

豫戒令ノ執行

乙秘第五七六號 明治二十六年九月七日

無賴壯士ノ徒々掃蕩シテ更ニ產業ニ就クテ欲セス流浪歸スル所ナク都下ニ横行シテ虛威ヲ恣ニシ決死天誅等故ラニ忌ムヘキノ名稱ヲ冒シテ團體ヲ組成シ世人ノ隱微ヲ侵シ若シクハ譚レナキノ言ヒ懸リテ以テ脅迫シ以テ金錢物品ヲ貪ルテ是レ事トス是レヲ以テ良民殆ント

其業務ニ安ンスル能ハサルニ至レリ乃チ豫戒令ヲ執行シテ之ヲ防遏センコトヲ勉ムルノ止ムテ得サルノ時機ト認メ彼等無賴ノ徒ニ對シ該命令執行候條此段及御内報候也

丙秘第九九七號 同日

本日豫戒令ノ執行相成候ニ就テハ自今若シ他管内ノ未執行者御管内ニ立チ廻ハリ候ハ、便宜上直ニ該命令御執行相成度別紙命令書三葉相添へ此段及御照會候也

同 第九九八號 同日

豫戒令書ニハ該令第五條ニ從ヒ氏名年齢身分職業本籍住所等記載可致答ノ處萬一錯誤有之テハ不都合ニ付氏名ノミ記入御送付候條其他ハ御執行ノ際尙本人御取調ノ上御記入相成候様致度此段及御照會候也

像戒命令執行者

執行年月日

明治二十五年
八月三十日

適一條

第一條第三號

實國

氏

名

同年九月二十五日

第一條第四號

第一條第三號

石川縣士族	新潟縣士族	同	神奈川縣平民	東京府平民	同	同	同	高知縣士族	同	東京府平民	同	廣島縣平民	長野縣平民	群馬縣平民	福島縣士族
-------	-------	---	--------	-------	---	---	---	-------	---	-------	---	-------	-------	-------	-------

稻垣 虎次	岡井 金十郎	赤井 市太郎	後藤 龍一	服部 良介	安藤 寅太郎	今井 寅太郎	諸藤 國一郎	植田 勇智	池田 正猪	前田 耕藏	邦友 家良	南波 登發	小川 平一郎	角田 佐吉	安藤 勇吉
-------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------

同年十二月二十一日

第二條第三號

福岡縣	長野縣	山口縣	滋賀縣	靜岡縣	高知縣	同	茨城縣	同	新潟縣	同	石川縣	福岡縣	同	愛媛縣	神奈川縣	東京府	長野縣	兵庫縣
-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	-----	---	-----	---	-----	-----	---	-----	------	-----	-----	-----

吉永 丑松	榎本 永次郎	松村 猪三郎	宮尾 虎太郎	北島 學太郎	未松 求	浦林 直	藤田 重道	松澤 雄夫	鈴木 立三郎	藤中 觀三郎	山崎 和三郎	三好 虎三郎	岩城 德三郎	松濤 泰近	班目 末之助	中條 安次郎	堀川 正一郎
-------	--------	--------	--------	--------	------	------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------

第二條第三第四

東京府	宮城縣	石川縣	大阪府	東京府	高知縣	石川縣	茨城縣	群馬縣	茨城縣	長野縣	熊本縣	石川縣	東京府	宮崎縣	宮城縣	福井縣
橫山	氏家	岡田	津浦	三浦	宮地	米田	中村	吉田	茂木	玉木	志村	阿部	中村	角田	黒木	佐々木
一平	直人	眞人	宮次郎	龜吉	茂平	吉三郎	信次郎	延太郎	益三郎	常治	友吉	充家	一大郎	實作	木實	早木
																吉

同年十二月二十二日 第二條第三號

同 月二十五日 第一條第三第四
 同 二十六日 第一條第三號

同 二十八日

明治二十六年
 一月十一日
 一月十二日
 一月二十日
 五月十一日

茨城縣	鳥取縣	高知縣	大分縣	和歌山縣	福開縣	島根縣	東京府	高知縣	東京府	鳥取縣	青森縣	新潟縣	東京府	靜岡縣	埼玉縣	茨城縣	千葉縣	高知縣
平野	後藤	野並	田口	淺井	服部	種村	有川	前島	高津	淺田	山口	中村	篠崎	坂卷	小澤	金子	長谷川	澤田
限三	儀太郎	慶定	德一	譽至	季太郎	英太郎	常三郎	浩象	德郎	賀壽衛	義勇	敬太郎	有一郎	茂次郎	清三郎	彌惣	逸東	毅

同年五月二十四日
八月十六日
九月八日

九月九日

第一條第三號
第一條第三第四號

第一條三號

東京府	高知縣	長崎縣	同	茨城縣	鹿兒島縣	同	茨城縣	山口縣	東京府	茨城縣	同	千葉縣	靜岡縣	高知縣	茨城縣	兵庫縣	群馬縣
北村	村山	溝井	藤井	廣島	福島	沼崎	川田	田中	岡庭	小川	石津	石井	山田	北村	小島	山田	新井
善三郎	兔喜衛	精一郎	政次郎	龜之助	武雄	八右衛門	磯吉	作一	源八郎	要亮	寅松	米造	熊三郎	熊三郎	幣吉	茂	伸彌

廣島縣	熊本縣	新潟縣	千葉縣	埼玉縣	東京府	島根縣	福岡縣	兵庫縣	山梨縣	東京府	大阪府	廣島縣	福島縣	神奈川縣	廣島縣	同	茨城縣
滿村	齋藤	山岸	水上	鈴木	森川	梅尾	水田	奧藤	東瀨	倉野	佐藤	中村	阿部	野澤	篠原	三浦	小竹
良次郎	常五郎	又五郎	猪太郎	繼吉	直義	十七生	文太郎	力藏	誠十郎	藤太	吉太郎	文太	友吉	信一	重一	九郎	忠三郎

相馬事件ノ口演

丙秘第一〇一七號 明治二十六年九月十一日

此頃世上ニ喧傳セラル、相馬事件ヲ奇貨トシ壯士ノ徒名ヲ講談又ハ非政談ニ假リ相馬家ニ關スル事項ヲ口演スルモノハ便宜警部又ハ巡查ヲ派遣シ相當御取締相成度此段申進候也

丙秘第一〇二五號 同 月十三日

非政談集會ニシテ政談ニ涉リタル場合ハ其集會ヲ解散スルハ勿論集會及政社法第十四條ニ該當スルモノトシ相當處分ノ手續相成度爲念此段申進候也

演說廣告取締

213 丙秘第一〇八〇號 明治二十六年九月廿二日

一昨二十日午後五時頃芝區西久保櫻川町路上ニ於テ薙ニ政談大演說會

214

ト大書シ竹竿ニ結ヒ旗ト爲シ壯士山崎寅之助、小泉安五郎等演說廣告ノ爲徘徊シタルヲ以テ直ニ差止ノ將來ヲ嚴戒シタル由右ハ取締上劃一ヲ要スル儀ニ有之候ニ付爲念及御通牒候也

監臨警察官ノ處罰

明治二十六年十月十日公報

警視廳警部 角 秀 壽

明治二十六年九月二十六日政談演說會ニ監臨ノ際無届者ヲシテ講談論議セシメタル段職務上不都合ニ付罰俸一ヶ月俸ノ十分ノ一ヲ科ス

發起人代理ノ解釋

丙秘第一三九七號 明治廿六年十一月十七日

政談集會ノ發起人カ辯士ニ其代理ヲ爲サシムルハ有効ナル旨本年八月

二十九日丙秘第九六六號ヲ以テ及通牒候處右發起人ナルモノハ集會及政社法第五條第六條ニ抵觸セサル者ニシテ且同法第二條ニ依リ届出ヲ爲シタル上ニテ始メテ責任ヲ有スルモノナレハ發起者自ラ其全權ヲ辯士ニ行ハシムルコト能ハサルハ勿論ノコトニ有之從テ右代理トアルハ其資格ヲ他ニ委任スルノ謂ニ非スシテ唯自己ノ權内ニ於テ一時或ル事務ヲ他ニ行ハシムルコトヲ指シタルモノニ有之用語上疑義ヲ生スルノ恐レ有之候此段爲念及通牒候也

議會開會中武術練習取止メ

無號第二部長 明治二十六年十一月二十一日

不日帝國議會開會相成ヘクニ付テハ各府縣下ヨリ政黨員又ハ壯士輩等自然府下ニ集合スヘキ例ニ徵シテ明カナル次第ニ有之隨テ警察上之等ニ向テ充分ノ視察ヲ加フヘキハ勿論之ニ伴フテ當時ノ視察モ亦多少ノ繁多ヲ來スヘキハ言テ待タス然ラハ則チ今後議會開會中ハ巡

215

査ニ至ルマテ之等本文ノ職務ニ從事シ周到徹密能ク遺算ナカラシメントセハ日モ亦足ラサルノ感ナキ能ハサルヘシ故ニ是レ迄演習シ來リタル擊劍、柔術ノ如キハ平常ニ在テハ素ヨリ必要ノ事ナリト雖モ今日ノ如ク本務多端ナルノ時ニ方リテハ之ヲ中止シ以テ全力ヲ之ニ注カサルヘカラス就テハ今後議會開會中ハ暫ク右等ノ演習ハ之ヲ休メ其日時ヲ以テ各受持部内ハ勿論管内一般ニ充分ノ視察ヲ加ヘラレ候様御取計可有之命ニ依リ此段及御通達候也

216

外人保護

秘乙第一五號

近來外國人ニ對シ動モスレハ雜言罵詈ヲ爲シ其他穩當ナラサル所爲ヲ爲ス者往々有之哉ニ相聞ヘ候ニ付此際一層嚴重ノ取締ヲ爲シ保護ノ責ヲ怠ラサル様部下巡查ニ訓示セララルヘシ

右訓令ス

明治二十六年十一月二十八日

警視總監 園田安賢

警一ノ第二一三九號 明治廿六年十二月一日

外國人ニ關スル事件ハ細大トナク凡テ書面ヲ以テ上申相成來リ候處
右ハ迅速ヲ要シ候儀ニ付自今取不致第一部長ヘ宛テ電報ヲ以テ御急
報ノ上更ニ書面ヲ以テ委細上申相成度右及御照會候也

豫戒命令解除心得

丙秘第五〇一號 明治二十七年三月二十一日

豫戒受命者ノ行狀謹慎ナルト否ヤトテ斷案スルニ付其調査標準ノ概
要御心得迄ニ及御廻附候也

一 豫戒受命者ニシテ不謹慎ト認ムヘキ標準ノ概要
一 正當ノ業務ニ從事シ自活ノ途ニ就カサルモノ

218

217

- 二 人ノ内事ニ立入り談判擬似ノ形迹アルモノ
 - 三 他人ノ權利内ニ立入り又ハ其意思ヲ變更セシメントスル言動アルモノ
 - 四 他人ニ對シ示威變服スルカ如キ言動アルモノ
 - 五 選舉競争其他職工等ノ沸騰ニ關係シ教唆斡旋ヲ爲スモノ
 - 六 糊口の政談集會ノ發起人又ハ演說者トナリ又ハ政談ヲ爲シテ停止ヲ命セラレタルモノ
 - 七 自身謹慎ヲ表スルモ不謹慎ナル受命者ト同居シ又ハ之ヲ扶助スルカ如キ形迹アルモノ
 - 八 不良ノ徒ト交際スルモノ
 - 九 喧嘩口論ヲ爲シ又ハ違警罪ニ觸レタルモノ
- 但其情狀ヲ斟酌スルモノトス
- 以上各項ノ一ニ牴觸スル者ヲ不謹慎トス

外交問題ニ關スル論議取締

秘乙第七號

日布締結條約中關稅ノ事ニ及ハサリシニ乘シ英國其他諸外國ヲシテ最惠國條疑ニヨリ我ニ不利ナル辭柄ヲ與フルモノトシテ自刃的妄說ヲ鼓吹シ人心ヲ惑感スルカ如キ論議ヲ試ムルハ不臣ノ行爲ト云フモ不可ナカルヘシ凡ソ公法上疑義ニ涉ルモノハ我ニ利益ノ解釋ヲ執ルハ通義アルニモ不拘徒ニ政府ヲ非難スルノ餘勢遂ニ國家ノ不利益ヲ顧ミサルニ至ルハ以テ外ノ事ニ候此際ニ發表セラレタル日布條約ヲ非難スルモノ及ヒ將來締結スヘキ諸外國ニ向テ前段ノ辭柄ヲ與フル如キ論議ヲ爲スモノアレハ假借ナク之カ處分ヲ爲スヘシ

右訓令ス

明治二十七年四月二十一日

警視總監 園 田 安 賢

豫戒命令追令

丙秘第六三五號

明治二十七年四月二十三日

豫戒令第二條第一號ニ依リ一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メ之ニ從事スヘキコトヲ命セラレタル者其命令ヲ遵守セサル場合ニ於テハ更ニ命令ヲ發スヘキヤ否ヤノ儀ニ付其筋へ問合候處右ハ更ニ第一號ノ命令ヲ發スヘキモノニ有之旨回答有之候條此段及御通牒候也

故金玉均葬儀

丙秘第六四九號

明治二十七年四月二十四日

大井憲太郎等故金玉均葬儀執行ノ義ニ付其筋へ問合候處左ノ通回答有之候條爲念及御通牒候也

大井憲太郎等故金玉均葬儀執行ノ義ニ付テハ單ニ知人朋友ノ交誼ニ基クモノナルニ於テハ之ヲ不問ニ附スルモ妨ケナシト雖モ若シ萬一世人若クハ朝鮮國ニ惡感情ヲ與フルカ如キ旗幟ヲ樹テ或ハ異

常ノ行列ヲ爲シ又ハ數年前府下ニ於テ一時流行シ來シタル新聞紙
 葬禮ノ如キ不穩ノ舉動ヲ爲ス等ノ聞エ有之トキハ豫メ發意者ニ不
 都合ナキ様注意ヲ加ヘ尙ホ之ニ服從セサルニ於テハ集會政社法第
 三條三項ニ依リ禁止スヘキモノト思考ス

豫戒受命者舉動報告

丙秘第六八四號 明治二十七年五月一日

豫戒令受命者舉動報告方ニ就テハ昨廿六年一月十九日丙秘第四五號
 付ヲ以テ及御照會有之候處過日謹不謹ノ標準御通知致候ニ付今後ハ
 別紙書式ニ依リ毎項詳ニ御記載相成尙ホ九項以外ニシテ參考トモ可
 相成御報告相成候様致度此段及御照會候也
 二仲受命者舉動ニ付異狀有之候節ハ本文ニ限ラス其時々御内報可
 相成筈ニ候條爲念申添候也

(用紙半紙半枚)

備考	同 第九項同上	同 第八項同上	同 第七項同上	同 第六項同上	同 第五項同上	同 第四項同上	同 第三項同上	同 第二項同上	標準第一項ノ事實ハ如何	秘第 號		氏名
										明治 年 月 日 報	謹慎スルヤ否	
										受命ノ條項		



視察人偵候内規制定

秘乙第九號

高等警察視察人偵候内規別紙之通相定ム

右訓令ス

明治二十七年六月二日

警視總監 園田安賢

視察人偵候内規

第一條 高等警察上視察スヘキ者概ネ左ノ標準ニ據ル

第一類

- 一 政黨員及政黨ニ傾向アル者
- 二 貴衆兩院議員及本廳ノ管轄ニ屬スル地ノ府會市會區町村會議員
- 三 新聞記者通信社員及著述業新聞通信員
- 四 豫戒令受命者及浮浪壯士
- 五 固執セル政治的意見ヲ懷抱シ又ハ危險ナル歴史ヲ有スルモノ
- 六 無産無業ニシテ壯士タラントスル傾向アル青年及洋行歸ノ者

- 七 辯護士及潛代言
- 八 神官僧侶
- 九 退職文武官
- 十 朝鮮國人

第二類

- 一 政黨事務所非政社團體及社交俱樂部
- 二 新聞社及通信社
- 三 活版屋
- 四 旅店料理店待合貸席及遊船宿
- 五 娼妓貸座敷
- 六 銃砲火藥商
- 七 藥舖藥種商及繒具染料商
- 八 燐寸及煙火製造業
- 九 醫師及藥劑師

第二條 視察スヘキモノヲ種別シテ第一種、第二種、第三種、第四種、

第五種トシ警察署長之レヲ定メ第一部長ノ檢考ヲ經ヘシ
其種別ノ變換及視察ノ解除等亦此例ニ依ル

第三條 視察上必要ト認ムル場合ニ於テハ第一部長視察種別内ニ編入
シ警察署長ニ移牒スルコトアルヘシ

第四條 第一種ハ毎日第二種ハ九日第三種ハ十日第四種ハ一ヶ月ニ一
回以上之ヲ偵候スルモノトス其第五種ニ屬スルモノハ署限便宜ノ偵
候ニ付ス

第五條 視察人中言動ニ異狀アルトキハ之ヲ第一部長ニ急報シ其時機
緊急ナルモノハ仍ホ同時ニ關係アル警察署長若クハ他ノ官衙ニ急報
スヘシ此場合ニ於テハ第一部ヘノ報告中某官衙ヘ報告セシコトヲモ
併セテ記載スヘシ

第一條 第二類一號ニ揚クルモノハ狀況及異動、豫戒令受命者ノ行狀
ハ特ニ翌月一日ヲ以テ報告スルヲ要ス

第六條 偵候ハ視察掛巡查ヲ以テ之ニ充ツト雖モ便宜ニ依リ常務巡查
ヲシテ戸口調査又ハ他事ニ托シテ行ハシムルコトヲ得

226

但視察掛巡查ハ制服ヲ着セサルヲ例トス

第七條 警察署長ハ視察巡查ヲシテ其狀況ヲ復命セシムル爲其種別ニ
應シ視察人偵候原簿ヲ作り置復命毎ニ之ヲ記入セシムヘシ

第八條 警察署長及高等警察主任警部ハ巡查復命毎ニ原簿ヲ査閱シ之
ニ認印シ報告ヲ要スルモノト否トヲ甄別シ報告ヲ要スルモノト認メ
タルトキハ第五條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 視察ニ任シタル巡查ハ無論其偵候上ニ就テノ責ニ任スヘシ
第十條 渾テノ報告ハ左ノ心得ニ據ルヘシ

報 告 心 得

一 新ニ視察人ニ編入シタルモノハ先ツ種別編入ノ見込ヲ附シ第一
號表ヲ以テ報告スヘシ

二 第一部長之ヲ査閱シ其詳報ヲ求ムルトキハ之ヲ原警察署長ニ却
送スヘシ(第一號表ノ却送ヲ受ケタルモノハ第二條ニ據クル第一
部長檢考同意ノ者ト看做ス)

三 警察署長第一號表ノ却送ヲ受ケタルトキハ更ニ裏面ノ事項ヲ記

入シ一週間内ニ第一部長ニ送致スヘシ若シ期日内ニ調理シ難キモ
ノハ延期ヲ求ムルコトヲ得ヘシト雖モ形式ニ流ル、コトナク精細
確實ナルヲ要ス

四 府下ノ轉入、歸縣、旅行、府外ヘノ轉出及曾テ視察人名簿登錄
アルモノ、出京ハ第二號表ヲ以テ第一部長ニ報告スヘシ
但出京者ニアリテハ氏名ノ右肩ニ居所ヲ記入スルヲ要ス

五 視察人ノ原動ハ第三號表ヲ以テ報告スヘシ其叙事ノ欄ハ可成文
飾ヲ用ヒス簡明ニシテ事實ヲ盡スコトヲ要ス

本項ノ報告ハ第七、第八ニ掲クル月報ト重複スルヲ妨ケス

六 視察人偵候原簿ハ第四號ノ式ニ依リ各種之ヲ類別調製シ巡查復
命ノ際見聞セル事實ヲ直筆セシムヘシ(假令ハ異常ナシト記サス
誰方ニ趣キ又ハ不在又ハ誰來訪食事中又ハ眠リ居ル等)尤モ既ニ
偵候原簿アリテ更改スヘカラサル事情アルモノハ第一部長ヘ協議
ノ上之ヲ發用スルコトヲ得

七 豫戒受命者一ヶ月間ノ行動ハ第五號表ヲ以テ報告スヘシ

八 新聞紙及雜誌社通信社團體俱樂部等ハ第六號表ニ依リ報告スヘ
シ

九 第一號表視察ヲ要スル構内ニハ第一條ノ種類ヲ明記シ其種類ヲ
兼ヌルモノハ之ヲ併記スヘシ其視察ヲ要スル事實ヲ記入スルハ勿
論トス

(表記載省略)

丙秘第八六七號 明治廿七年六月二日

今般視察人偵候内規訓令相成候ニ就テハ此際左ノ通御取扱相成度此
段及御照會候也

一 現在ノ視察人ハ來ル六日限り種類及視察ノ種類ヲ御差出相成度
一 此際視察ニ附スヘキモノハ左ノ日限ヲ以テ第一號表又ハ第六號
表御差出相成度候

第一類一項乃至六項ノ者 六月十六日限

同七項八項ノ者 同二十六日限
 同九項十項ノ者 同三十日限
 第二類ノ者 同十六日限

丙秘第八八二號 明治二十七年六月五日

視察人偵候内規ニ付八王子警察署長ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候ニ付御參考迄及御通知候也

回答書要領

一 視察スヘキモノハ同種類中第一種タルアリ第二種タルアリ其種類ニヨリ豫メ視察ノ種類ヲ定メ難シ故ニ現在視察人ノ種別ハ氏名ノ頭上ニ種類ト種別ヲ記シテ後視察ニ附スヘキモノハ第一號表ヲ以テ御差出相成ルヘキ儀ニ候

一 内規第一條ニ掲クル各種ノ者ト雖モ悉皆視察人ニ編入スルニアラズ抑モ該標準ヲ定メラレタルモノハ視察スヘキモノヲ遺漏セサ

ランカ爲ナリ故ニ該標準中御撰擇ノ上此際編入スヘキモノハ會テ御照會セシ日限ニ依リ一號表御差出可相成儀ニ候

一 内規第一條第二類三號以下ノ者ハ概ネ視察ノ五種ニ屬スヘシ然レトモ之ヲ四種以上ノ視察ニ附スルトキハ第一號表又ハ第六號表ヲ以テ御報告可相成儀ニ候

一 巡查駐在所受持部内ノ視察者ニ就テモ原簿ヲ備フルヲ要ス但シ其記載ノ順序ハ便宜御施行相成可然候

丙秘第八八三號 明治廿七年六月五日

今般視察人偵候内規訓令相成候ニ就テハ左ノ各項ヲ御承知相成度此段及御通知候也

一 從來視察人臺帳トシテ各署ニ備フル視察表ハ從來ノ通調理スルコト

二 前項視察表ハ冒頭ニ視察種別ヲ記載スルコト

三 視察人ニシテ歸縣又ハ死亡或ハ東京府外へ轉出シタルトキ若ク

- ハ視察ヲ解除セシモノ、視察表ハ當部へ御送附ノコト但シ所在不明者ニ在リテハ搜索ノ上歸縣其ノ仰ノ事實ヲ詳ニシタル上本項ノ手續ヲナス
- 四 前項ノ視察表ハ爾後二號表ノ報告アリタル節之ヲ其警察署へ回送ス
- 五 從前ノ歸縣轉出者ノ視察表ニシテ保存シアルモノハ此際悉皆御送附ノコト
- 六 凡ソ緊急事件ハ先ツ電傳ヲ以テ御急報ノ上尙ホ報告書御差出ノコト
- 七 特別偵候ノ爲尾行逡巡ヲ附テ日々其實況ヲ御報告ノコト
- 八 視察人中第五種御見込ノモノハ第一號表御差出ノ手續ヲ省略シ編入ノ際ハ其種類及住所氏名其解除ニ在リテハ氏名ノミ御報告ノコト

朝鮮出兵

秘乙第一〇號

別紙之通警保局長ヨリ内牒アリタリ
右内訓ス

明治二十七年六月七日

警視總監 岡田 安賢

(別紙)

朝鮮國ノ内亂漸次ニ猖獗ヲ極メ危險ノ虞アリト認メラレタルニ付
同國ニ出兵
仰出サレタリ

右ハ全ク我公使館、領事館並ニ在留臣民保護ノ爲派遣セラレタル
モノニ付此際浮説流言等ニ惑ハサレル者ナキ様注意アリタシ
依命申進ス

明治二十七年六月七日

警 保 局 長

秘乙第十二號

別紙之通内務大臣ヨリ内訓有之候條此旨心得ラルヘシ
右内訓ス

明治二十七年七月四日

警視總監 園田安賢

(別紙)訓第四九三號

今般ノ朝鮮事件ハ其極延テ東洋ノ大局ニ及ホスノ最大事件ニシテ
今後ノ趨勢或ハ破裂スルヤモ難測ニ付歐米各國ニ於テモ深ク注意
スル所ナリ然ルニ粗暴過激ノ聲及壯士等此機ニ乘シ往々一個人或
ハ一團體ヲ組織シ彼國ニ到リ不穩ノ運動ヲ試ミントスルノ徒渺カ
ラス右事件ニ就テハ既ニ政府ニ於テ相當準備ノアルアレハ私力ニ
渡航シ若クハ壯士ヲ派遣スルカ如キハ固ヨリ無益ニ屬シ加之萬一
徒ニ彼等ニ於テ朝鮮若クハ清國等ニ對シ粗暴輕率ノ舉動ヲ試ミ爲
ニ事端ヲ啓キ其曲我ニ歸スルカ如キニ至リテハ我帝國ノ爲ニ意外
ノ不利ヲ招クコトナキヲ保セス故ニ此際一層耳目ヲ張り彼等ニシ

233

234

テ潛ニ爆發物等ヲ準備スルカ如キ其所爲法律規則ニ觸ル、ノ證據
アル時ハ時機ヲ誤タス敏速處分スヘキハ勿論假令法律規則ニ觸ル
ルニ至ラスト雖モ苟モ粗暴輕率ノ舉動ナリト認ムルトキハ懸篤說
諭ヲ加ヘ妄リニ渡韓セサル様便宜取計フヘシ
右内訓ス

明治二十七年七月三日

内務大臣 井上馨

偵候内規取扱

丙秘第九〇〇號 明治二十七年六月七日

視察人偵候内規ニ關シ品川署長へ左ノ通回答候ニ付御參考迄及御通
知候也

視察人偵候内規中引手茶屋ヲ包含スルヤ否御照會相成了承仕候右ハ
娼妓貸座敷ニ附隨スル營業ナルカ故ニ貸座敷ニシテ締リ相付クニ於

テハ特ニ内規中ニ編入ヲ要セストノ旨意ニ有之候尤モ貴署限り常ニ御注意相成候ハ勿論ト被存候

丙秘第九一七號 同日

從來署限り視察セラル、人物ハ一般視察人ニアラサルコト勿論ニ候處昨日限り御差出ノ人名書中混入セル向モ有之候ニ付此際ノ取扱方左ノ通御承知相成度此段及御通知候也

一 此際四種以上ノ偵候ニ附スヘキモノハ新規編入ノ手續ヲ爲スコト

一 引續キ五種ノ偵候ニ附スルモノハ種類及住所氏名御報告ノコト

丙秘第九五七號 明治二十七年六月二十一日

一 昨十九日高等警察主任警部會合ノ節御發議ニ對シテ御答可致旨

一 課長ヨリ申答置タル件ハ左之通御承知相成度此段及御通知候也

一 視察ニシテ一警察署管内中甲地ヨリ乙地へ轉シタルトキハ第二號表ヲ用ヒ氏名ノ肩へ新住所ヲ記シ備考ノ欄ニ管内轉居ト記シ御報告相成度候

一 偵候内規第一條第二項三項以下ノモノハ各御管内ニ於ケル員數少ナカラサルヘシト雖モ素ト其人ノ性行履歷等ニヨリテ取扱シ難キモノナレハ悉ク之ヲ編入セントスルハ不得止儀ト存候尤モ其偵候ハ便宜ナルカ故ニ疎密宜シク御見込ニ應シ御取扱相成度候

一 第一號表科目中前科及資産ハ當部ニテ取調フル様御求ノ相成候向モ有之可成御求ノニ應セントシ取調候處前科ノ方第二部ニ索引ノ現在スルモノ本府ノ外七縣ノミニ有之其外司法省ニテ取調タル全國ノ索引ナキニアラスト雖モ是又明治二十五年以來ノモノ、ミナルカ故ニ當部ニテ之ヲ調フルコト、セハ二科目トモ本人所在及原籍地ニ依リテ取調ヲナシ而シテ又所在ノ警察署長ニ通知セサルヲ得サルニ至リ候ニ付經歷交際人家族公民權等諸目ヲ調フルニ際

シ併セテ警察署ニ於テ御取調相成度候也

丙秘第一〇四四號 明治廿七年七月七日

視察人偵候内規第一條各種類ニ對スル當部ノ意見ハ過日高等警察主任警部會同ノ節第一課長ヨリ申進置候得共口頭ニテハ行違ヲ生スルコトモ可有之ト存候ニ付別書及御通知候條御了知相成度候也

(別紙)

偵候内規第一條ノ種類ニ就キ種別編入ノ見込概數概ネ左ノ如シ但シ種別ノ必要ハ人ニ屬スル者ナレハ豫メ種類ニ依ツテ確定スルニアラス

一 (政黨員及政黨ニ傾向アルモノ)ハ其視察ヲ要スルヤ否ヤヲ甄別シ要スルモノハ一乃至五種ニ編入ス

二 (貴衆兩議院本廳管轄内ノ府會市會區町村會議員)ハ現ニ立法ノ職ニアルモノナレハ苟モ視線外ニ置クコトヲ得ス而シテ貴衆兩院

議員ハ概ネ四種以上ニ編入シ府會市會區町村會議員ニシテ他ノ

種類ニ該當セサルモノハ概ネ五種トス

三 (新聞記者通信社員)ハ其思想ヲ社會ニ發表スルヲ業トスルモノナルカ故ニ視線外ニ置クコトヲ得ス

(著述業新聞通信員)ハ其政治ニ關スル行動アルヤ否ヲ鑑別シテ編入スルト否トヲ定ム

四 (豫戒命令者浮浪壯士)ハ良民ヲ荼毒スルノ害物タリ故ニ之レヲ視線外ニ放置スヘカラサルハ勿論卑クモ二種以上ニ編入セサル可カラス

五 (固執セル政治的意見ヲ抱負シ又ハ危險ナル歴史ヲ有スルモノ)ハ悉ク視察スヘキコト勿論タルノミナラス其視察ノ秤里モ重カラサルヘカラス

六、七、八、九ハ其政治上ノ行動ニヨリ編入スヘキト否トヲ定ムルコト

十 (朝鮮人)ハ目今ノ形勢上忽ニスヘカラサルコト萬人熟知スル所

トス故ニ悉ク視察人トシ且ツ高等ノ種別ニ置クヲ要ス
二類ノ一ニハ四種以上ニ編入スルヲ要ス其理由ハ第一類一三項說
明ニテ御了知アリタシ
同三項以下ハ視察ノ目的方法ヲ異ニスルモノナレハ悉ク視察ニ編
入シ而シテ概ネ五種ニ置クヲ利アリトス

視察人偵候内規改正

秘乙第一三號

視察人偵候内規中左之通追加ス
右訓令ス

明治二十七年七月二十四日

警視總監 關田安賢

第二條但書

但第一條第二類三號以下ノモノハ此限ニアラス

第十條一項及四項末割註

(第一條第二類三號以下ノモノヲ除ク)

丙秘第一一四九號 明治二十七年七月二十五日

今般秘乙第一三號訓令相成候ニ就テハ偵候内規第一條第二類三號以
下ノモノハ總テ區ニ五種ニ編入シ御視察相成ル筈ニ有之候條左様御
了知相成度爲念申進候也

豫戒令ハ他ノ囑托ニ不應

丙秘第一〇八三號 明治二十七年七月十三日

他ノ地方長官ヨリ府下在住者ニ對シ豫戒命令書ヲ發シ執行ヲ囑托ス
ルコトアルモ決シテ其囑托ニ應スヘカラサルコトハ勿論ノ義ニ有之
候得共或ハ解釋ヲ誤リ其囑托ニ應シテ執行スルカ如キコト有之候テ
ハ全ク違法ノ處置ニシテ爲シ得ヘカラサルモノナルコトハ既ニ御承
知相成候得共爲念此段及御通牒候也